

近畿大学附属看護専門学校 2026 SYLLABUS

看護学科

2026年度

情報統計学

曜日・時限		配当学年	1学年	期区分		単位数	1単位	授業方法	講義
開講学科等	看護学科3年課程								
教員名	松尾 拓哉								

科目の目標

論理的思考に基づいて自己の考えを表現し、実証に基づく看護学の実践と病院における情報システムや医療情報の管理方法に関連するコンピュータリテラシーとセキュリティを学ぶ。情報通信技術 (ICT) を活用して、統計学の基礎を学び、看護学研究に実践できる技能を理解する。看護・医療に係わる個人情報保護について学ぶ。

関連教科

論理的思考、社会学、関係法規

時間外学習（予習・復習・課題）

- ・講義は、教科書に従って行います。予習として、それぞれの講義日までに講義内容に該当する教科書の部分（章）を読んでおいて下さい。授業中よく話を聞いて、しっかり理解するように心がけてください。また復習を行って理解を深めるように努力してください。
- ・理解できなかったことは友達に聴いたり、話し合ってください。それでも分からないことは質問してください。内容が多岐にわたりますので毎回、きちんと理解しながら積み上げていきましょう。復習はその日のうちに必ず行う習慣をつけましょう。
- ・iPadを用いた演習に向けて、自身のiPadに近畿大学が契約・提供しているMicrosoft365の設定を必ず済ませ、Word、Excel、PowerPointが使用できる状態にしておいて下さい。

オフィスアワー

講義終了後

成績評価方法・基準

評価項目	割合
終講試験	

テキスト

系統看護学講座 別巻 看護情報学
医学書院 著) 中山 和弘、他6名

参考文献

参考URL

特記事項

「iPadによるExcel操作演習を含む」と記している講義（講義5～講義9）では、iPadを用いた演習を行います。情報統計学の講義開始までに、自身のiPadに近畿大学が契約・提供しているMicrosoft365の設定を必ず済ませ、Word、Excel、PowerPointが使用できる状態にしておいて下さい。

①実務経験のある教員による科目（本務先）
近畿大学 医学部 解剖学教室（非常勤講師）

①実務経験のある教員による科目（専門領域）
解剖学・発生学・先天異常学、医療情報学、医療倫理学

②実務経験のある教員による科目（本務先）

②実務経験のある教員による科目（専門領域）

③実務経験のある教員による科目（本務先）

③実務経験のある教員による科目（専門領域）

④実務経験のある教員による科目（本務先）

④実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑤実務経験のある教員による科目（本務先）

⑤実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑥実務経験のある教員による科目（本務先）

⑥実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑦実務経験のある教員による科目（本務先）

⑦実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑧実務経験のある教員による科目（本務先）

⑧実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑨実務経験のある教員による科目（本務先）

⑨実務経験のある教員による科目（専門領域）

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
講義1 医療における情報倫理・情報セキュリティ【第1章】	<p>医療における情報倫理を理解することができる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療・看護における情報倫理 2. SNSを安全に使うために必要なこと 3. 電子メールのしくみと機能 4. 情報の定義・特徴・特性
講義2 社会と情報【第2章】	<p>社会と情報を理解することができる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 情報社会の成立と発展 2. 情報社会で求められること 3. 情報社会でよりよく暮らすためのスキルやルール
講義3 保健医療における情報【第3章】	<p>情報の信頼性を理解することができる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療における情報 2. エビデンス情報に基づいた保健医療 3. ヘルスプロモーションと情報
講義4 看護と情報【第4章】	<p>看護と情報の関係を理解することができる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護における情報 2. 情報社会と看護 3. 意思決定支援
講義5 統計情報（Excel）【第12章】	<p>情報処理を理解することができる。【第12章】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. データの収集と母集団 2. 統計で用いる関数（Excel演算式） 3. 要約統計量
講義6 要約統計量（Excel）【第13章】	<p>要約統計量の概念を理解することができる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 表計算ソフト（Excel）による要約統計量の概念 2. 要約統計量計算に用いるExcel演算式 3. Excelによる要約統計量の算出準備
-----	<p>タブレットPCの操作を理解することができる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. iPadを立ち上げアプリケーションを使用する。 Word、Excel、PowerPointの基本操作 2. 情報セキュリティ認識を持つ。 3. Excelを用いて要約統計量の算出を行う。 4. 統計検定法の概要

授業計画（回数任意科目）

授業回数	授業内容
	<p>データの管理と処理について理解することができる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. データ間の差を検定する方法 2. 質的データと質的データの関係を調べる。 3. 質的データと量的データの関係を調べる。 4. Excelによる統計学的検定 <ul style="list-style-type: none"> χ²検定、F検定、Studentのt検定、Welchのt検定
	<p>標本（データ）間の差の検定を理解することができる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 量的データと量的データの関係を調べる。 2. Excelによる回帰分析と散布図、回帰分析
<p>講義 10 医療における情報システム【第5章】</p>	<p>医療における情報システムを理解することができる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療における情報の記録 2. ヒヤリ・ハット報告 3. 病院情報システムの記録と仕方 4. 地域医療福祉のネットワークと情報システム
<p>講義 11 情報倫理と医療【第6章】</p>	<p>情報倫理と医療を理解することができる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 情報倫理とは 2. 知的財産権（知的所有権）の尊重 3. プライバシーの尊重 4. 情報の公正な提示 5. 危害を与えないこと
<p>講義 12 患者の権利と情報【第7章】</p>	<p>患者の権利と情報を理解することができる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 患者の権利と自己決定への支援 2. 診療情報の開示
<p>講義 13 個人情報の保護【第8章】</p>	<p>個人情報の保護を理解することができる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療・看護における個人情報および要配慮個人情報 2. 情報利用の仕方 3. 臨床実習・研究における個人情報
<p>講義 14 既存の情報の収集方法【第10章】</p>	<p>既存の情報収集方法を理解することができる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 文献検索 2. インターネット上で役立つ情報へのアクセス 3. データ検索と利用

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
	<p>情報倫理、医療情報倫理、コンピュータリテラシーとセキュリティを理解することができる。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 情報倫理と医療情報倫理の定義・特徴2. コンピュータリテラシーとセキュリティー意識3. ソーシャルメディア（SNS）に関する基礎知識と注意点4. 電子メールのしくみと機能5. コンピュータ利用におけるリスクと自衛

2026年度

社会学講義

曜日・時限		配当学年	1学年	期区分		単位数		授業方法	講義
開講学科等	看護学科3年課程								
教員名	角野 隆則								

科目の目標

人間集団における、また他者とのかかわりにおける社会的な存在としての人間のあり方について理解する。特に看護という営みに深く関連するジェンダー、家族、健康・病気の社会格差、福祉国家、社会保障制度について、社会学的な視点から見るができるようにする。

関連教科

論理的思考 心理学 文化人類学

時間外学習（予習・復習・課題）

講義の内容を普段の生活や具体的な出来事と関連させて考える。

オフィスアワー

講義終了後

成績評価方法・基準

評価項目	割合
ペーパーテスト	
出席および参加姿勢、講義内の課題	

テキスト

特になし（必要な資料は講義にて配布する）

参考文献

井口高志・石川ひろの・佐々木洋子・戸ヶ里泰典（2024）『医学書院』

参考URL

特記事項

配布するプリントは各自管理し、毎回準備。持参すること。

①実務経験のある教員による科目（本務先）

①実務経験のある教員による科目（専門領域）

②実務経験のある教員による科目（本務先）

②実務経験のある教員による科目（専門領域）

③実務経験のある教員による科目（本務先）

③実務経験のある教員による科目（専門領域）

④実務経験のある教員による科目（本務先）

④実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑤実務経験のある教員による科目（本務先）

⑤実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑥実務経験のある教員による科目（本務先）

⑥実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑦実務経験のある教員による科目（本務先）

⑦実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑧実務経験のある教員による科目（本務先）

⑧実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑨実務経験のある教員による科目（本務先）

⑨実務経験のある教員による科目（専門領域）

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
1コマ目	社会学の基本概念・モデル（系統看護学講座 社会学 第1, 2, 10章） ・社会学の基礎概念について学ぶ ・社会学的視点とモデルについて学ぶ
2コマ目	保健医療と社会学（系統看護学講座 社会学 第3, 4, 12章） ・ネットワークと人間関係について学ぶ ・地域社会と保健医療について学ぶ ・社会調査の理論と技法について学ぶ
3コマ目	健康・病気の社会格差（系統看護学講座 社会学 第5, 6章） ・社会格差と平等について学ぶ ・健康・病気の社会格差について学ぶ ・社会研究としてのストレスについて学ぶ
4コマ目	健康・病気と仕事（系統看護学講座 社会学 第7, 9章） ・働き方による健康への影響について学ぶ ・仕事と生活の調和について学ぶ ・患者と医療関係者とのコミュニケーションについて学ぶ
5コマ目	保健医療制度（系統看護学講座 社会学 第13, 14章） ・福祉国家と社会保障制度について学ぶ ・日本の保健医療制度について学ぶ
6コマ目	ジェンダー・家族（系統看護学講座 社会学 第11章） ・性別とジェンダーについて学ぶ ・ジェンダーと健康について学ぶ ・保健医療から見た結婚と家族について学ぶ
7コマ目	まとめ ・これまで学んだことを確認し、具体的なテーマにおいて学んだことを生かして議論できるようにする。

2026年度

社会学演習

曜日・時限		配当学年	1学年	期区分		単位数		授業方法	講義
開講学科等	看護学科3年課程								
教員名	森 健造、藤田 真輔、松田 洋昌、加藤 あゆみ、加納 薫								

科目の目標

大阪狭山市の医療を支えている方の講義を聴き、社会の中で生活し、社会を構築している人々のつながりについて知ることができる。また、地域社会やさまざまなコミュニティが、健康にどのような影響を与えているのかを考えることができる。

関連教科

社会学（講義）、看護学入門、成人看護学総論、老年看護学総論、地域・在宅看護論

時間外学習（予習・復習・課題）

社会学、看護学入門、地域・在宅看護論の講義を通して、看護の対象である人の理解を深めるとともに、自分たちが生活している地域社会のコミュニティに関心を持って参加してください。

オフィスアワー

月～金曜日 9：00～17：00

※上記以外の時間に関しては相談してください。

成績評価方法・基準

評価項目	割合
出席・出席情報・提出物・グループワーク・発表内容	

テキスト

社会学

医学書院

参考文献

参考URL

特記事項

大阪狭山市役所から生涯学習出前講座、大阪狭山市開業医の方の講義を予定していますので、シラバスの予定が前後することがあります。グループワーク・発表は協力し合い、積極的に参加しましょう。

①実務経験のある教員による科目（本務先）

加藤 あゆみ
近畿大学附属看護専門学校

①実務経験のある教員による科目（専門領域）

臨床経験：心臓血管外科、内科（消化器・血液膠原病・腎臓）、皮膚科、形成外科
教員経験：成人看護学

②実務経験のある教員による科目（本務先）

加納 薫
近畿大学附属看護専門学校

②実務経験のある教員による科目（専門領域）

臨床経験：内分泌・代謝内科看護、消化器内科看護、呼吸器内科看護、腫瘍内科看護
教員経験：精神看護学、老年看護学

③実務経験のある教員による科目（本務先）

森 健造
森歯科クリニック 院長

③実務経験のある教員による科目（専門領域）

④実務経験のある教員による科目（本務先）

藤田 真輔
ふじたこどもクリニック 院長

④実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑤実務経験のある教員による科目（本務先）

松田 洋昌
松田皮膚科クリニック 院長

⑤実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑥実務経験のある教員による科目（本務先）

⑥実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑦実務経験のある教員による科目（本務先）

⑦実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑧実務経験のある教員による科目（本務先）

⑧実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑨実務経験のある教員による科目（本務先）

⑨実務経験のある教員による科目（専門領域）

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
1回目～2回目	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティと地域（導入講義） ・大阪狭山市生涯学習出前講座 「消防団の活動について」「本市における救急業務の紹介」 講座を受けたあとは質疑・応答・グループワーク ※来校の調整により日程が前後する可能性があります。コミュニティと地域（講義）
3回目～5回目	大阪狭山市開業医、医院長による講義。 講義を受けたあとは、質疑・応答・グループワーク ※来校の調整により日程が前後する可能性があります。
6回目～7回目	グループワーク・発表準備
8回目	発表会

2026年度

生命倫理

曜日・時限		配当学年	1学年	期区分		単位数	1単位	授業方法	講義
開講学科等	看護学科3年課程								
教員名	森本 誠一								

科目の目標

私たちが〈死ぬ〉というのはどういうことなのでしょう。どうすれば私たちは〈死んでいる〉ことになるのでしょうか。脳死は人の死でしょうか。だとしたら脳死になった人が出産することを私たちはどのように捉えたらいいのでしょうか。また逆に私たちが〈生きている〉というのはどういう状態なのでしょう。お腹の中で寝返りを打つ胎児は生きていると言えるのでしょうか。だとすれば中絶について私たちはどのように考えるべきなのでしょう。

この授業では、人の生き死におよびその規範に関わる問題について、とりわけ現代の医療を取り巻く状況の中で生じてくる生命・医療倫理学上の諸問題について、私たちがどのように考え、どのような態度をとり、どのように行為したりふるまったりするべきなのかを学修します。

関連教科

特になし

時間外学習（予習・復習・課題）

予習内容：授業のテーマについて図書室やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。（90分）

復習内容：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習しましょう。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査しましょう。（90分）

課題：授業での指示に従って課題に取り組みましょう。

オフィスアワー

授業に関する相談・質問は、授業の前後に受けつけます。

成績評価方法・基準

評価項目	割合
終講試験	

テキスト

参考文献

霜田求『テキストブック生命倫理 [第2版]』
法律文化社

参考URL

特記事項

①実務経験のある教員による科目（本務先）

①実務経験のある教員による科目（専門領域）

生命倫理（生殖補助医療、身体拘束の倫理学）

②実務経験のある教員による科目（本務先）

②実務経験のある教員による科目（専門領域）

③実務経験のある教員による科目（本務先）

③実務経験のある教員による科目（専門領域）

④実務経験のある教員による科目（本務先）

④実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑤実務経験のある教員による科目（本務先）

⑤実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑥実務経験のある教員による科目（本務先）

⑥実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑦実務経験のある教員による科目（本務先）

⑦実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑧実務経験のある教員による科目（本務先）

⑧実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑨実務経験のある教員による科目（本務先）

⑨実務経験のある教員による科目（専門領域）

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
講義 1	<p>【患者の権利、インフォームド・コンセントに至るまでの背景】 まず、古典的な医の倫理とされるヒポクラテスの誓いから現代の生命・医療倫理が立ち上がってくるまでの流れを概観します。次に、生命・医療倫理学の成り立ちから出発し、医療倫理の4原則、インフォームド・コンセント、インフォームド・チョイス、セカンド・オピニオンなど、生命・医療倫理学上の基本的な概念を学修します。そのなかで、患者中心の医療とは何かを考えます。</p> <p>【キーワード】 1. ヒポクラテスの誓い 2. ニュルンベルク綱領、ヘルシンキ宣言 3. 医療倫理の4原則、看護倫理の5原則 4. パターナリズム 5. インフォームド・コンセント、インフォームド・チョイス、セカンド・オピニオン 6. 患者中心の医療</p>
講義 2	<p>【生殖補助医療】 日本を含め多くの先進国で出生率が低迷するなか、生殖補助医療は日々進化し続けています。特に日本では、体外受精の件数が世界最多で42万件を超え、不妊の検査や治療を受けたことのある夫婦の割合は5.5組に1組に上ります（2015年）。私たちにとってますます身近になってきた生殖補助医療ですが、技術がもたらす恩恵の陰で考えるべき倫理的問題も少なくありません。今回の授業では、生殖補助技術が進化することで、私たちにどのような医療上の恩恵をもたらし、どのような倫理的影を落とすのか学修します。</p> <p>【キーワード】 1. 晩婚化・晩産化、合計特殊出生率 2. 生殖補助医療 3. 人工授精、体外受精、顕微授精 4. 精子・卵子・受精卵の凍結・提供 5. 精子・卵子・受精卵の提供者のプライバシー、子どもの出自を知る権利 6. 減胎手術（減数手術） 7. 死後生殖</p>
講義 3	<p>【代理出産】 また、何らかの理由により妊娠・出産が困難な女性のために第三者の女性が妊娠・出産を引き受けることを代理出産と言います。どうしても自分たちの遺伝的つながりをもった子どもを欲しいという人たちにとって、代理出産はその思いをかなえてくれる現状ではほぼ唯一の手段です。ただ、代理出産には医学的にも、倫理的、法的、社会的にもさまざまな問題があることを専門家たちは指摘しています。今回の授業では、代理出産とそれが私たちに投げかける問題について学修します。</p> <p>【キーワード】 1. 代理出産、代理懐胎、代理母 2. 商業的代理出産 3. ベビーM事件 4. 子の福祉 5. 家族の複雑化 6. 医療ツーリズム</p>
講義 4	<p>【選択的人工妊娠中絶】 胎児に何らかの障害がある（かもしれない）ということが、妊娠している女性にとって中絶を決断するきっかけとなることがあります。この決断をするまでの過程でパートナーや家族の意見が影響をおよぼすこともあれば、彼女たちを取り囲む社会の状況が影響することもあるでしょう。では、胎児に障害があるという理由で中絶を（決断）することには、何か倫理的問題があるのでしょうか。また、受精卵、胎児、母体などを検査して胎児に障害があるかどうかを調べること、あるいはそうした技術を開発して世に出すことには何か倫理的問題があるのでしょうか。今回の授業では選択的人工妊娠中絶を中心に、生殖補助技術や中絶に関連する倫理学上の議論を学修します。</p> <p>【キーワード】 1. 選択的人工妊娠中絶 2. 着床前診断 出生前診断 遺伝学的スクリーニング 3. 優生思想 優生保</p>
講義 5	<p>【人工妊娠中絶】 現在、日本で行われている人工妊娠中絶の根拠となっている母体保護法について要点を確認しながら、日本の中絶を取り巻く社会的状況について概観します。また、中絶に関する倫理学上の議論を学修します。</p> <p>【キーワード】 1. 人工妊娠中絶 2. 母体保護法 3. カトリック 4. パーソン論</p>
講義 6	<p>【人生の最終段階における医療（終末期医療）】 今回の授業では、国内外の安楽死・尊厳死をめぐる歴史を概観した上で、安楽死・尊厳死についての倫理的議論を学修します。また、人生の最終段階（終末期）における医療での最終的セデーション（鎮静）がどのようなものなのかを確認し、その倫理的問題について学修します。</p> <p>【キーワード】 1. 人生の最終段階における医療、終末期医療 2. 安楽死、尊厳死、自殺幫助 3. QOL、DOL 4. 名古屋安楽死事件、東海大学病院安楽死事件、射水市民病院安楽死事件 5. セデーション（鎮静） 6. 医療ツーリズム 7. トータルペイン</p>

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
講義 7	<p>【脳死・臓器移植】</p> <p>日本では1997年に臓器の移植に関する法律（通称、臓器移植法）が成立・施行されてから2009年、10年の改正・施行を経て現在に至るまで、500件以上の臓器移植が脳死下で行われています。今回の授業では脳死がどのようなものなのかを遷延性意識障害（植物状態）との比較で確認した上で、臓器移植法の要点に触れながら脳死者からの臓器移植についてどのような倫理学的問題が生じるのかを学修します。</p> <p>【キーワード】</p> <p>1. 脳死、植物状態、遷延性意識障害 2. 臓器の移植に関する法律 3. オプト・イン、オプト・アウト 4. 親族への優先提供 5. 未成年者からの臓器移植</p>
講義 8	<p>【身体拘束をめぐる倫理的問題】</p> <p>近年、医療や介護の現場における身体拘束のあり方が注目されています。国は身体拘束ゼロを目指して取り組んでいますが、医療の現場からは身体拘束をなくすことは現実的ではないという批判の声が上がっています。第8回目の授業では、身体拘束をめぐる状況を概観した上で、医療や看護に携わる者として身体拘束を倫理的にはどのように考えるべきなのかを学修します。</p> <p>【キーワード】</p> <p>1. 身体拘束 2. 患者の権利 3. 認知症ケア、高齢者看護 4. 精神科医療、精神看護 5. 小児医療、小児看護</p>

2026年度

家族論

曜日・時限		配当学年	1学年	期区分		単位数	1単位	授業方法	講義
開講学科等	看護学科3年課程								
教員名	藤野 崇、佐藤 美樹								

科目の目標

家族に関する基本的知識・理論を学ぶ。この知識を通して、「今ともに生きている家族、将来自分が築いていく家族のことを考える力を身につける」「患者本人とともに、身体的・精神的そしてスピリチュアルにも揺らぐ体験をする家族を援助する力を身につける」ことが目標である。

関連教科

特になし

時間外学習（予習・復習・課題）

特になし

オフィスアワー

成績評価方法・基準

評価項目	割合
テストによる評価	

テキスト

系統看護学講座 別巻 家族看護学
医学書院

参考文献

参考URL

特記事項

基本的内容は教科書に準じていますが、パワーポイントを中心に講義形式で行う

①実務経験のある教員による科目（本務先）

藤野 崇
近畿大学医学部 看護部

①実務経験のある教員による科目（専門領域）

家族支援専門看護師

②実務経験のある教員による科目（本務先）

佐藤 美樹
大阪府済生会中津病院

②実務経験のある教員による科目（専門領域）

家族支援専門看護師

③実務経験のある教員による科目（本務先）

③実務経験のある教員による科目（専門領域）

④実務経験のある教員による科目（本務先）

④実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑤実務経験のある教員による科目（本務先）

⑤実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑥実務経験のある教員による科目（本務先）

⑥実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑦実務経験のある教員による科目（本務先）

⑦実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑧実務経験のある教員による科目（本務先）

⑧実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑨実務経験のある教員による科目（本務先）

⑨実務経験のある教員による科目（専門領域）

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
1コマ目	家族とは 家族構造 家族機能 現代の家族とその課題
2コマ目	周産期と家族への看護 子どもと家族への看護 家族発達
3コマ目	高齢者のいる家族への看護 介護家族への看護 家族役割
4コマ目	精神疾患患者の家族への看護
5コマ目	急性期と家族への看護 家族危機への介入
6コマ目	慢性期と家族への看護 家族セルフケア力の育成
7コマ目	終末期と家族への看護 家族の意思決定支援

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
8コマ目	様々な家族看護のモデル 事例での家族看護過程の展開

2026年度

自然環境論

曜日・時限		配当学年	1学年	期区分		単位数	1単位	授業方法	講義
開講学科等	看護学科3年課程								
教員名	阿野 貴司								

科目の目標

私たちを取り巻く地球環境の成立過程を概観することで、生物としての命の問題について考えることができるようになりましょう。また、地球環境問題の原因やメカニズムを知ることにより今世紀の地球全体の目標である循環型社会のイメージもクリアーにして自らのライフスタイルに活かせるようにしましょう。

関連教科

特になし。

時間外学習（予習・復習・課題）

簡単な課題が出ますので、予習、復習に役立てながら理解を深めて下さい。

オフィスアワー

成績評価方法・基準

評価項目	割合
課題レポート	

テキスト

参考文献

参考URL

環境省HP : <https://www.env.go.jp/>
環境白書 : <https://www.env.go.jp/policy/>

特記事項

レポートは講義内容を理解していれば自分の考えをまとめて書けるようにしますので毎回の受講を大切にしてください。

①実務経験のある教員による科目（本務先）

①実務経験のある教員による科目（専門領域）

生物工学

②実務経験のある教員による科目（本務先）

②実務経験のある教員による科目（専門領域）

③実務経験のある教員による科目（本務先）

③実務経験のある教員による科目（専門領域）

④実務経験のある教員による科目（本務先）

④実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑤実務経験のある教員による科目（本務先）

⑤実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑥実務経験のある教員による科目（本務先）

⑥実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑦実務経験のある教員による科目（本務先）

⑦実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑧実務経験のある教員による科目（本務先）

⑧実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑨実務経験のある教員による科目（本務先）

⑨実務経験のある教員による科目（専門領域）

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
元素の誕生	地球環境を考えるには、地球環境の成立と生命の進化について考える必要がある。その根源的な物質は元素であり、その成立は宇宙の誕生と進化に関係している。 宇宙の誕生、元素の誕生を知ることによって私たちが何からできているのかについて考えてみたい。
地球の誕生と生物の進化	地球環境の成立過程と生物の進化の関係をj知ることjで進化系統樹について考える。動物、植物、微生物と様々な形態に進化した生物に用いられている遺伝暗号が共通である事、エネルギー物質が同じであること、共通の代謝経路を多く持つことなどから生命進化について考え、生態系について理解するための基礎を作る。
大気と地球環境問題	大気jの構造を知ることjで対流圏に存在する二酸化炭素を代表とする温室効果ガスと地球温暖化の関係を知り、成層圏に存在するオゾンの働きについて知ることjでオゾン層破壊という地球環境問題について考えたい。
腸内細菌と健康	健康を考える上で注目されている腸内細菌について学ぶことjで、腸内環境という体の中に持つ環境と健康について考える。プロバイオティクス、プレバイオティクス等について学ぶとともに発酵食品等の伝統的j食品の重要性についても学ぶ。
生態系	生態系は、物質循環から成り立ち物質的に閉じている。その循環過程にエネルギーが流れることjで、生態系の循環が成立している。動物が排出する二酸化炭素が植物の栄養になるように、誰かのエサは、誰かの排泄物、という関係で物質的に閉じていることから地球環境問題について考察する。
環境問題と歴史	古代文明と崩壊過程を考えることjで、森林と文明の関係性について学び、地球環境問題と森林の重要性について学ぶことjで、環境保全の重要性についての科学的側面について学ぶ。
様々な環境問題	様々な地球環境問題があるが、水不足についての学びを掘り下げることjで、食糧問題との関連性についても考えたい。さらに食料廃棄問題、フードマイレージ等について考えることjで総合的な視野を持つことを目指す。

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
循環型社会	地球環境問題の大きな原因は資源の枯渇と廃棄物の蓄積による汚染である。これら環境問題の生じない社会として循環型社会が提唱されている。循環型社会について学ぶことで今世紀の文明の方向性について科学的に考えたい。

2026年度

解剖生理学 I

曜日・時限		配当学年	1学年	期区分		単位数	1単位	授業方法	講義
開講学科等	看護学科3年課程								
教員名	長野 護、松尾 拓哉								

科目の目標

人体の基本構造を理解し、各臓器の名称、位置、構造およびその働きを説明できる。また、各器官系の構造と生理的役割およびその調節機構を学習し、器官系間の相互作用について説明できる。

関連教科

解剖生理学 2

時間外学習（予習・復習・課題）

講義を受ける前には必ず教科書を読み、予習を行った上で授業に臨んでください。講義後は、受講ノート、板書、配付資料およびテキストなどをもとに「人体の構造と機能ノート」を作成して復習して下さい。

オフィスアワー

成績評価方法・基準

評価項目	割合
終講試験（長野担当）	
終講試験（松尾担当）	

テキスト

系統看護学講座専門基礎 解剖生理学 人体の構造と機能I
医学書院 著）坂井建雄、岡田隆夫

参考文献

解剖学実習ハンドブック

時潮社 2020年3月15日出版 著）松尾拓哉

医療を学ぶ学生のための解剖の手引き ―モチベーションを上げる解剖実習―

時潮社 2016年3月25日出版 著）松尾拓哉、平塚儒子

参考URL

特記事項

①実務経験のある教員による科目（本務先）

長野 護
近畿大学 看護学部看護学科

①実務経験のある教員による科目（専門領域）

解剖学

②実務経験のある教員による科目（本務先）

松尾 拓哉
近畿大学 医学部 解剖学教室（非常勤講師）

②実務経験のある教員による科目（専門領域）

解剖学・発生学・先天異常学・医療情報学・医療倫理学

③実務経験のある教員による科目（本務先）

③実務経験のある教員による科目（専門領域）

④実務経験のある教員による科目（本務先）

④実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑤実務経験のある教員による科目（本務先）

⑤実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑥実務経験のある教員による科目（本務先）

⑥実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑦実務経験のある教員による科目（本務先）

⑦実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑧実務経験のある教員による科目（本務先）

⑧実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑨実務経験のある教員による科目（本務先）

⑨実務経験のある教員による科目（専門領域）

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
<p>栄養の消化と吸収について説明できる。1（図表・表形）</p>	<p>消化管の基本的組織構造について 消化器系の構成について 食物の消化について</p>
<p>栄養の消化と吸収について説明できる。2（図表・表形）</p>	<p>口腔・咽頭・食道の構造と機能について 咀嚼・嚥下について</p>
<p>栄養の消化と吸収について説明できる。3（図表・表形）</p>	<p>胃・小腸・大腸の構造と機能について 食道、胃、小腸、大腸の粘膜構造について</p>
<p>栄養の消化と吸収について説明できる。4（図表・表形）</p>	<p>膵臓の構造と機能について 肝臓と胆嚢の構造と機能について 腹膜、間膜、腹膜後器官について</p>
<p>体液の調節と尿の生成について説明できる。1（図表・表形）</p>	<p>腎臓の構造と機能について 尿生成のメカニズムについて</p>
<p>体液の調節と尿の生成について説明できる。2（図表・表形）</p>	<p>排尿路の構造と機能について 尿の貯蔵と排尿について 体液の調節について</p>
<p>非特異的防御機構について説明できる。1（図表・表形）</p>	<p>皮膚の構造機能について。 非特異的防御機構について。</p>

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
------	------

<p>特殊防御機構と免疫について説明できる。(10分・長期)</p>	<p>特異的防御機構—免疫について 生体防御の関連臓器（リンパ節、粘液付属リンパ組織と扁桃、胸腺、脾臓）について 体温とその調節について</p>
<p>骨格の支持と運動について説明できる。(10分・長期)</p>	<p>ヒトの骨格について 骨の連結について ヒトの骨格筋について</p>
<p>骨格の支持と運動について説明できる。(10分・長期)</p>	<p>体幹の骨格と筋について 上肢の骨格と筋について</p>
<p>骨格の支持と運動について説明できる。(10分・長期)</p>	<p>下肢の骨格と筋について 頭頸部の骨格と筋について</p>
<p>骨格筋の支持と運動について説明できる。(10分・長期)</p>	<p>骨格筋の収縮機構について 骨格筋収縮の種類と特性について 不随意筋の収縮の特徴について</p>
<p>男性および女性の生殖系について説明できる。(10分・短期)</p>	<p>1) 男性生殖器 2) 精子形成 3) 女性生殖器 4) 性周期とホルモン 5) 受胎調節</p>
<p>ヒトの発生および発生異常について説明できる。(10分・短期)</p>	<p>1) 生殖細胞の形成 2) 受精から着床まで 3) 胎生初期から胚子期 4) 胚子期から胎児期 5) 胎生期の循環 6) 誕生 7) 次世代への影響：先天異常（1. 染色体異常 2. 分子遺伝病 3. 環境要因）</p>

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
<p>成長と老化について説明できる。（図表・動画）</p>	<p>成長について説明できる。 1) 成長に影響を与える因子 2) 身長と体重の変化 3) 思春期における性成熟 老化について説明できる 4) 老化のメカニズム 5) 各器官系・組織における老化現象</p>
<p>16</p>	<p>人体解剖学見学実習</p>
<p>17</p>	<p>人体解剖学見学実習</p>
<p>18</p>	<p>人体解剖学見学実習</p>

2026年度

解剖生理学Ⅱ

曜日・時限		配当学年	1学年	期区分		単位数	1単位	授業方法	講義
開講学科等	看護学科3年課程								
教員名	河尾 直之、水上 優哉								

科目の目標
血液系、心臓・循環器系および呼吸器系の構造・機能を含む生命を維持するための機能を理解する。

関連教科
解剖生理学Ⅰ

時間外学習（予習・復習・課題）
配布された講義レジュメだけではなく、教科書を良く読み、解剖学、生理学の知識を身につけて下さい。

オフィスアワー
月曜日16～17時

成績評価方法・基準

評価項目	割合
試験	

テキスト

系統看護学講座 専門基礎1 人体の構造と機能1 解剖生理学
医学書院

参考文献

参考URL
<http://life-science-edu.net/>

特記事項

①実務経験のある教員による科目（本務先）

河尾 直之

近畿大学医学部 再生機能医学教室

①実務経験のある教員による科目（専門領域）

生理学

②実務経験のある教員による科目（本務先）

水上 優哉

近畿大学医学部 再生機能医学教室

②実務経験のある教員による科目（専門領域）

生理学

③実務経験のある教員による科目（本務先）

③実務経験のある教員による科目（専門領域）

④実務経験のある教員による科目（本務先）

④実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑤実務経験のある教員による科目（本務先）

⑤実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑥実務経験のある教員による科目（本務先）

⑥実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑦実務経験のある教員による科目（本務先）

⑦実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑧実務経験のある教員による科目（本務先）

⑧実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑨実務経験のある教員による科目（本務先）

⑨実務経験のある教員による科目（専門領域）

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
1コマ目	心臓・循環－1 1. 循環器系全体について説明できる。 2. 心臓の構造とポンプ機能について説明できる。 3. 心臓の刺激伝導系について説明できる。
2コマ目	心臓・循環－2 4. 心周期について説明できる。 5. 心拍数・心拍出量について説明できる。 6. 心電図について説明できる。 7. 心音について説明できる。
3コマ目	心臓・循環－3 8. 動脈系・静脈系について説明できる。 9. 各血管の構造と機能について説明できる。 10. 血圧測定法の原理について説明できる。
4コマ目	心臓・循環－4 11. 血圧の調節機構について説明できる。 12. 局所循環について説明できる。 13. 循環器系の異常について説明できる。
5コマ目	血液－1 1. 造血系について説明できる。 2. 赤血球の構造と機能について説明できる。 3. 貧血について説明できる。 4. 白血球の種類と白血球による生体防御機能について説明できる。
6コマ目	血液－2 5. 止血機構について説明できる。 6. 血小板について説明できる。 7. 血液凝固・線溶系について説明できる。 8. 血液型について説明できる。 9. 血漿蛋白の機能について説明できる。
7コマ目	呼吸－1 1. 呼吸器系の構造を説明できる。 2. 外呼吸と内呼吸を説明できる。 3. 呼吸の調節機構を説明できる。 4. 胸郭の呼吸運動を説明できる。

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
8コマ目	呼吸－2 5. 肺気量の種類とその容量および生理的意義を説明できる。 6. 肺胞気と血液でのガス交換機構を説明できる。 7. 血液の酸塩基平衡と呼吸とのかかわりを説明できる。 8. 呼吸型の種類とその特徴を説明できる。

2026年度

解剖生理学Ⅲ

曜日・時限		配当学年	1学年	期区分		単位数	1単位	授業方法	講義
開講学科等	看護学科3年課程								
教員名	倉岡 康治、中島 敏								

科目の目標

神経疾患・内分泌疾患の理解の基本となる神経系・内分泌系の解剖と生理を理解する。

関連教科

解剖生理学Ⅰ 解剖生理学Ⅱ

時間外学習（予習・復習・課題）

予習1：復習2

- 1) メールや医学部の研究室（おおさかメディカルキャンパス）への来訪による質問を歓迎する。
- 2) 事前に電子媒体で配布される講義資料の内容を教科書や参考書などで確認しながら勉強すること。
- 3) キーワード集も配布される授業があるが、用語は漢字も含めてきちんと記憶すること。
用語を見たときに、何を示しているか説明できるようにすること。自ら書いてまとめを作ることが望ましい。

オフィスアワー

放課後 16時半以降

おおさかメディカルキャンパス 研究棟3F

※キャンパス運用規則により学生は教員の居室に立ち入れないため、質問等のためにおおさかメディカルキャンパスに来訪する時は、事前にtoxinak@med.kindai.ac.jp（中島）まで連絡のこと。

成績評価方法・基準

評価項目	割合
終講試験	

テキスト

系統看護学講座 専門基礎Ⅰ 人体の構造と機能1 解剖生理学

医学書院

参考文献

からだが見える 人体の構造と機能

メディックメディア

人体の正常構造と機能

日本医事新報社

参考URL

脳科学辞典 <https://bsd.neuroinf.jp/wiki/メインページ>

特記事項

解剖生理学は上記のように様々な科目との関わりがあり、臨床科目の基礎ともなる。疾患の理解は、正常な機能の理解の上に成り立っている。講義中に使用するスライドを電子媒体で事前に配布するが、該当する項目は教科書や参考書をきちんと読んで理解すること。専門用語はきちんと記憶すること。多くの先輩が、解剖生理学をきちんと勉強すればよかったと臨床科目を勉強するときにコメントしている。後悔しないようにきちんと学習をしてほしい。

①実務経験のある教員による科目（本務先）

中島 敏

近畿大学医学部（おおさかメディカルキャンパス）生理学教室

①実務経験のある教員による科目（専門領域）

生理学

②実務経験のある教員による科目（本務先）

倉岡 康治

近畿大学医学部（おおさかメディカルキャンパス）生理学教室

②実務経験のある教員による科目（専門領域）

生理学

③実務経験のある教員による科目（本務先）

③実務経験のある教員による科目（専門領域）

④実務経験のある教員による科目（本務先）

④実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑤実務経験のある教員による科目（本務先）

⑤実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑥実務経験のある教員による科目（本務先）

⑥実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑦実務経験のある教員による科目（本務先）

⑦実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑧実務経験のある教員による科目（本務先）

⑧実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑨実務経験のある教員による科目（本務先）

⑨実務経験のある教員による科目（専門領域）

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
1	<p>内分泌系－1 担当：倉岡 一般目標：ホメオスターシスに重要な役割を果たす内分泌腺と細胞の構造と機能について理解する。 1. 内分泌腺とホルモンの特徴について説明できる。 2. 視床下部－下垂体系、甲状腺、副甲状腺のホルモンの構造と機能について説明できる。</p>
2	<p>内分泌系－2 担当：倉岡 1. 膵臓、副腎、性腺のホルモンの構造と機能について説明できる。 2. ホルモン分泌の調節について説明できる。</p>
3	<p>神経系の構造と機能 担当：倉岡 一般目標：神経系の基本的な構成と神経細胞の機能について理解する。 1. 神経細胞の構造について説明できる。 2. 神経細胞の静止状態と興奮状態について説明できる。 3. 神経興奮の伝導と伝達について説明できる。 自律神経系 担当：倉岡 一般目標：自律神経による調節に関与する神経系の構造と機能について理解する 1. 自律神経系の構造と機能について説明できる。 2. 自律神経系における伝達物質とその受容体について説明できる。</p>
4	<p>中枢神経系と末梢神経系 担当：倉岡 一般目標：中枢神経系の区分とその入出力様式について理解する。 1. 脊髄と脊髄神経の構造と機能について説明できる。 2. 大脳・間脳・小脳・脳幹の構造について説明できる。 3. 脳神経の構造について説明できる。 4. 脳脊髄液について説明できる。</p>
5	<p>感覚機能と上行伝導路 体性感覚・痛覚・聴覚・前庭覚 担当：中島 一般目標：感覚受容器の一般的性質と、体性感覚・味覚・嗅覚・前庭覚を司る感覚受容器および神経伝導路を理解する。 1. 感覚の種類（モダリティ）について説明できる。 2. 種々の体性感覚（機械受容性・温度受容性・痛覚）の性質と機能について概説できる。 3. 上記の体性感覚を司る受容器、伝導路について説明できる。 4. 味覚・嗅覚の性質と機能について概説できる。 5. 味覚・嗅覚の受容器、伝導路について説明できる。 6. 前庭覚の性質と機能について概説できる。 7. 前庭覚を司る受容器、伝導路について説明できる</p>
6	<p>聴覚・視覚 担当：中島 一般目標：聴覚・視覚の受容器・神経伝導路について理解する。 1. 聴覚の性質や機能について概説できる。 2. 聴覚の受容器、伝導路について説明できる。 3. 視覚の性質や機能について概説できる。 4. 視覚の受容器、伝導路について説明できる。</p>
7	<p>運動系 担当：中島 一般目標：神経系における運動制御機能について理解する。 1. 脊髄反射について説明できる。 2. 脊髄の下行性伝導路について説明できる。 3. 大脳皮質の機能局在と運動野の機能について説明できる。 4. 大脳基底核の構造と機能について説明できる。 5. 小脳の構造と機能について説明できる。 6. 上記の構造が傷害された結果としての運動機能障害について説明できる。</p>

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
8	<p>脳の機能局在・高次機能 担当：中島 一般目標：脳の機能局在と高次機能について理解する。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 大脳皮質の機能局在や左右差について説明できる2. 連合野の機能と破壊によって起こる高次機能障害について説明できる3. 記憶とその障害について説明できる4. 言語機能と失語について説明できる5. 睡眠、脳死、植物状態について説明できる

2026年度

細胞生物学

曜日・時限		配当学年	1学年	期区分		単位数	1単位	授業方法	講義
開講学科等	看護学科3年課程								
教員名	岡田 斉、松尾 拓哉								

科目の目標
人体を構成する細胞の構造・機能を知り、生体内における様々な反応について遺伝情報をふまえて理解する。

関連教科
解剖生理学
代謝栄養学

時間外学習（予習・復習・課題）
・毎日の授業を大切に、復習時には単に暗記するだけでなく、自分で考え、理解することが重要です。
・予習は教科書のわからない単語を自分で調べましょう。

オフィスアワー
講義終了後

成績評価方法・基準

評価項目	割合
試験の成績、課題レポート等の提出物と授業への取り組みで総合的に判断します。	

テキスト
系統看護学講座 基礎 生物学
医学書院
系統看護学講座 専門基礎 生化学
医学書院

参考文献
医療を学ぶ学生のための解剖の手引き ―モチベーションを上げる解剖実習―
時潮社 2016年3月25日出版 著) 松尾拓哉、平塚儒子
系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能 1
医学書院

参考URL

特記事項
・授業の前にノートを開き前回の内容を少し見るだけで授業への意欲、理解が相当違います。心がけて下さい。
・ノートは板書事項を写すだけでなく、授業の説明をよく聞いて下さい。
・教師の説明のみならず、他者の発表についてもよく聞いて理解に努めて下さい。
・生化学の講義は教科書に従って行います。復習に重点を置いて下さい。

①実務経験のある教員による科目（本務先）

岡田 斉
近畿大学医学部 生化学教室

①実務経験のある教員による科目（専門領域）

生化学

②実務経験のある教員による科目（本務先）

松尾 拓哉
近畿大学 医学部 解剖学教室（非常勤講師）

②実務経験のある教員による科目（専門領域）

解剖学・発生学・先天異常学・医療情報学・医療倫理学

③実務経験のある教員による科目（本務先）

③実務経験のある教員による科目（専門領域）

④実務経験のある教員による科目（本務先）

④実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑤実務経験のある教員による科目（本務先）

⑤実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑥実務経験のある教員による科目（本務先）

⑥実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑦実務経験のある教員による科目（本務先）

⑦実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑧実務経験のある教員による科目（本務先）

⑧実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑨実務経験のある教員による科目（本務先）

⑨実務経験のある教員による科目（専門領域）

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
1コマ目	<p>生物学からわかること（松尾）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護・医学の基礎科学としての生物学について興味を持つ。 2. 体表から見た人体の構造について興味を持つ。 <p>器官系とからだ（松尾）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 各器官系の働きについて説明できる。 2. 人体内部の腔所について説明できる。 3. 体表から見た人体の構造について概説できる。
2コマ目	<p>細胞の分化とからだのなりたち（松尾）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 上皮組織・腺組織について説明できる。 2. 結合組織について説明できる。 3. 筋組織について説明できる。 4. 軟骨組織・骨組織について説明できる。 5. 神経組織について説明できる。
3コマ目	<p>細胞の構成とからだ（松尾）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 細胞の構造について説明できる。 2. 細胞小器官について説明できる。 3. 細胞分裂（体細胞分裂、減数分裂）について説明できる。 4. 染色体と性の決定について説明できる。
4コマ目	<p>遺伝様式と遺伝病（松尾）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 常染色体顕性遺伝・潜性遺伝について説明できる。 2. 伴性遺伝について説明できる。 <ol style="list-style-type: none"> a. X連鎖顕性遺伝・X連鎖潜性遺伝について説明できる。 b. Y連鎖遺伝病について説明できる。 3. 集団遺伝学（ハーディ・ワインベルグの法則）について興味を持つ。
5コマ目	<p>生化学を学ぶための基礎知識（岡田）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 生体を構成する原子と分子、有機化合物に興味を持つ。 <p>糖質と脂質</p> <ol style="list-style-type: none"> 2) 主な糖質の構造と機能を理解する。 3) 主な脂質の構造と機能を理解する。 4) 脂質を運搬するリポタンパク質の役割について説明できる。 <p>タンパク質と核酸</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) タンパク質の構造と種類について興味を持つ。 2) タンパク質を構成するアミノ酸について理解する。
6コマ目	<p>代謝のあらましと酵素（岡田）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 代謝とは何か説明できる（同化作用と異化作用を理解する）。 2) 主要な消化酵素について説明できる。 <p>糖質代謝</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) グルコースの吸収と代謝を理解する。 2) グルコース代謝を制御するホルモンの働きを理解する。 3) グリコーゲン代謝、糖新生の役割を理解する。
7コマ目	<p>脂質代謝とタンパク質代謝</p> <p>ホルモンと生理活性物質（岡田）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 主な内分泌器官の名称と分泌されるホルモンを説明できる。 2) ホルモンの化学的性質について興味を持つ。 3) 主なホルモンの調節機序（フィードバック調節、拮抗ホルモン、調節ホルモン）について、例を挙げて説明できる。 4) 主なホルモンの正常機能を十分理解し、ホルモン異常症について興味を持つ。 <p>水と無機質</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 体液の構成について理解する。 2) 生体における水分量の調節について説明できる。

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
8コマ目	代謝の異常（岡田） 1) 主なビタミンの機能と欠乏症を説明できる。 2) 糖尿病、ケトアシドーシス、低血糖について興味を持つ。 3) 家族性高コレステロール血症について興味を持つ。 4) 高アンモニア血症について興味を持つ。 5) 痛風について興味を持つ。 6) ビリルビン代謝と黄疸の発症機序及びその病態について興味を持つ。

2026年度

代謝栄養学 I

曜日・時限		配当学年	1学年	期区分		単位数	1単位	授業方法	講義
開講学科等	看護学科3年課程								
教員名	竹森 久美子								

科目の目標
栄養素の種類とそのはたらきを第3者に説明できる。

関連教科
代謝栄養学2、生化学

時間外学習（予習・復習・課題）
講義前後に教科書を読み、予習・復習してください。

オフィスアワー
講義終了後

成績評価方法・基準

評価項目	割合
試験	

テキスト
系統看護学講座専門基礎 人体の構造と機能3 栄養学
医学書院

参考文献
八訂 食品成分表 2026
女子栄養大学出版部

参考URL

特記事項

①実務経験のある教員による科目（本務先）

竹森 久美子

近畿大学農学部 食品栄養学科

①実務経験のある教員による科目（専門領域）

基礎栄養学、分子栄養学、栄養生理学、実験病理学、食品分析学

②実務経験のある教員による科目（本務先）

②実務経験のある教員による科目（専門領域）

③実務経験のある教員による科目（本務先）

③実務経験のある教員による科目（専門領域）

④実務経験のある教員による科目（本務先）

④実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑤実務経験のある教員による科目（本務先）

⑤実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑥実務経験のある教員による科目（本務先）

⑥実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑦実務経験のある教員による科目（本務先）

⑦実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑧実務経験のある教員による科目（本務先）

⑧実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑨実務経験のある教員による科目（本務先）

⑨実務経験のある教員による科目（専門領域）

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
1	栄養素の種類とはたらき 糖質 1) 糖質の種類とはたらきを理解することができる
2	栄養素の種類とはたらき 脂質 1) 脂質の種類とはたらきを理解することができる
3	栄養素の種類とはたらき タンパク質 1) タンパク質の種類とはたらきを理解することができる
4	栄養素の種類とはたらき ビタミン 1) ビタミンの種類とはたらきを理解することができる
5	栄養素の種類とはたらき ミネラル 1) ミネラルの種類とはたらきを理解することができる
6	食物繊維・水 1) 食物繊維の種類とはたらきを理解することができる 2) 水のはたらきを理解することができる
7	栄養素の消化・吸収・体内運搬（消化吸収にかかわる臓器について） 1) 消化吸収に関する臓器の役割について理解することができる

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
8	栄養素の消化・吸収・体内運搬（3大栄養素の消化・吸収） 1）3大栄養素の消化・吸収について理解することができる

2026年度

研究の技法

曜日・時限		配当学年	2学年	期区分		単位数	1単位	授業方法	講義
開講学科等	看護学科3年課程								
教員名	佐藤 栄晃								

科目の目標

1. 看護における研究の意義や科学的に研究するための方法，アカデミックライティングの基礎を学ぶ
2. 検討したいテーマを決め，研究計画を立案し，研究計画を作成する

関連教科

特になし

時間外学習（予習・復習・課題）

配布したレジュメをよく読み，語句の定義や研究を行う基本的な流れをよく理解しておいてください。
また，学術論文の構成や書き方もよく理解しておいてください。

オフィスアワー

成績評価方法・基準

評価項目	割合
テスト	
出席・態度・研究計画書	

テキスト

看護における研究

日本看護協会出版会 著）南 裕子

参考文献

参考URL

特記事項

①実務経験のある教員による科目（本務先）
関西大学心理学研究科 博士課程後期課程満退

①実務経験のある教員による科目（専門領域）
社会心理学、感情心理学

②実務経験のある教員による科目（本務先）

②実務経験のある教員による科目（専門領域）

③実務経験のある教員による科目（本務先）

③実務経験のある教員による科目（専門領域）

④実務経験のある教員による科目（本務先）

④実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑤実務経験のある教員による科目（本務先）

⑤実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑥実務経験のある教員による科目（本務先）

⑥実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑦実務経験のある教員による科目（本務先）

⑦実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑧実務経験のある教員による科目（本務先）

⑧実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑨実務経験のある教員による科目（本務先）

⑨実務経験のある教員による科目（専門領域）

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
第1回	研究とは何か？：研究の役割・研究の種類・研究計画立案から発表まで（研究計画書，論文，学会発表） 研究計画書とは何か？：研究計画書の概要
第2回	研究はどのように行うか？：実験，調査，独立変数と従属変数，研究倫理
第3回	研究計画書の基礎（1）：「目的」「仮説」「方法」の書き方・文献検索の方法
第4回	研究計画書の基礎（2）：「結果」「考察」「引用文献」の書き方
第5回	グループワーク：グループ分けと研究テーマの設定
第6回	グループワーク：研究計画書の作成（1）研究テーマの決定と文献検討
第7回	グループワーク：研究計画書の作成（2）研究方法と研究内容の検討

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
第8回	グループワーク：研究計画発表・研究計画書の提出 振り返り：第1回から第8回までの内容を振り返り、ポイントを整理する。
第9回	試験

2026年度

代謝栄養学Ⅱ

曜日・時限		配当学年	2学年	期区分		単位数	1単位	授業方法	講義
開講学科等	看護学科3年課程								
教員名	梶原 克美								

科目の目標

栄養素の種類とはたらき、栄養と人体の機能とのかかわりを理解することができる。
疾患治療の妨げとなる低栄養リスク低減のため、栄養状態を評価できる知識を身につける。患者ケアを実践する看護師として看護の視点で捉えた情報を専門職種へ連携できるアセスメント能力を身に付ける。ライフステージに応じた食支援と栄養管理の重要性を理解する。

関連教科

代謝栄養学Ⅰ

時間外学習（予習・復習・課題）

看護師として必要とされる栄養管理の視点を講義内容に織り込む

オフィスアワー

月～金 9～17時 要アポイント。PHS 6108

成績評価方法・基準

評価項目	割合
終講テストによる総合評価	

テキスト

系統看護学講座 専門基礎分野 栄養学 人体の構造と機能3

医学書院

参考文献

系統看護学講座 別巻 栄養食事療法

医学書院

参考URL

特になし。

特記事項

①実務経験のある教員による科目（本務先）

梶原 克美
近畿大学病院 栄養部

①実務経験のある教員による科目（専門領域）

栄養学

②実務経験のある教員による科目（本務先）

②実務経験のある教員による科目（専門領域）

③実務経験のある教員による科目（本務先）

③実務経験のある教員による科目（専門領域）

④実務経験のある教員による科目（本務先）

④実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑤実務経験のある教員による科目（本務先）

⑤実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑥実務経験のある教員による科目（本務先）

⑥実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑦実務経験のある教員による科目（本務先）

⑦実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑧実務経験のある教員による科目（本務先）

⑧実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑨実務経験のある教員による科目（本務先）

⑨実務経験のある教員による科目（専門領域）

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
講義 1	栄養における看護の役割とベッドサイドでの栄養状態の評価 1. 栄養と栄養素の違いについて述べるができる。 2. 栄養学の歴史と人間栄養学のとらえ方について説明できる。 3. 医療における栄養の役割、食事療法の医療制度について学ぶ。 4. 食事における看護師の役割が理解できる。 5. チーム医療・地域医療における栄養ケアを理解する。
講義 2	食事と食品 1. 日本人の食事摂取基準が理解できる。 2. 食品と含まれる栄養素について説明できる。 3. 食品群とその分類法について述べるができる。 4. 食品群の特徴、食品の調理の種類を理解する。 5. 食品表示、アレルギー表示、保健機能食品、特別用途食品について理解する。
講義 3	栄養ケア・マネジメント 1. 栄養スクリーニングと栄養アセスメントが理解できる。 2. 栄養評価指標、臨床検査について理解する。 3. 栄養アセスメントツールの種類と項目を学び、自分で判定ができる。 4. 栄養ケア計画を立案できる。 5. 栄養ケアのモニタリングができる。
講義 4	ライフステージと栄養 1. 乳幼児期の特徴と栄養摂取を理解する。 2. 幼児期の特徴と栄養摂取を理解する。 3. 食物アレルギーについて理解する。 4. 学童期の特徴と栄養摂取を理解する。 5. 思春期・青年期の特徴と栄養摂取を理解する。
講義 5	ライフステージと栄養について 1. 成人期の特徴と栄養摂取を理解する。保健指導の評価、健康日本21を理解する。 2. 妊娠期や授乳期の特徴と栄養摂取の要点を理解し妊娠期の栄養に係る問題を述べるができる。 3. 更年期の心身の変化と栄養ケア・マネジメントについて説明できる。 4. 高齢期の消化・吸収機能の変化と、低栄養状態に伴う問題について説明できる。摂食・嚥下障害について理解する。
講義 7	臨床栄養について 1. 病院食の意義と種類について述べるができる。 2. 栄養補給方法（経腸栄養、経静脈栄養）について理解し、合併症発生時の対応を学ぶ。

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
講義 6	<p>臨床栄養（疾患・症状別食事療法）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 低栄養・栄養不良者の食事療法 2. 肥満、メタボリックシンドロームについて理解し目標体重の目安が設定できる。 3. 高血圧、動脈硬化、虚血性心疾患、うっ血性心不全、脳血管障害の食事療法の要点を理解する。 4. 胃・腸疾患の食事療法の要点を理解する。 5. 肝臓・胆嚢・膵臓疾患患者の食事療法の要点を理解する。 6. 糖尿病・脂質代謝異常症・痛風・高尿酸血症の食事療法の要点を理解する。 7. 腎臓病疾患患者の食事療法を理解する。 8. 血液疾患患者の食事療法を理解する。 9. 呼吸器疾患患者の食事療法を理解する。 10. がん患者の食事療法を理解する。 11. 摂食障害の食事療法について学ぶ。 12. 摂食・嚥下障害患者の食事療法について理解する。
講義 7	<p>対象者別、病期別の栄養管理</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 小児の栄養管理（低出生体重児、先天性代謝異常症、食物アレルギー、乳幼児下痢症、小児肥満症）について学ぶ。 2. 妊婦、産婦の栄養管理（糖代謝異常、妊娠高血圧症候群）について理解する。 3. 高齢者のフレイル予防、認知症患者の栄養管理について理解する。 4. 障害児・者、在宅療養者の栄養管理について理解する。 5. 急性期の栄養管理について理解する。 6. 回復期の栄養管理について理解する。 7. 緩和ケア、看取り期における栄養管理について理解する。

2026年度

臨床薬理学総論

曜日・時限		配当学年	1学年	期区分		単位数	1単位	授業方法	講義
開講学科等	看護学科3年課程								
教員名	田淵 正樹								

科目の目標

受講者は、この授業を履修することによって、薬理学の基礎知識を理解し、薬物治療の基本概念について説明することができるようになります。

関連教科

解剖生理学、細胞生物学、臨床薬理学各論

時間外学習（予習・復習・課題）

予習：事前配布する講義資料および指定する教科書の該当ページを熟読しておくこと。
復習と課題：各講義で提示された課題（練習問題）を、配付資料と教科書を用いて解答すること。

オフィスアワー

授業の前後

成績評価方法・基準

評価項目	割合
終講試験評価	

テキスト

系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進[3] 薬理学（第15版）
医学書院 著）吉岡充弘

参考文献

参考URL

特記事項

①実務経験のある教員による科目（本務先）
梅花女子大学 食文化学部 管理栄養学科

①実務経験のある教員による科目（専門領域）
薬理学、基礎栄養学、生化学

②実務経験のある教員による科目（本務先）

②実務経験のある教員による科目（専門領域）

③実務経験のある教員による科目（本務先）

③実務経験のある教員による科目（専門領域）

④実務経験のある教員による科目（本務先）

④実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑤実務経験のある教員による科目（本務先）

⑤実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑥実務経験のある教員による科目（本務先）

⑥実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑦実務経験のある教員による科目（本務先）

⑦実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑧実務経験のある教員による科目（本務先）

⑧実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑨実務経験のある教員による科目（本務先）

⑨実務経験のある教員による科目（専門領域）

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
1	薬理学とは何か？ 看護師が薬理学を学ぶ意義、薬と法律について学ぶ。
2	薬物の標的・作用点、受容体に作用する薬物、酵素に作用する薬物について理解する。
3	薬の体内挙動、薬物の投与経路、投与方法と血中濃度変化について理解する。
4	薬用量、治療係数（安全域）について理解する。 薬物の副作用について理解する。
5	薬物動態、薬効の個人差に影響する因子、妊娠時期と薬物の影響について理解する。
6	薬の併用、薬物相互作用、薬物・食品相互作用について理解する。
7	薬物耐性、薬物依存について理解する。

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
8	新薬の開発、ヘルシンキ宣言、プラセボと二重盲検法について理解する。 臨床薬理学総論のこれまでの講義を総括を行う。

2026年度

臨床薬理学各論

曜日・時限		配当学年	1学年	期区分		単位数	1単位	授業方法	講義
開講学科等	看護学科3年課程								
教員名	田淵 正樹								

科目の目標

受講者は、この授業を履修することによって、各種疾患の治療に用いられる医薬品の作用機序、薬理作用と有害作用（副作用）の関係について説明することができるようになります。

関連教科

臨床薬理学総論、解剖生理学、細胞生物学

時間外学習（予習・復習・課題）

予習：事前配布する講義資料および指定する教科書の該当ページを熟読しておくこと。
復習と課題：各講義で提示された課題（練習問題）を、配付資料と教科書を用いて解答すること。

オフィスアワー

授業の前後

成績評価方法・基準

評価項目	割合
終講試験評価	

テキスト

系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進[3] 薬理学（第15版）

医学書院 著）吉岡充弘

参考文献

参考URL

特記事項

①実務経験のある教員による科目（本務先）
梅花女子大学 食文化学部 管理栄養学科

①実務経験のある教員による科目（専門領域）
薬理学、基礎栄養学、生化学

②実務経験のある教員による科目（本務先）

②実務経験のある教員による科目（専門領域）

③実務経験のある教員による科目（本務先）

③実務経験のある教員による科目（専門領域）

④実務経験のある教員による科目（本務先）

④実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑤実務経験のある教員による科目（本務先）

⑤実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑥実務経験のある教員による科目（本務先）

⑥実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑦実務経験のある教員による科目（本務先）

⑦実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑧実務経験のある教員による科目（本務先）

⑧実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑨実務経験のある教員による科目（本務先）

⑨実務経験のある教員による科目（専門領域）

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
1	末梢での神経活動に作用する薬物（1） 1. 末梢神経系の情報伝達 2. 自律神経系による器官の反応 3. アドレナリン作動薬 4. アドレナリン遮断薬
2	末梢での神経活動に作用する薬物（2） 1. コリン作動薬 2. 抗コリン薬
3	中枢神経系に作用する薬物（1） 1. 催眠薬（睡眠薬） 2. 抗不安薬 3. 抗精神病薬
4	中枢神経系に作用する薬物（2） 1. 抗うつ薬・気分安定薬（抗躁薬） 2. パーキンソン症候群治療薬 3. 抗てんかん薬
5	中枢神経系に作用する薬物（3） 1. 麻薬性鎮痛薬（オピオイド薬）
6	循環器系に作用する薬物（1） 1. 降圧薬 2. 狭心症治療薬
7	循環器系に作用する薬物（2） 1. 心不全治療薬 2. 利尿薬 3. 脂質異常症治療薬

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
8	循環器系に作用する薬物（3） 1. 抗血液凝固薬 2. 抗血小板薬 3. 血栓溶解薬
9	抗アレルギー薬・抗炎症薬（1） 1. 抗ヒスタミン薬と抗アレルギー薬 2. 非ステロイド性抗炎症薬
10	抗アレルギー薬・抗炎症薬（2） 1. 副腎皮質ステロイド（ステロイド性抗炎症薬） 2. 関節リウマチ治療薬
11	呼吸器・消化器系に作用する薬物 1. 気管支喘息治療薬 2. 消化性潰瘍治療薬 3. ヘリコバクター・ピロリ菌の除菌
12	物質代謝に作用する薬物（1） 1. 糖尿病 2. 糖尿病治療薬
13	物質代謝に作用する薬物（2） 1. 血中カルシウム濃度の調節 2. 骨粗鬆症治療薬
14	抗感染症薬 1. 抗菌薬 2. 抗ウイルス薬

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
15	抗がん薬 1. がんの種類、特徴 2. がんの化学療法、副作用 2. 抗がん薬各論

2026年度

病理学総論 1

曜日・時限		配当学年	1学年	期区分		単位数		授業方法	講義
開講学科等	看護学科3年課程								
教員名	井上 敬夫								

科目の目標
看護における病理学の位置づけを理解し、病気の原因や発症・進展、患者への影響など病気の本質について学ぶ。

関連教科
特に無し

時間外学習（予習・復習・課題）
特に無し

オフィスアワー
月～金 10:00-12:00

成績評価方法・基準

評価項目	割合
期末試験	

テキスト

系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進 1 病理学
医学書院

参考文献

参考URL

特記事項

①実務経験のある教員による科目（本務先）

井上敬夫

近畿大学医学部 病理学教室

①実務経験のある教員による科目（専門領域）

病理学

②実務経験のある教員による科目（本務先）

②実務経験のある教員による科目（専門領域）

③実務経験のある教員による科目（本務先）

③実務経験のある教員による科目（専門領域）

④実務経験のある教員による科目（本務先）

④実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑤実務経験のある教員による科目（本務先）

⑤実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑥実務経験のある教員による科目（本務先）

⑥実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑦実務経験のある教員による科目（本務先）

⑦実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑧実務経験のある教員による科目（本務先）

⑧実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑨実務経験のある教員による科目（本務先）

⑨実務経験のある教員による科目（専門領域）

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
1	病理学とは 1. 病気の原因について述べるができる 2. 公害病、医原病、職業がんの例を挙げて説明できる
2	細胞・組織の障害と修復 1. 細胞の損傷と適応現象について述べるができる 2. 細胞の死の種類を挙げて説明できる
3	循環障害① 1. 充血、うっ血、虚血の違いについて述べるができる 2. 浮腫の原因について述べるができる 3. 血栓症と塞栓症について述べるができる
4	循環障害② 1. 梗塞とは何か説明できる 2. 側副循環による障害について述べるができる 3. 高血圧症の分類について述べるができる
5	先天異常と遺伝子異常① 1. 先天異常について述べるができる 2. 遺伝子と染色体について述べるができる
6	先天異常と遺伝子異常② 3. 遺伝子異常と染色体異常について述べるができる 4. 先天異常、遺伝子異常の診断と治療法について述べるができる
7	炎症 1. 炎症について述べるができる 2. 炎症に関わる細胞とその特徴について述べるができる 3. 炎症の種類について述べるができる

2026年度

病理学総論 2

曜日・時限		配当学年	1学年	期区分		単位数		授業方法	講義
開講学科等	看護学科3年課程								
教員名	井上 敬夫								

科目の目標

関連教科
特になし

時間外学習（予習・復習・課題）
特になし

オフィスアワー
月～金 10:00-12:00

成績評価方法・基準

評価項目	割合
終講試験評価	

テキスト

系統看護学講座 病理学 疾病のなりたちと回復の促進①
医学書院

参考文献

参考URL

特記事項

①実務経験のある教員による科目（本務先）

井上 敬夫
近畿大学医学部 病理学教室

①実務経験のある教員による科目（専門領域）

病理学

②実務経験のある教員による科目（本務先）

②実務経験のある教員による科目（専門領域）

③実務経験のある教員による科目（本務先）

③実務経験のある教員による科目（専門領域）

④実務経験のある教員による科目（本務先）

④実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑤実務経験のある教員による科目（本務先）

⑤実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑥実務経験のある教員による科目（本務先）

⑥実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑦実務経験のある教員による科目（本務先）

⑦実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑧実務経験のある教員による科目（本務先）

⑧実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑨実務経験のある教員による科目（本務先）

⑨実務経験のある教員による科目（専門領域）

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
1	<p>感染症</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 感染症を起こす病原体について述べるができる 2. 感染症の治療と予防について述べるができる
2	<p>免疫</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 免疫に関与する細胞について述べるができる 2. 免疫の機構について述べるができる
3	<p>アレルギー</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. アレルギーの分類について述べるができる 2. 代表的なアレルギーとその機序について述べるができる
4	<p>代謝障害①</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生活習慣病とは何か述べるができる 2. 脂質代謝障害の例を挙げて述べるができる 3. タンパク質代謝障害の例を挙げて説明できる
5	<p>代謝障害②</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 糖尿病の分類と合併症について述べるができる 2. その他の代謝障害について述べるができる
6	<p>腫瘍①</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 腫瘍の定義と分類について述べるができる 2. 腫瘍の発生機序について述べるができる
7	<p>腫瘍②</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 腫瘍の転移について述べるができる 2. 腫瘍の進行度について述べるができる

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
8	腫瘍 3 1. 腫瘍の診断方法と治療方法について述べるができる 2. 腫瘍の統計について述べるができる

2026年度

消化器内科

曜日・時限		配当学年	1学年	期区分		単位数		授業方法	講義
開講学科等	看護学科3年課程								
教員名	南 康範、竹中 完、米田 頼晃、大本 俊介、永井 知行								

科目の目標

消化器病学総論：消化管疾患の解剖・生理・主要症候について理解する。
上部消化管疾患：上部消化管疾患の病態・診断・治療について理解する。
下部消化管疾患：下部消化管疾患の病態・診断・治療について理解する。
肝疾患：肝疾患の病態・診断・治療について理解する
膵疾患：膵疾患の病態・診断・治療について理解する。
胆道疾患：胆道疾患の病態・診断・治療について理解する。

関連教科

消化器系内科

時間外学習（予習・復習・課題）

成人看護学5：消化器に記載の内容を理解する。

オフィスアワー

9:00-17:00 月一金

成績評価方法・基準

評価項目	割合
試験により評価する。	
消化器外科と合わせて100点満点の試験となります。	

テキスト

系統看護学講座 専門分野II：消化器（成人看護学5）

医学書院

参考文献

わかりやすい内科学（第5版）

文光堂 著 井村裕夫 編集主幹

内科学書 改訂第9版 vol. 4 消化管・腹膜疾患、肝・胆道・膵疾患

中山書店 南学正臣 総編集、千葉 勉、持田 智 部門編集

病気がみえる vol. 1 消化器 第6版

メディックメディア 著）医療情報科学研究所編

参考URL

特記事項

①実務経験のある教員による科目（本務先）

大本 俊介
近畿大学医学部 内科学教室（消化器内科部門）

①実務経験のある教員による科目（専門領域）

消化器内科

②実務経験のある教員による科目（本務先）

南 康範
近畿大学医学部 内科学教室（消化器内科部門）

②実務経験のある教員による科目（専門領域）

消化器内科

③実務経験のある教員による科目（本務先）

竹中 完
近畿大学医学部 内科学教室（消化器内科部門）

③実務経験のある教員による科目（専門領域）

消化器内科

④実務経験のある教員による科目（本務先）

永井 知行
近畿大学医学部 内科学教室（消化器内科部門）

④実務経験のある教員による科目（専門領域）

消化器内科

⑤実務経験のある教員による科目（本務先）

米田 頼晃
近畿大学医学部 内科学教室（消化器内科部門）

⑤実務経験のある教員による科目（専門領域）

消化器内科

⑥実務経験のある教員による科目（本務先）

⑥実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑦実務経験のある教員による科目（本務先）

⑦実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑧実務経験のある教員による科目（本務先）

⑧実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑨実務経験のある教員による科目（本務先）

⑨実務経験のある教員による科目（専門領域）

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
1コマ目	<p>消化器病学総論：</p> <p>1. 食道の解剖について述べる事ができる。2. 胃の解剖について述べる事ができる。3. 小腸・大腸の解剖について述べる事ができる。4. 肝・胆・膵の解剖について述べる事ができる。5. 消化・吸収の機序について述べる事ができる。6. 消化器の主要症候について述べる事ができる。</p>
2コマ目	<p>上部消化管疾患：</p> <p>1. 各種食道疾患の症状・診断・治療について述べる事ができる。2. 急性胃粘膜病変の症状・診断・治療について述べる事ができる。3. 胃十二指腸潰瘍の症状・診断・治療について述べる事ができる。4. 胃癌の症状・診断・治療について述べる事ができる。5. ヘリコバクターピロリの意義について述べる事ができる。</p>
3コマ目	<p>下部消化管疾患：</p> <p>1. 下部消化管疾患の病名を羅列する事ができる。2. 腸炎の種類について述べる事ができる。3. 急性虫垂炎の診断・治療について述べる事ができる。4. 腸結核、潰瘍性大腸炎、クローン病の診断治療・鑑別診断について述べる事ができる。5. 大腸ポリポシスの種類・診断について述べる事ができる。6. 大腸癌の診断治療について述べる事ができる。7. 腸閉塞の診断治療について述べる事ができる。</p>
4コマ目	<p>肝疾患：</p> <p>1. 肝臓の解剖・機能について述べる事ができる。2. 肝疾患の主要症候について述べる事ができる。3. 黄疸の分類と鑑別診断について述べる事ができる。4. 肝機能検査の意義とその評価について述べる事ができる。5. 肝炎の診断、治療について述べる事ができる。6. 肝硬変の診断、治療について述べる事ができる。7. 肝細胞癌の診断、治療について述べる事ができる。8. 自己免疫性肝疾患（自己免疫性肝炎?原発性胆汁性肝硬変）について述べる事ができる。9. 門脈圧亢進症の診断、治療について述べる事ができる。</p>
5コマ目	<p>胆道疾患：</p> <p>1. 胆道の解剖について述べる事ができる。2. 胆汁産生とビリルビン代謝について述べる事ができる。3. 胆石症及びその合併症の診断、治療について述べる事ができる。4. 原発性硬化性胆管炎の診断、治療について述べる事ができる。5. 胆道の悪性腫瘍の種類、診断、治療について述べる事ができる。6. 主な膵疾患の症状・診断・治療について述べることができる。</p>

2026年度

消化器外科

曜日・時限		配当学年	1学年	期区分		単位数		授業方法	講義
開講学科等	看護学科3年課程								
教員名	新海 政幸、大東 弘治、阿見 勝也、登 千穂子								

科目の目標
消化器疾患の病態と外科治療の適応並びに周術期合併症について理解する。

関連教科
解剖学、病理学、生理学、消化器内科学、外科学

時間外学習（予習・復習・課題）
テキストと配布プリントで予習・復習を。

オフィスアワー
月曜日13:00-15:00
水曜日13:00-15:00

成績評価方法・基準

評価項目	割合
終講試験評価	

テキスト
系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論
医学書院

参考文献

参考URL

特記事項

①実務経験のある教員による科目（本務先）

新海政幸

近畿大学医学部 外科学教室（上部消化管部門）

①実務経験のある教員による科目（専門領域）

外科（上部消化管部門）

②実務経験のある教員による科目（本務先）

大東 弘治

近畿大学医学部 外科学教室（下部消化管部門）

②実務経験のある教員による科目（専門領域）

外科（下部消化管部門）

③実務経験のある教員による科目（本務先）

阿見 勝也

近畿大学医学部 外科学教室（肝胆膵部門）

③実務経験のある教員による科目（専門領域）

外科（肝胆膵部門）

④実務経験のある教員による科目（本務先）

登 千穂子

近畿大学医学部 外科学教室（肝胆膵部門）

④実務経験のある教員による科目（専門領域）

外科（肝胆膵部門）

⑤実務経験のある教員による科目（本務先）

⑤実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑥実務経験のある教員による科目（本務先）

⑥実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑦実務経験のある教員による科目（本務先）

⑦実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑧実務経験のある教員による科目（本務先）

⑧実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑨実務経験のある教員による科目（本務先）

⑨実務経験のある教員による科目（専門領域）

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
1コマ目	<p>食道・胃疾患の病態と外科治療の適応を把握。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 胃と食道の構造と機能を理解する。 2. 食道アカラシアの症状・診断・治療を説明できる。 3. 逆流性食道炎の病態・診断・治療を説明できる。 4. 食道癌の病態・症状・診断・治療を説明できる。 5. 食道癌手術の合併症について理解する。 6. 胃・十二指腸潰瘍に対する手術適応と術式を説明できる。 7. 胃癌の病態・症状・診断・治療を説明できる。 8. 胃癌手術の合併症について理解する。
2コマ目	<p>腸・腹膜疾患の病態と外科治療の適応を把握。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 腸の構造と機能を理解する。 2. 虚血性大腸炎と腸間膜動脈閉塞症の違いを理解する。 3. 潰瘍性大腸炎とクローン病の手術適応を説明できる。 4. 腸閉塞の病態と対応策を理解できる。 5. 腸腫瘍性病変の診断と外科治療を説明できる。 6. 大腸癌および直腸癌手術の合併症を理解する。 7. 急性腹膜炎の病態と対応策を説明できる。
3コマ目	<p>肝疾患の病態と外科治療の適応を把握。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 肝臓の構造と機能を理解する。 2. 原発性肝癌の疫学と分類を説明できる。 3. 良性肝腫瘍の種類と鑑別を説明できる。 4. 肝移植の疫学と適応について説明できる。 5. 肝臓手術の合併症について理解する。
4コマ目	<p>胆・膵疾患の病態と外科治療の適応を把握。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 胆道と膵臓の構造と機能を理解する。 2. 胆石症の成因・分類と治療法を説明できる。 3. 閉塞性黄疸の病態と治療を理解する。 4. 胆道悪性疾患の疫学と分類を説明できる。 5. 胆道系疾患の手術合併症について理解する。 6. 急性膵炎と慢性膵炎の違いを述べることができる。 7. 膵腫瘍の疫学と分類を説明できる。 8. 膵臓手術の合併症について理解する。

2026年度

泌尿器

曜日・時限		配当学年	1学年	期区分		単位数		授業方法	講義
開講学科等	看護学科3年課程								
教員名	藤本西蔵、三木 浩司、中山 堯仁								

科目の目標

以下の項目について述べられる。

1. 泌尿器の解剖・構造・機能
2. 泌尿器科の症候・検査
3. 尿路感染症、尿路結石症
4. 泌尿器科癌
5. 前立腺肥大症
6. 神経因性膀胱、尿失禁
7. 先天性泌尿器疾患、腎移植

関連教科

特になし

時間外学習（予習・復習・課題）

予習は不要ですが、可能なら講義後に教科書と配布資料を読んで下さい。

オフィスアワー

成績評価方法・基準

評価項目	割合
試験評価	
女性生殖器と合わせて100点満点の試験となります。	

テキスト

系統看護学講座専門II 成人看護学8 腎・泌尿器
医学書院

参考文献

参考URL

特記事項

①実務経験のある教員による科目（本務先）

藤本 西蔵

近畿大学医学部 泌尿器科学教室

①実務経験のある教員による科目（専門領域）

泌尿器

②実務経験のある教員による科目（本務先）

三木 浩司

近畿大学医学部 泌尿器科学教室

②実務経験のある教員による科目（専門領域）

泌尿器

③実務経験のある教員による科目（本務先）

中山 堯仁

近畿大学医学部 泌尿器科学教室

③実務経験のある教員による科目（専門領域）

泌尿器

④実務経験のある教員による科目（本務先）

④実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑤実務経験のある教員による科目（本務先）

⑤実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑥実務経験のある教員による科目（本務先）

⑥実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑦実務経験のある教員による科目（本務先）

⑦実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑧実務経験のある教員による科目（本務先）

⑧実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑨実務経験のある教員による科目（本務先）

⑨実務経験のある教員による科目（専門領域）

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
講義 1	泌尿器科総論（解剖、発生ならびに構造、機能）と各論 I（診断方法と尿路感染・尿路結石症について） 腎・尿路の男性性器の解剖ならびに構造、機能を正しく理解できる。 泌尿器科疾患の診断方法（レントゲン検査など）を理解できる。 排尿や尿性状の異常を正しく理解できる。 尿路感染症・尿路結石について正しく理解できる。 腎移植について正しく理解できる。
講義 2	尿路・性器の腫瘍とその手術（特に尿路変更術）について正しく理解できる。
講義 3	前立腺肥大症や神経因性膀胱（尿失禁）について正しく理解できる。 先天性泌尿器疾患について正しく理解できる。

2026年度

女性生殖器

曜日・時限		配当学年	1学年	期区分		単位数		授業方法	講義
開講学科等	看護学科3年課程								
教員名	貫戸 明子、村上 幸祐、高松 士朗								

科目の目標

女性生殖器にまつわる考え方や時代背景から現在に至るまでの変遷と、人権としての性の考え方に触れて、看護を考えるうえで知っておかなければならないことを中心に学ぶ。

関連教科

ジェンダー、倫理、人権、リプロダクティブヘルスアンド
ドライツ、産科、婦人科

時間外学習（予習・復習・課題）

必要に応じて指示します

オフィスアワー

講義内容に関する質問はa-kanto@med.kindai.ac.jpまで
試験は、国家試験過去問に準じた試験形式の出題としま
す

成績評価方法・基準

評価項目	割合
終講試験（講義内容に基づいた選択式問題（国家試験に準じる））	

テキスト

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 女性生殖器 成人看護学⑨
医学書院

参考文献

参考URL

https://www.jsog.or.jp/public/human_plus_dictionary/book_vol2.pdf

特記事項

①実務経験のある教員による科目（本務先）

貫戸明子
近畿大学病院

①実務経験のある教員による科目（専門領域）

産婦人科

②実務経験のある教員による科目（本務先）

村上幸祐
近畿大学病院

②実務経験のある教員による科目（専門領域）

産婦人科

③実務経験のある教員による科目（本務先）

高松士朗
近畿大学病院

③実務経験のある教員による科目（専門領域）

産婦人科

④実務経験のある教員による科目（本務先）

④実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑤実務経験のある教員による科目（本務先）

⑤実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑥実務経験のある教員による科目（本務先）

⑥実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑦実務経験のある教員による科目（本務先）

⑦実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑧実務経験のある教員による科目（本務先）

⑧実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑨実務経験のある教員による科目（本務先）

⑨実務経験のある教員による科目（専門領域）

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
1 思春期（担当 貴戸明子）	男女の違い、ジェンダー、多様な性のあり方、人工妊娠中絶、ピル、DV、ダイエットと拒食/過食、子宮頸がんワクチンなどについて解説する
2 将来の妊娠のために（担当 村上幸祐）	妊娠にまつわる基本的なこと、不妊症や不妊治療について解説する
3 青年期から中高年期（担当 高松士朗）	キャリア、月経周期、子宮筋腫、子宮内膜症、若い女性のがん、閉経、更年期、骨粗鬆症、骨盤臓器脱などについて解説する

2026年度

循環器内科

曜日・時限		配当学年	1学年	期区分		単位数		授業方法	講義
開講学科等	看護学科3年課程								
教員名	中澤 学、上野 雅史、野田 崇、安岡 良文								

科目の目標
循環器一般の基礎的知識の獲得

関連教科
特になし

時間外学習（予習・復習・課題）
特になし

オフィスアワー
月～金 9時から17時

成績評価方法・基準

評価項目	割合
テスト+出席点	
循環器系外科と合わせて100点満点の試験となります。	

テキスト
系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学3 循環器
医学書院

参考文献

参考URL

特記事項

①実務経験のある教員による科目（本務先）

中澤 学
近畿大学医学部 内科学教室（循環器内科部門）

①実務経験のある教員による科目（専門領域）

循環器内科

②実務経験のある教員による科目（本務先）

野田 崇
近畿大学医学部 内科学教室（循環器内科部門）

②実務経験のある教員による科目（専門領域）

循環器内科

③実務経験のある教員による科目（本務先）

上野 雅史
近畿大学医学部 内科学教室（循環器内科部門）

③実務経験のある教員による科目（専門領域）

循環器内科

④実務経験のある教員による科目（本務先）

安岡 良文
近畿大学医学部 内科学教室（循環器内科部門）

④実務経験のある教員による科目（専門領域）

循環器内科

⑤実務経験のある教員による科目（本務先）

⑤実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑥実務経験のある教員による科目（本務先）

⑥実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑦実務経験のある教員による科目（本務先）

⑦実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑧実務経験のある教員による科目（本務先）

⑧実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑨実務経験のある教員による科目（本務先）

⑨実務経験のある教員による科目（専門領域）

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
1コマ目	心臓の解剖と生理① 1. 心臓の大まかな構造（心房、心室、4つの弁など）を理解する。 2. 体循環と肺循環、弁の機能と開閉のタイミングなどを理解する。 3. 心臓の機能と心音の関係を理解する。
2コマ目	心臓の解剖と生理② 1. 心臓の血管系（冠動脈と冠静脈）を理解する 2. 心臓の電氣的興奮と刺激伝導系を理解する。 3. 心臓の電氣的興奮と心電図との関連を理解する。
3コマ目	心不全・冠動脈疾患 1. 心不全を右心不全と左心不全にわけて説明できる 2. 心不全の内科的治療を簡単に説明できる 3. 冠動脈疾患（虚血性心疾患）の種類を説明できる 4. 心筋梗塞と狭心症の違いを説明する 5. 冠動脈疾患の薬物療法について説明できる 6. 冠動脈疾患に対する経皮的動脈形成術について適応と合併症、その後の手術適応について説明する
4コマ目	不整脈と心電図異常、その他 1. 不整脈の種類（期外収縮、頻脈、徐脈）を理解する。 2. 不整脈の心電図を理解する。 3. 不整脈の症状を理解する。 4. 虚血性心疾患の心電図変化を理解する。 5. 心不全の病態と症状の復習
5コマ目	高血圧・心筋症・弁膜症・心膜疾患・肺血管疾患 1. 高血圧の病態と治療を理解できる 2. 心筋症の種類と病態について理解する 3. 各種心臓弁膜症についてその病態と治療を理解する 4. 心膜疾患・感染性心膜炎について理解する 5. 肺血管疾患について理解する

2026年度

論理的思考

曜日・時限		配当学年	2学年	期区分		単位数	1単位	授業方法	講義
開講学科等	看護学科3年課程								
教員名	鳥平 純子								

科目の目標

他者の思考や表現について理解する力を養い、同時に自らの考えについて整理し、論理的かつ効果的に表現する方法を養う。

今後レポート作成や研究報告などで必要となる文章力や表現力を養う。

関連教科

文学 社会学 文化人類学

時間外学習（予習・復習・課題）

講義以外でも読む・書く・聞く・話すなどの行為に意識的になり、講義で取り上げた内容を積極的に活用してほしい。

オフィスアワー

講義終了後

成績評価方法・基準

評価項目	割合
テスト	
レポート	
講義における取組、課題	

テキスト

特になし（必要な資料等は適宜配布します）

参考文献

看護学生が身につけたい 論理的に書く・読むスキル

医学書院 著）福澤一吉

読書術

岩波書店 著）加藤周一

参考URL

特記事項

配布するプリントは各自管理し、毎回準備・持参すること。

新型コロナウイルス感染症の拡大状況によっては、授業方法や成績評価方法について変更を余儀なくされることがある。変更する際は、授業等を通じて受講者に周知する。

障害や難病により、合理的配慮を必要とする者は、事務室をとおして講師に連絡すること。なお、このとき、障害者手帳や特定医療費（指定難病）受給者証の所有有無は問わない。

①実務経験のある教員による科目（本務先）
いろいろ書房

①実務経験のある教員による科目（専門領域）
文学

②実務経験のある教員による科目（本務先）

②実務経験のある教員による科目（専門領域）

③実務経験のある教員による科目（本務先）

③実務経験のある教員による科目（専門領域）

④実務経験のある教員による科目（本務先）

④実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑤実務経験のある教員による科目（本務先）

⑤実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑥実務経験のある教員による科目（本務先）

⑥実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑦実務経験のある教員による科目（本務先）

⑦実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑧実務経験のある教員による科目（本務先）

⑧実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑨実務経験のある教員による科目（本務先）

⑨実務経験のある教員による科目（専門領域）

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
1コマ目	<p>イントロダクション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本講義で扱う内容について確認する。 ・論理的思考の定義と、なぜ論理的思考が必要なのかを確認する。
2コマ目	<p>他者とのコミュニケーションを円滑にするための一般教養を学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般教養とは何か、どう身につけるのかを確認する。
3コマ目	<p>文章を読む</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文章を適切に読み取り、理解する際に必要な技術などについて確認する。 ・「読むこと」の基礎的技術について課題をとおして確認する。
4コマ目	<p>メディア・リテラシー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報の調べ方、読み方、見極め方、発信について知る。
5コマ目	<p>文章を書く</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文章を書く際のルールについて確認する。 ・文章に必要な要素、読み手に伝わる形式などについて課題を通して確認する。
6コマ目	<p>文章を書く（2）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文章を書く際のルールについて確認する。 ・文章に必要な要素、読み手に伝わる形式などについて課題を通して確認する。
7コマ目	<p>考えをまとめる・意見を述べる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体的なテーマに沿って、他者と議論をする。 ・議論に基づいて考えをまとめて、まとめた文章を書く。

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
8コマ目	まとめ ・友人同士、専門家同士、患者家族など、様々な関係性におけるコミュニケーションの在りかたについて考える。 ・特に医療の場面を想定したコミュニケーションについて、医療の言葉、専門家と非専門家の関係性などに注意しつつ課題をとおして確認する。

2026年度

循環器外科

曜日・時限		配当学年	1学年	期区分		単位数		授業方法	講義
開講学科等	看護学科3年課程								
教員名	浅田 聡								

科目の目標

正常体循環、肺循環について理解する。心臓手術の補助手段について理解する。
代表的な後天性心疾患、大動脈疾患、先天性心疾患、末梢血管疾患について理解する。
人工心肺を用いた体外循環法を理解し、心臓手術との関係を学ぶ。

関連教科

循環器系内科、小児科

時間外学習（予習・復習・課題）

教科書や配布されるプリント等を用いて、必ず復習をしておいて下さい。

オフィスアワー

成績評価方法・基準

評価項目	割合
終講試験評価	
循環器系内科と合わせて100点満点の試験となります。	

テキスト

系統看護学講座 専門分野 循環器 成人看護学3
医学書院 著) 吉田 俊子 ほか

参考文献

参考URL

特記事項

①実務経験のある教員による科目（本務先）

浅田 聡

近畿大学医学部 心臓血管外科教室

①実務経験のある教員による科目（専門領域）

心臓血管外科

②実務経験のある教員による科目（本務先）

②実務経験のある教員による科目（専門領域）

③実務経験のある教員による科目（本務先）

③実務経験のある教員による科目（専門領域）

④実務経験のある教員による科目（本務先）

④実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑤実務経験のある教員による科目（本務先）

⑤実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑥実務経験のある教員による科目（本務先）

⑥実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑦実務経験のある教員による科目（本務先）

⑦実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑧実務経験のある教員による科目（本務先）

⑧実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑨実務経験のある教員による科目（本務先）

⑨実務経験のある教員による科目（専門領域）

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
1コマ目	正常な体循環と肺循環 心臓手術概論 人工心肺を用いた体外循環法 後天性心疾患1（虚血性心疾患）
2コマ目	後天性心疾患2（弁膜症） 大動脈疾患および末梢血管疾患
3コマ目	先天性心疾患 先天性心疾患に対する手術

2026年度

血液・リンパ

曜日・時限		配当学年	1学年	期区分		単位数		授業方法	講義
開講学科等	看護学科3年課程								
教員名	三宅 義昭、花本 晶、山澤 広嵩、土本 和司								

科目の目標

血液学に関して学習する。
免疫学に関して学習する。

関連教科

特になし

時間外学習（予習・復習・課題）

なし

オフィスアワー

成績評価方法・基準

評価項目	割合
試験を実施する	
皮膚科学と合わせて100点満点の試験となります。	

テキスト

系統看護学講座 専門Ⅱ成人看護学4 血液・造血器

系統看護学講座 専門Ⅱ成人看護学11 アレルギー・膠原病・感染症

参考文献

参考URL

特記事項

①実務経験のある教員による科目（本務先）

三宅 義昭

近畿大学病院 内科学教室（血液・膠原病内科）

①実務経験のある教員による科目（専門領域）

血液・膠原病内科

②実務経験のある教員による科目（本務先）

花本 晶

近畿大学医学部 内科学教室（血液・膠原病内科）

②実務経験のある教員による科目（専門領域）

血液・膠原病内科

③実務経験のある教員による科目（本務先）

土本 和司

近畿大学医学部 内科学教室（血液・膠原病内科）

③実務経験のある教員による科目（専門領域）

血液・膠原病内科

④実務経験のある教員による科目（本務先）

山澤 広嵩

近畿大学医学部 内科学教室（血液・膠原病内科）

④実務経験のある教員による科目（専門領域）

血液・膠原病内科

⑤実務経験のある教員による科目（本務先）

⑤実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑥実務経験のある教員による科目（本務先）

⑥実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑦実務経験のある教員による科目（本務先）

⑦実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑧実務経験のある教員による科目（本務先）

⑧実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑨実務経験のある教員による科目（本務先）

⑨実務経験のある教員による科目（専門領域）

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
1	<p>各血球の分化・成熟過程について述べるができる。 リンパ節腫大、出血傾向、貧血症状について述べるができる。 免疫不全状態での感染症について述べるができる。 検査方法と診察の手順とその看護について述べるができる。 輸血における一般的な看護上の注意点を述べるができる。</p>
2	<p>各血液疾患の疾患概念について述べるができる。 各血液疾患の症状と治療について述べるができる。 化学療法の副作用とその看護につき述べるができる。 敗血症などの感染症患者の看護の注意点を述べるができる。 骨髄移植施行における看護上の注意点を述べるができる。</p>
3	<p>自己免疫疾患の病態について述べるができる。 膠原病疾患の症状について述べるができる。</p>
4	<p>膠原病類縁疾患について述べるができる。 膠原病疾患の治療に関する副作用を述べるができる。 膠原病疾患における看護上の注意点を述べるができる。</p>

2026年度

皮膚科学

曜日・時限		配当学年	1学年	期区分		単位数		授業方法	講義
開講学科等	看護学科3年課程								
教員名	河野 奈央								

科目の目標
皮膚科診療の概要を知る

関連教科
特になし

時間外学習（予習・復習・課題）
特になし

オフィスアワー

成績評価方法・基準

評価項目	割合
選択主体の筆記試験	

テキスト

系統別看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学② 皮膚
医学書院

参考文献

参考URL

特記事項

講義はほとんどスライド（Power Point）で行われる予定
時間数に比較して学習内容が多いため、教科書での予習が望ましい

①実務経験のある教員による科目（本務先）

河野 奈央

近畿大学病院 皮膚科学教室

①実務経験のある教員による科目（専門領域）

皮膚科学

②実務経験のある教員による科目（本務先）

②実務経験のある教員による科目（専門領域）

③実務経験のある教員による科目（本務先）

③実務経験のある教員による科目（専門領域）

④実務経験のある教員による科目（本務先）

④実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑤実務経験のある教員による科目（本務先）

⑤実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑥実務経験のある教員による科目（本務先）

⑥実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑦実務経験のある教員による科目（本務先）

⑦実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑧実務経験のある教員による科目（本務先）

⑧実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑨実務経験のある教員による科目（本務先）

⑨実務経験のある教員による科目（専門領域）

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
1コマ目	I 1. 皮膚の構造について述べるができる 2. 皮膚の機能について述べるができる II 1. 皮膚の病変について理解する 2. 原発疹・続発疹の用語を正確に理解する III 1. 各種検査について理解する 2. 各種治療について理解する
2コマ目	IV 1. 各種疾患について理解する 湿疹・皮膚炎群・蕁麻疹・紅斑症・紫斑病・血管炎・薬疹・物理・科学的皮膚障害紅皮症・光線皮膚障害・水泡症・角化症・膿胞症
3コマ目	IV 1. 各種疾患について理解する 色素異常症・母斑・母斑症・皮膚腫瘍・皮膚付属器疾患・細菌感染症・ウイルス感染症真菌感染症・その他の感染症

2026年度

呼吸器内科

曜日・時限		配当学年	1学年	期区分		単位数		授業方法	講義
開講学科等	看護学科3年課程								
教員名	綿谷 奈々瀬、吉川 和也、川端 慶之、國田 裕貴								

科目の目標
呼吸器系疾患の知識を習得する。

関連教科
特になし

時間外学習（予習・復習・課題）
特になし

オフィスアワー

成績評価方法・基準

評価項目	割合
終講試験	

テキスト

系統看護学講座 専門Ⅱ 精神看護学2 呼吸器
医学書院

参考文献

参考URL

特記事項

①実務経験のある教員による科目（本務先）

川端 慶之
近畿大学病院 内科学教室（呼吸器・アレルギー内科部門）

①実務経験のある教員による科目（専門領域）

呼吸器内科

②実務経験のある教員による科目（本務先）

綿谷 奈々瀬
近畿大学病院 内科学教室（呼吸器・アレルギー内科部門）

②実務経験のある教員による科目（専門領域）

呼吸器内科

③実務経験のある教員による科目（本務先）

吉川 和也
近畿大学病院 内科学教室（呼吸器・アレルギー内科部門）

③実務経験のある教員による科目（専門領域）

呼吸器内科

④実務経験のある教員による科目（本務先）

國田 裕貴
近畿大学病院 内科学教室（呼吸器・アレルギー内科部門）

④実務経験のある教員による科目（専門領域）

呼吸器内科

⑤実務経験のある教員による科目（本務先）

⑤実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑥実務経験のある教員による科目（本務先）

⑥実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑦実務経験のある教員による科目（本務先）

⑦実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑧実務経験のある教員による科目（本務先）

⑧実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑨実務経験のある教員による科目（本務先）

⑨実務経験のある教員による科目（専門領域）

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
1コマ目	<ol style="list-style-type: none"> 1. 肺の基本的解剖と生理について説明できる 2. 呼吸器疾患の症状と病態について説明できる 3. 呼吸器疾患の診察法について述べる事ができる
2コマ目	<ol style="list-style-type: none"> 1. 呼吸器機能検査について理解し説明ができる 2. 呼吸器疾患で用いられる検査について簡単に説明することができる 3. 胸腔ドレナージについて理解し、簡単に説明することができる
3コマ目	<ol style="list-style-type: none"> 1. かせ症候群について理解し説明ができる 2. 気管支炎、肺炎について理解し説明ができる
4コマ目	<ol style="list-style-type: none"> 1. 肺結核の症状、病態について理解している 2. 肺結核の診断、治療について説明することができる 3. 抗結核薬について簡単に説明することができる 4. 間質性肺炎について理解し説明ができる
5コマ目	<ol style="list-style-type: none"> 1. 肺腫瘍について説明できる 2. 気管支喘息の病態を理解し、治療法、看護上のポイントを説明することができる 3. 慢性閉塞性肺疾患について理解し説明できる

2026年度

呼吸器外科

曜日・時限		配当学年	1学年	期区分		単位数		授業方法	講義
開講学科等	看護学科3年課程								
教員名	西野 将矢、濱田 顕								

科目の目標
呼吸器外科疾患の病態と外科治療の適応を把握する。

関連教科
呼吸器内科
腫瘍内科

時間外学習（予習・復習・課題）

オフィスアワー

成績評価方法・基準

評価項目	割合
筆記試験	
呼吸器系内科、乳腺外科と合わせて100点満点の試験となります。	

テキスト
系統看護学講座 臨床外科看護各論
医学書院

参考文献

参考URL

特記事項

①実務経験のある教員による科目（本務先）

西野 将矢

近畿大学医学部 外科学教室（呼吸器外科）

①実務経験のある教員による科目（専門領域）

呼吸器外科

②実務経験のある教員による科目（本務先）

濱田 顕

近畿大学医学部 外科学教室（呼吸器外科）

②実務経験のある教員による科目（専門領域）

呼吸器外科

③実務経験のある教員による科目（本務先）

③実務経験のある教員による科目（専門領域）

④実務経験のある教員による科目（本務先）

④実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑤実務経験のある教員による科目（本務先）

⑤実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑥実務経験のある教員による科目（本務先）

⑥実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑦実務経験のある教員による科目（本務先）

⑦実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑧実務経験のある教員による科目（本務先）

⑧実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑨実務経験のある教員による科目（本務先）

⑨実務経験のある教員による科目（専門領域）

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
1コマ目	1. 呼吸器の解剖および呼吸生理について理解し、吸器外科領域の各種検査について述べるができる。
2コマ目	1. 肺がん以外の呼吸器外科疾患（気胸・縦隔/胸膜の疾患）の症状・診断・治療について述べるができる。
3コマ目	1. 肺がんや肺腫瘍の症状・診断・治療について述べるができる。

2026年度

乳腺外科

曜日・時限		配当学年	1学年	期区分		単位数		授業方法	講義
開講学科等	看護学科3年課程								
教員名	菰池 佳史								

科目の目標

乳腺疾患の病態と外科治療・薬物療法の適応を把握する。
乳がん患者の心理社会的背景を理解できる。

関連教科

呼吸器内科
呼吸器外科
腫瘍内科

時間外学習（予習・復習・課題）

オフィスアワー

成績評価方法・基準

評価項目	割合
筆記試験	
呼吸器系内科、呼吸器系外科と合わせて100点満点の試験となります。	

テキスト

系統看護学講座 臨床外科看護各論
医学書院

参考文献

参考URL

特記事項

①実務経験のある教員による科目（本務先）

菰池 佳史

近畿大学医学部 外科学（呼吸器・乳腺外科）

①実務経験のある教員による科目（専門領域）

呼吸器・乳腺外科

②実務経験のある教員による科目（本務先）

②実務経験のある教員による科目（専門領域）

③実務経験のある教員による科目（本務先）

③実務経験のある教員による科目（専門領域）

④実務経験のある教員による科目（本務先）

④実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑤実務経験のある教員による科目（本務先）

⑤実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑥実務経験のある教員による科目（本務先）

⑥実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑦実務経験のある教員による科目（本務先）

⑦実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑧実務経験のある教員による科目（本務先）

⑧実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑨実務経験のある教員による科目（本務先）

⑨実務経験のある教員による科目（専門領域）

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
1コマ目	1. 乳がんの症状・診断・初期治療方針について述べるができる。 2. 乳がんの術式（全摘、温存、乳房再建、センチネルリンパ節生検、腋窩郭清）について述べるができる。
2コマ目	1. 乳がんの薬物療法の基本的知識を身につけ、その意義と効果および有害事象について述べるができる。 2. 乳がん患者の心理社会的問題について理解し、述べることができる。

2026年度

骨・関節

曜日・時限		配当学年	1学年	期区分		単位数		授業方法	講義
開講学科等	看護学科3年課程								
教員名	家村 駿輝、鳥海 賢介								

科目の目標

以下の2点を目標とする。

1. 運動器の基本的疾患及び外傷の、病態・症状・経過・治療について理解すること。
2. 運動器外科領域の周術期管理について、基本事項を理解すること。

関連教科

リハビリテーション医学、神経内科学

時間外学習（予習・復習・課題）

ご自身の身体や友人の身体を使い、各関節の可動域や各筋肉の働きについて具体的な理解を深めましょう。

オフィスアワー

随時。
整形外科医局(内線3212)に連絡し、各講義担当者の予定を確認してください。

成績評価方法・基準

評価項目	割合
終講試験	
歯科と合わせて100点満点の試験となります。	

テキスト

オリジナルの講義プリントを使用します。

参考文献

特になし

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学10 運動器
医学書院

参考URL

特になし

特記事項

課題：「大腿骨頸部骨折に対し、人工骨頭置換術を受ける高齢患者の看護」について、術前と術後に分けて、A4レポート用紙2枚以上にまとめてください。レポートは終講試験の開始直前に回収します。

終講試験は、原則として授業内容から出題します。

可否基準(上記100点満点) 90以上：優、70~89：良、60~69：可、59以下：不可

①実務経験のある教員による科目（本務先）

家村 駿輝、
近畿大学医学部 整形外科科学教室

①実務経験のある教員による科目（専門領域）

整形外科

②実務経験のある教員による科目（本務先）

鳥海 賢介
近畿大学医学部 整形外科科学教室

②実務経験のある教員による科目（専門領域）

整形外科

③実務経験のある教員による科目（本務先）

③実務経験のある教員による科目（専門領域）

④実務経験のある教員による科目（本務先）

④実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑤実務経験のある教員による科目（本務先）

⑤実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑥実務経験のある教員による科目（本務先）

⑥実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑦実務経験のある教員による科目（本務先）

⑦実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑧実務経験のある教員による科目（本務先）

⑧実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑨実務経験のある教員による科目（本務先）

⑨実務経験のある教員による科目（専門領域）

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
講義1	<ol style="list-style-type: none"> 1. 運動器を構成する各組織（骨・軟骨・神経・筋）の基本生理学 2. 主要運動器および脊椎の基本解剖および基本バイオメカニクス 3. 神経組織の基本解剖と基本生理学 4. 運動器の基本的診察法と計測方法 5. 神経診察の基本
講義2	<ol style="list-style-type: none"> 1. 外傷患者の救急管理。 2. 骨折の症状・診断・基本的治療。 3. 骨折の急性期合併症と副損傷。骨折の遅発性合併症。 4. 関節部損傷（関節内骨折・捻挫・脱臼）の病態と治療。 5. 靭帯損傷と腱損傷。 6. 各論1：肩甲帯の骨折・脱臼。 7. 各論2：上肢の骨折・脱臼。 8. 各論3：骨盤・寛骨臼の外傷。 9. 各論4：下肢の骨折・脱臼。 10. 各論5：脊椎損傷・脊髄損傷の病態と初期治療。
講義3	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各論6：関節リウマチおよび関節リウマチ類似疾患の基本。 2. 各論7：変形性関節症の基本病態と治療。 3. 各論8：脊椎変性疾患の基本病態と治療。 4. 各論9：代表的小児運動器疾患の基本病態と治療。 5. 各論10：主要運動器外科手術周術期管理の要点。 6. 各論11：周術期理学療法（リハビリテーション）の基本。 7. 各論12：緊急の加療を要する運動器疾患。

2026年度

歯科学

曜日・時限		配当学年	1学年	期区分		単位数		授業方法	講義
開講学科等	看護学科3年課程								
教員名	榎本 明史、下出 孟史								

科目の目標

口腔の機能・役割、口腔ケアを説明できる。

関連教科

上部消化管、耳鼻咽喉・頭頸部外科

時間外学習（予習・復習・課題）

口から食べることの重要性、口腔機能や誤嚥性肺炎の関係について学んでください。口から食べることをサポートするための口腔ケアは、今の超高齢社会では非常に重要な課題となっています。

オフィスアワー

成績評価方法・基準

評価項目	割合
マークシート試験	
<small>講義の各分野についてそれぞれ評価を実施します。合計100点満点の試験となります。</small>	

テキスト

新看護学生のための歯科学
医歯役出版 著) 中垣晴男

参考文献

口から食べる一摂食嚥下障害Q&A 第4版
中央法規出版 著) 藤島一郎/清水一男
口の中がわかる ビジュアル 歯科口腔科学読本
クインテッセンス出版 著) 全国医学部附属病院歯科口腔外科課長会議

参考URL

<http://www.oralcare-jp.org/>
<https://www.jsdr.or.jp/>

特記事項

チーム医療についても学んでください。

①実務経験のある教員による科目（本務先）

近畿大学医学部 歯科口腔外科
榎本 明史

①実務経験のある教員による科目（専門領域）

歯科口腔外科

②実務経験のある教員による科目（本務先）

近畿大学医学部 歯科口腔外科
下出 孟史

②実務経験のある教員による科目（専門領域）

歯科口腔外科

③実務経験のある教員による科目（本務先）

③実務経験のある教員による科目（専門領域）

④実務経験のある教員による科目（本務先）

④実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑤実務経験のある教員による科目（本務先）

⑤実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑥実務経験のある教員による科目（本務先）

⑥実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑦実務経験のある教員による科目（本務先）

⑦実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑧実務経験のある教員による科目（本務先）

⑧実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑨実務経験のある教員による科目（本務先）

⑨実務経験のある教員による科目（専門領域）

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
1コマ	<p>歯科一般基礎</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 口腔および歯の構造と機能を説明でき、歯式の読み書きができる。 2. 歯の成長発育と萌出について説明できる。 3. う蝕、歯髄炎、歯周疾患の成因と進行について述べることができる。 4. 歯冠修復、歯内療法、歯周治療、義歯にいたる歯科治療の流れを述べることができる。 5. 義歯の使用法・管理法を述べることができる。 6. 抜歯および口腔外科的処置の説明ができる。 7. 口腔の炎症性疾患の病態と治療について述べることができる。 8. 口腔の嚢胞、腫瘍の病態と治療について述べることができる。 9. 口腔の外傷、顎骨骨折の病態と治療について述べることができる。 10. 口腔の奇形、顎変形症の病態と治療について述べることができる。 11. 口腔外科疾患における栄養摂取につき説明できる。 12. 口腔外科疾患患者の病
2コマ	<p>臨床の中での歯科の役割と位置づけ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 摂食嚥下における口腔の役割を述べるができる。 2. 経管・経静脈栄養だけでなく経口摂取する意義を説明できる。 3. 他の疾患に合併する口腔の症状を述べるができる。 4. 口内炎、顎関節疾患の病態と治療について述べるができる。 5. 顎顔面欠損などに対する顎顔面補綴について述べるができる。 6. 口腔の疾患が全身に及ぼす影響について述べるができる。 7. 口腔ケアの意義と方法について説明できる。 8. 口腔外科疾患患者の病態と心理状態を把握した看護について説明できる。

2026年度

麻酔科学

曜日・時限		配当学年	1学年	期区分		単位数		授業方法	講義
開講学科等	看護学科3年課程								
教員名	松本 知之								

科目の目標

周術期管理中の全身管理や疼痛管理の方法について学習し、その意義について理解できる。
周術期の合併症について学習し、麻酔に関わる看護の役割を理解できる。

関連教科

特になし

時間外学習（予習・復習・課題）

特になし

オフィスアワー

成績評価方法・基準

評価項目	割合
終講試験	
放射線科、腫瘍内科と合わせて100点満点の試験となります。	

テキスト

系統看護学講座（別巻） 臨床外科看護総論
医学書院

参考文献

周術期管理チームテキスト第3版
公益社団法人日本麻酔科学会

参考URL

public.perioperative-management.jp/

特記事項

①実務経験のある教員による科目（本務先）
近畿大学病院 麻酔科学教室

①実務経験のある教員による科目（専門領域）
麻酔科

②実務経験のある教員による科目（本務先）

②実務経験のある教員による科目（専門領域）

③実務経験のある教員による科目（本務先）

③実務経験のある教員による科目（専門領域）

④実務経験のある教員による科目（本務先）

④実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑤実務経験のある教員による科目（本務先）

⑤実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑥実務経験のある教員による科目（本務先）

⑥実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑦実務経験のある教員による科目（本務先）

⑦実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑧実務経験のある教員による科目（本務先）

⑧実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑨実務経験のある教員による科目（本務先）

⑨実務経験のある教員による科目（専門領域）

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
講義1	麻酔の歴史、術前評価、麻酔方法（全身麻酔①） 1. 麻酔の歴史について述べるができる。 2. 麻酔科医の役割について述べるができる。 3. 麻酔に必要な要素について述べるができる。 4. 手術患者の術前検査と術前評価について述べるができる。 5. 全身麻酔について述べるができる。
講義2	麻酔方法（全身麻酔②、区域麻酔）、周術期管理中の合併症 1. 全身麻酔について述べるができる。 2. 手術中の呼吸と循環の管理について述べるができる。 3. 区域麻酔（脊髄くも膜下麻酔、硬膜外麻酔、神経ブロックなど）について述べるができる。 4. 周術期管理中の合併症について述べるができる。

2026年度

放射線科学

曜日・時限		配当学年	1学年	期区分		単位数		授業方法	講義
開講学科等	看護学科3年課程								
教員名	甲斐田 勇人、河野 淳、松尾 幸憲								

科目の目標

1. 画像診断検査の原理と方法を説明できる。
2. IVR（インターベンショナルラジオロジー）の方法を説明できる。
3. 核医学検査、内用療法の原理と方法を説明できる。
4. 放射線治療の原理と方法、適応と合併症について説明できる。
5. 高精度放射線治療について述べる事が出来る。
6. 放射線防護について述べる事が出来る。

関連教科

臨床診断・治療と緩和医療に関係するすべての科目に関連します。

時間外学習（予習・復習・課題）

配布プリントをよく読んでください。

オフィスアワー

質問内容を含め、指定メールアドレスに連絡下さい。後日、面会時間や場所につきメールにて返答します。メールアドレスは配布用資料や講義スライド内で指定します。

成績評価方法・基準

評価項目	割合
講義終了後の筆記試験(麻酔科、腫瘍内科と合わせて100点満点の試験となります。)	

テキスト

臨床放射線医学
医学書院

参考文献

参考URL

特記事項

①実務経験のある教員による科目（本務先）

甲斐田 勇人
近畿大学医学部 放射線医学教室（放射線診断部門）

①実務経験のある教員による科目（専門領域）

画像診断、核医学、IVR。

②実務経験のある教員による科目（本務先）

河野 淳
近畿大学医学部 放射線医学教室（放射線診断部門）

②実務経験のある教員による科目（専門領域）

画像診断、核医学、IVR。

③実務経験のある教員による科目（本務先）

松尾 幸憲
近畿大学医学部 放射線医学教室（放射線腫瘍学部門）

③実務経験のある教員による科目（専門領域）

放射線を用いたがん治療全般。

④実務経験のある教員による科目（本務先）

④実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑤実務経験のある教員による科目（本務先）

⑤実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑥実務経験のある教員による科目（本務先）

⑥実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑦実務経験のある教員による科目（本務先）

⑦実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑧実務経験のある教員による科目（本務先）

⑧実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑨実務経験のある教員による科目（本務先）

⑨実務経験のある教員による科目（専門領域）

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
1	放射線診療について概略を説明。画像検査（X線撮影、CT、MRI）、IVRについて基本的な説明。画像診断、IVRの適応、合併症についての説明。造影剤の基本、副作用について説明。
1	核医学検査（シンチグラフィ、PET）、内用療法、放射線被曝についての基本的な説明。核医学検査についてはその原理、臨床的用途を中心に示し、内用療法は我が国で行われている主なものについて解説する。
1	放射線治療の原理とその適応疾患に関する基本的事項、放射線に関連する単位、高精度放射線治療に関する事項、放射線治療中の看護ケアに必要な知識について概説する。

2026年度
教育学

曜日・時限		配当学年	2学年	期区分		単位数	1単位	授業方法	講義
開講学科等	看護学科3年課程								
教員名	松本 伊織								

科目の目標
人間の発達や教育の思想・制度といった観点から看護における教育的役割及び生涯学習、教育の意義について理解する

関連教科

時間外学習（予習・復習・課題）

オフィスアワー
講義終了後

成績評価方法・基準

評価項目	割合
小レポート	
筆記試験	

テキスト
系統看護学講座 基礎分野 教育学
医学書院

参考文献

参考URL

特記事項

①実務経験のある教員による科目（本務先）

①実務経験のある教員による科目（専門領域）
教育学

②実務経験のある教員による科目（本務先）

②実務経験のある教員による科目（専門領域）

③実務経験のある教員による科目（本務先）

③実務経験のある教員による科目（専門領域）

④実務経験のある教員による科目（本務先）

④実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑤実務経験のある教員による科目（本務先）

⑤実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑥実務経験のある教員による科目（本務先）

⑥実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑦実務経験のある教員による科目（本務先）

⑦実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑧実務経験のある教員による科目（本務先）

⑧実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑨実務経験のある教員による科目（本務先）

⑨実務経験のある教員による科目（専門領域）

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
1コマ目	<p>【現代社会と教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代社会の特徴と課題を学び、現代における社会と教育の関係について説明することができるようになる。
2コマ目	<p>【子ども観と教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育の歴史における子ども観の変遷を学び、子ども観と教育の関係について説明することができるようになる。
3コマ目	<p>【教育における「教える／学ぶ」】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育において「教える／学ぶ」とは、どのような営みなのかを学び、教育における両者の関係について説明することができるようになる。
4コマ目	<p>【教育における発達概念】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの変化や成長を捉える「発達」の概念について学び、発達と教育の関係について説明することができるようになる。
5コマ目	<p>【ケアと教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ケア」の概念について学び、ケアと教育の関係について説明することができるようになる。
7コマ目	<p>【ジェンダー／セクシュアリティと教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ジェンダー／セクシュアリティ」の概念について学び、ジェンダーとセクシュアリティの観点から教育の役割について説明することができるようになる。
6コマ目	<p>【障害のある子どもと教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別ニーズ教育やインクルーシヴ教育のあり方について学び、障害と教育の関係について説明することができるようになる。

7コマ目	<p>【生涯学習と教育】</p> <ul style="list-style-type: none">・「生涯学習」の概念について学び、生涯学習の必要性や教育との関係について説明することができるようになる。
------	---

2026年度

腫瘍内科

曜日・時限		配当学年	1学年	期区分		単位数		授業方法	講義
開講学科等	看護学科3年課程								
教員名	米阪 仁雄、高濱 隆幸、稲垣 千晶、谷崎 潤子								

科目の目標
がん診断・治療のあり方やそれに伴う副作用を把握し、がん患者の緩和医療、がん患者とのコミュニケーションの取り方についても学習する。

関連教科
特になし

時間外学習（予習・復習・課題）
近畿大学病院がんセンターのHPを見て下さい。

オフィスアワー
要相談

成績評価方法・基準

評価項目	割合
試験	

テキスト
オリジナル資料

参考文献

参考URL
<http://www.med.kindai.ac.jp/gancenter/index.html>

特記事項

①実務経験のある教員による科目（本務先）

米阪 仁雄

近畿大学病院 内科学教室（腫瘍内科部門）

①実務経験のある教員による科目（専門領域）

腫瘍内科

②実務経験のある教員による科目（本務先）

稲垣 千晶

近畿大学病院 内科学教室（腫瘍内科部門）

②実務経験のある教員による科目（専門領域）

腫瘍内科

③実務経験のある教員による科目（本務先）

谷崎 潤子

近畿大学病院 内科学教室（腫瘍内科部門）

③実務経験のある教員による科目（専門領域）

腫瘍内科

④実務経験のある教員による科目（本務先）

高濱 隆幸

近畿大学病院 内科学教室（腫瘍内科部門）

④実務経験のある教員による科目（専門領域）

腫瘍内科

⑤実務経験のある教員による科目（本務先）

⑤実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑥実務経験のある教員による科目（本務先）

⑥実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑦実務経験のある教員による科目（本務先）

⑦実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑧実務経験のある教員による科目（本務先）

⑧実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑨実務経験のある教員による科目（本務先）

⑨実務経験のある教員による科目（専門領域）

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
講義1（担当：谷崎先生）	<ol style="list-style-type: none"> 1. がん治療の基本を理解できる。 2. 医療用麻薬製剤の種類、注意点を説明できる。 3. 癌治療における緩和ケアについて説明できる。
講義2（担当：米阪先生）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 癌の診断方法の基本が理解できる。 2. 癌の治療法の基本が理解できる。
講義3（担当：稲垣先生）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 抗がん剤治療の考え方が理解できる。 2. 抗がん剤治療副作用が説明できる。 3. がん治療における看護師の役割が説明できる。
講義4（担当：高濱先生）	<ol style="list-style-type: none"> 1. がんと遺伝子の関係を理解できる。 2. がんゲノム医療とは何かを説明できる。 3. がんゲノムにおける看護師の役割について説明できる。

2026年度

眼科学

曜日・時限		配当学年	1学年	期区分		単位数		授業方法	講義
開講学科等	看護学科3年課程								
教員名	杉野 日彦、堀田 芙美香								

科目の目標
眼科学領域における、病態・症状・検査・治療について理解できる。

関連教科
解剖生理学

時間外学習（予習・復習・課題）
各章についての復習

オフィスアワー
月～金曜日 9～17時

成績評価方法・基準

評価項目	割合
筆記試験	
耳鼻咽喉科と合わせて100点満点の試験となります。	

テキスト
系統看護学講座 専門Ⅱ 眼 成人看護学

参考文献

参考URL

特記事項

①実務経験のある教員による科目（本務先）

堀田 芙美香
近畿大学医学部 眼科学教室

①実務経験のある教員による科目（専門領域）

眼科学

②実務経験のある教員による科目（本務先）

杉野 日彦
近畿大学医学部 眼科学教室

②実務経験のある教員による科目（専門領域）

眼科学

③実務経験のある教員による科目（本務先）

③実務経験のある教員による科目（専門領域）

④実務経験のある教員による科目（本務先）

④実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑤実務経験のある教員による科目（本務先）

⑤実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑥実務経験のある教員による科目（本務先）

⑥実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑦実務経験のある教員による科目（本務先）

⑦実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑧実務経験のある教員による科目（本務先）

⑧実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑨実務経験のある教員による科目（本務先）

⑨実務経験のある教員による科目（専門領域）

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
講義 1	眼科疾患を理解する。（1）構造と機能、検査方法 1. 眼球、眼球付属器、視路の構造・機能・検査法について説明できる。
講義 2	眼科疾患を理解する。（2）代表的疾患と症状、診断、治療 1. 部位別に代表疾患を挙げることができる。 2. 眼科疾患による症状を説明できる。 3. 代表的疾患の診断と治療を説明できる。
講義 3	眼科疾患を理解する。（3）看護 1. 視覚障害と視覚障害者のケアについて理解する。 2. 眼科患者の看護について理解する。 3. 眼科の救急疾患について説明できる。

2026年度

耳鼻咽喉科学

曜日・時限		配当学年	1学年	期区分		単位数		授業方法	講義
開講学科等	看護学科3年課程								
教員名	安倍 大輔								

科目の目標
耳鼻咽喉学領域における病態・症状・検査・治療について理解する。

関連教科
解剖生理学

時間外学習（予習・復習・課題）
各章の復習

オフィスアワー

成績評価方法・基準

評価項目	割合
筆記試験	
眼科と合わせて100点満点の試験となります。	

テキスト

参考文献

参考URL

特記事項

①実務経験のある教員による科目（本務先）

安倍 大輔

近畿大学医学部 耳鼻咽喉科学教室

①実務経験のある教員による科目（専門領域）

耳鼻咽喉科

②実務経験のある教員による科目（本務先）

②実務経験のある教員による科目（専門領域）

③実務経験のある教員による科目（本務先）

③実務経験のある教員による科目（専門領域）

④実務経験のある教員による科目（本務先）

④実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑤実務経験のある教員による科目（本務先）

⑤実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑥実務経験のある教員による科目（本務先）

⑥実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑦実務経験のある教員による科目（本務先）

⑦実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑧実務経験のある教員による科目（本務先）

⑧実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑨実務経験のある教員による科目（本務先）

⑨実務経験のある教員による科目（専門領域）

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
1コマ目	<p>耳</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 外耳・中耳・内耳の解剖について理解する。 2. ティンパノメトリー、聴力検査について説明できる。 3. 音の伝わる経路について理解できる。 4. めまいのおこるメカニズムについて説明できる。 5. 中耳、内耳の代表疾患について述べるができる。
2コマ目	<p>咽頭喉頭</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 咽頭、喉頭の構造、機能、検査について説明できる。 2. 咽喉頭の炎症疾患の診断、治療について説明できる。 3. 咽頭・喉頭がんの病態、診断、治療について説明できる。 4. 咽頭・喉頭がんの術後管理、術後合併症、看護について説明できる。 5. 放射線治療、化学療法有害事象やそれに対する対策について説明できる。 6. 永久気管の状態、気管切開術後との違い、代用音声について理解できる。 7. 嚥下のメカニズムについて理解できる。 8. 嚥下リハビリテーションについて理解できる。 9. 経口摂取以外の栄養摂取法について説明できる。
3コマ目	<p>鼻副鼻腔</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 副鼻腔の解剖を理解する。 2. 副鼻腔の機能について説明できる。 3. 副鼻腔の検査について説明できる。 4. 鼻副鼻腔疾患について説明できる。

2026年度

脳神経内科

曜日・時限		配当学年	1学年	期区分		単位数		授業方法	講義
開講学科等	看護学科3年課程								
教員名	河合 滋、田港 朝也、稲田 莉乃								

科目の目標

神経疾患の医学的知識を深め、看護に活かす。それぞれの疾患の特徴・診断・治療を学ぶ。
さらに疾患の特性を理解した看護計画を立案し、実践に即した看護学ができるようになる。

関連教科

脳神経内科、脳外科、放射線診断学

時間外学習（予習・復習・課題）

学生は授業に関わる部分を予習する。講義で配布される資料を用いて復習する。

オフィスアワー

連絡先：shinnai@med.kindai.ac.jp

成績評価方法・基準

評価項目	割合
終講試験	

テキスト

系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学7 脳・神経系
医学書院

参考文献

参考URL

特記事項

①実務経験のある教員による科目（本務先）

田港 朝也
近畿大学医学部 脳神経内科

①実務経験のある教員による科目（専門領域）

脳神経内科

②実務経験のある教員による科目（本務先）

河合 滋
ホームケアクリニック堺

②実務経験のある教員による科目（専門領域）

脳神経内科

③実務経験のある教員による科目（本務先）

稲田 莉乃
近畿大学医学部 リハビリテーション医学教室

③実務経験のある教員による科目（専門領域）

脳神経内科

④実務経験のある教員による科目（本務先）

④実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑤実務経験のある教員による科目（本務先）

⑤実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑥実務経験のある教員による科目（本務先）

⑥実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑦実務経験のある教員による科目（本務先）

⑦実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑧実務経験のある教員による科目（本務先）

⑧実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑨実務経験のある教員による科目（本務先）

⑨実務経験のある教員による科目（専門領域）

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
1回	感染・免疫疾患（担当：田港 朝也）
2回	末梢神経・筋疾患（担当：河合 滋）
3回	脳血管障害（担当：稲田 莉乃）
4回	変性疾患（担当：田港 朝也）

2026年度

脳神経外科

曜日・時限		配当学年	1学年	期区分		単位数		授業方法	講義
開講学科等	看護学科3年課程								
教員名	吉岡 宏真、古川 健太郎、藤島 一紘、田中 寛大								

科目の目標
脳神経系外科疾患について理解する

関連教科
神経内科

時間外学習（予習・復習・課題）
予習・復習に関連するポイントを以下に記載する。解剖・生理；基本事項であり、解剖学の復習が望ましい。脳血管障害；障害を受けた患者さん像をイメージしてください。脳腫瘍；良性、悪性の区別。転移しやすい原疾患も覚えること。手術・感染・外傷・その他；軽微な頭部外傷から引き起こされる疾患にも留意する。

オフィスアワー

成績評価方法・基準

評価項目	割合
終講テスト	
脳神経内科と合わせて100点満点の試験となります。	

テキスト
系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学7 能・神経
医学書院

参考文献

参考URL

特記事項

①実務経験のある教員による科目（本務先）

吉岡 宏真

近畿大学医学部 脳神経外科学教室

①実務経験のある教員による科目（専門領域）

脳神経外科

②実務経験のある教員による科目（本務先）

古川 健太郎

近畿大学医学部 脳神経外科学教室

②実務経験のある教員による科目（専門領域）

脳神経外科

③実務経験のある教員による科目（本務先）

藤島 一紘

近畿大学医学部 脳神経外科学教室

③実務経験のある教員による科目（専門領域）

脳神経外科

④実務経験のある教員による科目（本務先）

田中 寛大

近畿大学医学部 脳神経外科学教室

④実務経験のある教員による科目（専門領域）

脳神経内科

⑤実務経験のある教員による科目（本務先）

⑤実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑥実務経験のある教員による科目（本務先）

⑥実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑦実務経験のある教員による科目（本務先）

⑦実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑧実務経験のある教員による科目（本務先）

⑧実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑨実務経験のある教員による科目（本務先）

⑨実務経験のある教員による科目（専門領域）

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
1コマ目	<p>脳腫瘍</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 脳腫瘍の組織学的分類とその好発部位・好発年齢を理解できる 2. 脳腫瘍の発生部位と神経症状との関係を説明できる 3. 脳腫瘍の画像診断ができる 4. 脳腫瘍の発生部位別の鑑別診断ができる
2コマ目	<p>手術・感染・奇形・外傷・その他</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 脳外科手術の目的について説明できる 2. 頭蓋内手術の方法について述べる事ができる 3. 水頭症を髄液循環から分類し説明できる 4. 主な脳脊髄の先天性奇形の病態について説明できる 5. 脳髄炎、脳腫瘍について説明できる 6. 主な頭部外傷の病態について説明できる
3コマ目	<p>解剖・生理</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 頭蓋骨・脊椎骨を形成する骨の名称と頭蓋底の裂孔の名称およびその中を走行する神経・血管名を述べる事ができる 2. 髄膜の構造および脳脊髄液の正常・循環動態について説明できる 3. 大脳・間脳・中脳・橋・延髄・小脳の機能について述べる事ができる 4. 脳神経の機能について説明できる 5. 脳血管の走行・分布領域およびWillis動脈輪について説明できる
4コマ目	<p>脳血管障害</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 頭蓋内圧亢進の原因と脳ヘルニアの症状について説明できる 2. 脳死の判定基準について述べる事ができる 3. くも膜下出血について説明できる 4. 脳梗塞の原因について説明できる 5. 脳出血の原因について説明できる 6. 脳動脈奇形について説明できる

2026年度

内分泌・代謝

曜日・時限		配当学年	1学年	期区分		単位数		授業方法	講義
開講学科等	看護学科3年課程								
教員名	前田 法一、能宗 伸輔、馬場谷 成、廣峰 義久、小川 誠人								

科目の目標
内分泌・代謝疾患の病名・病態生理・症状・合併症・治療法が理解できる。

関連教科
特になし

時間外学習（予習・復習・課題）
講義内容を復習して下さい。

オフィスアワー
各医師それぞれ日時異なりますので事前に医局まで連絡し日程調整を行ってください。

成績評価方法・基準

評価項目	割合
出席状況	
受講態度	
終講試験	

テキスト
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学6 内分泌・代謝
医学書院 著）黒江ゆり子、高澤和永、吉岡成人、和田典男、藤澤まこと、普照早苗、白水真理子 等

参考文献

参考URL

特記事項

①実務経験のある教員による科目（本務先）

前田 法一
近畿大学医学部 内科学教室（内分泌・代謝・糖尿病内科教室）

①実務経験のある教員による科目（専門領域）

内分泌・代謝

②実務経験のある教員による科目（本務先）

能宗 伸輔
近畿大学医学部 内科学教室（内分泌・代謝・糖尿病内科教室）

②実務経験のある教員による科目（専門領域）

内分泌・代謝

③実務経験のある教員による科目（本務先）

馬場谷 成
近畿大学医学部 内科学教室（内分泌・代謝・糖尿病内科教室）

③実務経験のある教員による科目（専門領域）

内分泌・代謝

④実務経験のある教員による科目（本務先）

廣峰 義久
近畿大学医学部 内科学教室（内分泌・代謝・糖尿病内科教室）

④実務経験のある教員による科目（専門領域）

内分泌・代謝

⑤実務経験のある教員による科目（本務先）

小川 誠人
近畿大学医学部 内科学教室（内分泌・代謝・糖尿病内科教室）

⑤実務経験のある教員による科目（専門領域）

内分泌・代謝

⑥実務経験のある教員による科目（本務先）

⑥実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑦実務経験のある教員による科目（本務先）

⑦実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑧実務経験のある教員による科目（本務先）

⑧実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑨実務経験のある教員による科目（本務先）

⑨実務経験のある教員による科目（専門領域）

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
1コマ目	<p>脂質・尿酸</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 脂質異常症の分類・診断・治療を述べることができる。 2. 高尿酸血症と痛風の診断・治療を述べることができる。
2コマ目	<p>内分泌総論と下垂体</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 内分泌器官の構造とホルモンの種類が理解できる。 2. フィードバック機構および日内変動が理解できる。 3. ACTH-コルチゾール系、GH-ソマトメジンC系、PRL系の機能が理解できる。 4. 各下垂体腫瘍と下垂体機能低下症の症状・治療を述べることができる。 5. ADH系の機能が理解でき、尿崩症とSIADHの症状・治療を述べることができる。
3コマ目	<p>甲状腺疾患・副甲状腺疾患</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. TSH-甲状腺ホルモン系の機能が理解できる。 2. 各甲状腺疾患の症状・治療を述べることができる。 3. PTH-ビタミンD-カルシウム系の機能が理解できる。 4. 各副甲状腺疾患の症状・治療を述べることができる。
4コマ目	<p>副腎疾患</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ACTH-コルチゾール系の機能が理解できる。 2. レニン-アンジオテンシン-アルドステロン系の機能が理解できる。 3. 各副腎疾患の症状・治療を述べることができる。
5コマ目	<p>糖尿病</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 糖尿病の分類と病態生理を述べることができる。 2. 糖尿病の診断基準を述べることができる。 3. 糖尿病の薬物療法の種類と特徴を述べることができる。 4. 糖尿病のインスリン療法の種類と特徴を述べることができる。 5. 糖尿病の合併症について述べることができる。 6. 糖尿病性昏睡の病態生理を理解する。

2026年度

腎臓内科

曜日・時限		配当学年	1学年	期区分		単位数		授業方法	講義
開講学科等	看護学科3年課程								
教員名	有馬 秀二、中谷 嘉寿								

科目の目標

以下の項目について述べられる。

(腎臓内科学)

1. 腎臓病の構造と機能
2. 腎臓病の症候と病態
3. 腎臓病の検査
4. 腎臓病の治療一般
5. 糖尿病性腎臓病の病態と治療

関連教科

内分泌・代謝内科

時間外学習（予習・復習・課題）

予習は不要ですが、可能なら講義後に教科書と配布資料を読んで下さい。

オフィスアワー

(腎臓内科のみ) 月曜日 16:00~17:00

成績評価方法・基準

評価項目	割合
試験評価	
内分泌・代謝と合わせて100点満点の試験となります。	

テキスト

系統看護学講座専門II 成人看護学8 腎・泌尿器

参考文献

参考URL

<https://www.med.kindai.ac.jp/jinzou/>

特記事項

①実務経験のある教員による科目（本務先）

有馬秀二

近畿大学医学部 腎臓内科学教室

①実務経験のある教員による科目（専門領域）

腎臓病学

②実務経験のある教員による科目（本務先）

中谷嘉寿

近畿大学医学部 腎臓内科学教室

②実務経験のある教員による科目（専門領域）

腎臓病学、糖尿病学

③実務経験のある教員による科目（本務先）

③実務経験のある教員による科目（専門領域）

④実務経験のある教員による科目（本務先）

④実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑤実務経験のある教員による科目（本務先）

⑤実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑥実務経験のある教員による科目（本務先）

⑥実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑦実務経験のある教員による科目（本務先）

⑦実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑧実務経験のある教員による科目（本務先）

⑧実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑨実務経験のある教員による科目（本務先）

⑨実務経験のある教員による科目（専門領域）

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
講義 1	(腎臓内科) 腎臓の構造と機能を概説し、病態との関連・検査値の異常・治療に関して説明します。
講義 2	腎臓病の各論、特に慢性腎不全の原因として最多の糖尿病性腎臓病に重点を置く

2026年度

臨床検査論

曜日・時限		配当学年	2学年	期区分		単位数	1単位	授業方法	講義
開講学科等	看護学科3年課程								
教員名	森田 泰慶、古垣内 美智子、辻本 麻愉、竹下 律子、岸野 好純、米本 圭佑、戸田 宏文								

科目の目標
疾患の診断や治療効果の判定を行う手段としての臨床検査を理解する。臨床検査の種類とその目的、各検査の正しい検体の採取・保存方法および検査方法を学び、臨床検査における看護師の役割を学ぶ。

関連教科
臨床医学に関わる全科

時間外学習（予習・復習・課題）
特に予習と課題は要求しない。

オフィスアワー

成績評価方法・基準

評価項目	割合
試験	

テキスト

教科書：系統看護学講座別巻 臨床検査
医学書院

参考文献

参考URL

特記事項

教科書として系統看護学講座別巻 臨床検査（医学書院）を使用する。講義には必ず持参する必要がある。

①実務経験のある教員による科目（本務先）

森田 泰慶
近畿大学病院

①実務経験のある教員による科目（専門領域）

血液学的検査

②実務経験のある教員による科目（本務先）

古垣内 美智子
近畿大学病院 臨床検査部

②実務経験のある教員による科目（専門領域）

細菌学的検査

③実務経験のある教員による科目（本務先）

竹下 律子
近畿大学病院 臨床検査部

③実務経験のある教員による科目（専門領域）

血液学的検査

④実務経験のある教員による科目（本務先）

辻本 麻愉
近畿大学病院 臨床検査部

④実務経験のある教員による科目（専門領域）

血液学的検査

⑤実務経験のある教員による科目（本務先）

岸野 好純
近畿大学病院 臨床検査部

⑤実務経験のある教員による科目（専門領域）

内分泌・免疫学的検査

⑥実務経験のある教員による科目（本務先）

米本 圭佑
近畿大学病院 臨床検査部

⑥実務経験のある教員による科目（専門領域）

生化学的検査

⑦実務経験のある教員による科目（本務先）

戸田 宏文
近畿大学病院 臨床検査部

⑦実務経験のある教員による科目（専門領域）

生化学的検査

⑧実務経験のある教員による科目（本務先）

⑧実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑨実務経験のある教員による科目（本務先）

⑨実務経験のある教員による科目（専門領域）

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
1回目（森田先生）	臨床検査の種類、採取、検体の流れとその役割について述べる事が出来る。 臨床検査に携わる看護師の役割について述べる事が出来る。 臨床現場即時検査（POCT）の特徴とそれに該当する検査を列挙できる。
2回目（古垣内先生）	感染症検査について習得する。 感染症診療における臨床検査（イムノクロマト法、血清検査、培養検査、遺伝子検査）の流れと役割を説明できる。 培養検査における塗抹検査、同定検査、薬剤感受性検査について説明できる。 各種感染症と原因微生物（細菌、真菌、ウイルスなど）を関連づけ、それぞれの微生物を検出する検査法を説明できる。
3回目（竹下先生）	一般検査について習得する。 一般検査にはどんな検査があるのか説明できる。 尿生成の流れ、尿の分類・種類、尿検査（外観・尿量・定性試験・尿沈渣）について説明できる。 便潜血検査の意義、脳脊髄検査・体腔内貯留液検査の目的・検査内容について理解できる。
4回目（辻本先生）	血液学的検査の基礎知識を習得する。 血球検査・凝固検査の各項目について列挙することができる。 末梢血液像・骨髄像での各細胞の特徴を述べる事が出来る。 骨髄穿刺の手順・検査の流れについて述べる事が出来る。 染色体・遺伝子検査について理解することができる。
5回目（岸野先生） 免疫・血清学的検査	液性免疫に関する理解を深め、免疫グロブリン検査や自己抗体検査の基本的知識を修得する。また、測定原理に抗原抗体反応を用いる腫瘍マーカー検査についても学ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> ・主な炎症マーカーとその意義について説明できる。 ・免疫グロブリンの種類および特徴について説明できる。 ・主な自己免疫疾患と自己抗体を挙げることができる。 ・腫瘍マーカーの概念および検査の意義について説明できる。
7回目（米本先生）	下垂体ホルモンとその制御下にある内分泌器官の調節機構について学び、主な内分泌疾患における関連ホルモンの動向を理解する。 <ul style="list-style-type: none"> ・下垂体ホルモンと主な内分泌器官の調節機構を説明できる。 ・下垂体ホルモンの分泌異常と関連する内分泌疾患を挙げることができる。 ・甲状腺ホルモンと主な甲状腺疾患の関係性について説明できる。 ・副腎皮質および髄質のホルモンと主な内分泌疾患を列挙できる。
6回目（岸野先生） 内分泌学的検査	生化学検査の基礎知識を習得し、血清蛋白・血清酵素・糖代謝・脂質代謝の各検査項目を列挙できるようになる。 主要な検査結果の特徴と異常値の解釈を述べる事ができ、代表的な疾患との関連を理解する力を身につける。
7回目（米本先生）	生化学検査の基礎知識を習得し、窒素化合物・骨代謝・腎機能・電解質・鉄代謝・血液ガス・ビタミン・血中薬物の各検査項目を列挙できるようになる。 主要な検査結果の特徴と異常値の解釈を述べる事ができ、代表的な疾患との関連を理解する力を身につける。

2026年度

微生物学

曜日・時限		配当学年	1学年	期区分		単位数	1単位	授業方法	講義
開講学科等	看護学科3年課程								
教員名	田中 宏樹								

科目の目標

ヒトの病気の原因となる微生物には様々な種類があるが、その分類と感染した場合に起こる生体の反応を病態とともに理解する。さらに、感染症が起きたときに用いられる抗生剤等の作用機序を理解する。また、医療人として医療現場でのそれらの感染症をどのように未然に防ぐかを理解する。

関連教科

ウイルス学、細菌学、真菌学、原虫学、薬理学、免疫学、病理学

時間外学習（予習・復習・課題）

教科書を事前に熟読し予習する。授業中に配布されたプリント、授業中に書き加えたメモ等を読んで復習する。練習問題等の課題があった場合は、解答のみを暗記するのではなく、周辺知識とともに論理的に理解する。

オフィスアワー

成績評価方法・基準

評価項目	割合
終講試験	

テキスト

系統看護学講座専門基礎 疾病の成り立ちと回復の促進 4
医学書院

参考文献

標準微生物学
医学書院

参考URL

特記事項

小テストの成績、授業態度も評価に反映させる場合もあります。

①実務経験のある教員による科目（本務先）
国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所

①実務経験のある教員による科目（専門領域）
病理学 分子生物学

②実務経験のある教員による科目（本務先）

②実務経験のある教員による科目（専門領域）

③実務経験のある教員による科目（本務先）

③実務経験のある教員による科目（専門領域）

④実務経験のある教員による科目（本務先）

④実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑤実務経験のある教員による科目（本務先）

⑤実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑥実務経験のある教員による科目（本務先）

⑥実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑦実務経験のある教員による科目（本務先）

⑦実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑧実務経験のある教員による科目（本務先）

⑧実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑨実務経験のある教員による科目（本務先）

⑨実務経験のある教員による科目（専門領域）

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
1回目	<ol style="list-style-type: none"> 1. ヒトの周囲に存在する微生物の関係について学ぶ。 2. 真核生物、原核生物、ウイルスの違いについて理解する。 3. 細菌の構造と複製について学ぶ。 4. 細菌と真菌の違いについて学ぶ。 5. ウイルス、原虫について知る。
2回目	<ol style="list-style-type: none"> 1. 感染経路、感染症の発症とは何かを知る。 2. 滅菌、消毒について学ぶ。 3. 医療現場での予防策について知る。
3回目	<ol style="list-style-type: none"> 1. 病原体を排除する免疫システムについて知る。 2. 生体に備わる免疫システムとそれに関わる器官、組織について知る。 3. 自然免疫と獲得免疫について知る。 4. 細胞性免疫と液性免疫について知る。
4回目	<ol style="list-style-type: none"> 1. 病原体の検査方法について知る。 2. 抗菌薬の種類について知る。
5回目	<ol style="list-style-type: none"> 1. 病原性細菌による感染症に関する概略 2. クロストリジウム、黄色ブドウ球菌、結核菌、アスペルギルスなどが引き起こす各臓器における病態を学ぶ。
6回目	<ol style="list-style-type: none"> 1. 真菌感染症に関する概略 2. 表在性真菌症と深在性真菌症とはどのような病態かを理解する。
7回目	<ol style="list-style-type: none"> 1. ウイルス感染症に関する概略 2. ウイルス感染症から起こる慢性疾患（肝硬変、肝癌、子宮頸がんなど）について知る。

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
8回目	<ol style="list-style-type: none">1. マラリア感染、トリコモナス感染について知る。2. 感染症、免疫機構についての総復習

2026年度

健康科学

曜日・時限		配当学年	1学年	期区分		単位数	1単位	授業方法	講義
開講学科等	看護学科3年課程								
教員名	森脇 崇、大島 薫、永見 周子								

科目の目標
健康とスポーツのかかわりを理解し、ライフスタイルに生かすための素養を獲得する。

関連教科

時間外学習（予習・復習・課題）

- ・健康とスポーツとの関わりを理解したうえで、自らの実生活において実践する。
- ・日々の生活の中で、運動を取り入れる意識づけを行い、習慣化していく。

オフィスアワー

授業の前後（あらかじめメールにて連絡をお願いします） takashi.moriwaki21@gmail.com

成績評価方法・基準

評価項目	割合
講義・実技：平常評価（授業内課題、授業態度・参加意欲など）	
演習（出席状況、態度、レポートなど）	

テキスト

オリジナル資料

参考文献

授業内で適宜紹介する。

参考URL

特記事項

- ・健康とスポーツとの関わりを理解したうえで、自らの実生活において学習内容を実践する。
- ・日々の生活の中で、運動を取り入れる意識づけを行い、習慣化していく。
- ・自らの実生活において学習内容を時間外学習する。

①実務経験のある教員による科目（本務先）

森脇 崇
一般社団法人日本フライングディスク協会インストラクター

①実務経験のある教員による科目（専門領域）

スポーツ実技（フライングディスク）
スポーツを通したSDGs活動

②実務経験のある教員による科目（本務先）

大島 薫

②実務経験のある教員による科目（専門領域）

スポーツ実技

③実務経験のある教員による科目（本務先）

永見 周子
訪問看護ステーション淀川ひまわり

③実務経験のある教員による科目（専門領域）

訪問看護（リラクゼーション・アロマセラピー・リンパドレナージュ）

④実務経験のある教員による科目（本務先）

④実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑤実務経験のある教員による科目（本務先）

⑤実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑥実務経験のある教員による科目（本務先）

⑥実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑦実務経験のある教員による科目（本務先）

⑦実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑧実務経験のある教員による科目（本務先）

⑧実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑨実務経験のある教員による科目（本務先）

⑨実務経験のある教員による科目（専門領域）

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
1	<p>オリエンテーション（授業の内容、進め方、評価方法、自己紹介など）（森脇先生）</p> <p>理論：講義室／健康スポーツ科学（森脇先生） スポーツを通したSDGs活動について実録を基に知識を深める ※授業の終わりに理解度課題を実施</p>
2～7	<p>実技：グラウンド（森脇・大島先生） 天候とグラウンドの状態に応じて、フライングディスク競技を中心にスポーツを通して、身体的健康・心理的健康・社会的健康を学ぶ （小雨時はウォーキング、大雨時は映像を使い競技理解を深め、身体的健康・心理的健康・社会的健康を学ぶ）</p>
8	<p>理論：講義室／健康スポーツ科学（森脇先生） スポーツを通したSDGs活動について実録を基に知識を深める ※授業の終わりに理解度課題を実施</p>
9・10回	<p>演習：講義室と実習室（永見先生）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リラクゼーションが身体に与える影響を学ぶ。 ・アロマテラピー・リンパドレナージの必要性和実際を学ぶ。

2026年度

心理学

曜日・時限		配当学年	1学年	期区分		単位数	1単位	授業方法	講義
開講学科等	看護学科3年課程								
教員名	池本 明弘								

科目の目標

看護にとって、患者の気持ちを知り共感することは重要である。そのためには、人間の基本的な心理を理解することが望まれる。この講義では、一般的な心理学上の知見に基づいて、患者の気持ちを理解するための基本を学ぶ。

関連教科

独自資料

時間外学習（予習・復習・課題）

特に必要としないが、常に、自分と他者との考え方、感じ方の違いに関心を持つ姿勢で臨むことを期待する。

オフィスアワー

特に設けない。質問等は随時。

成績評価方法・基準

評価項目	割合
全講義終了後、レポート課題提出。	

テキスト

特に指定しない。

参考文献

心理学、脳科学、および、行動遺伝学に関するもの全般

参考URL

特記事項

①実務経験のある教員による科目（本務先）

近畿大学農学部学生相談室

①実務経験のある教員による科目（専門領域）

臨床心理学。脳科学。行動遺伝学。

②実務経験のある教員による科目（本務先）

②実務経験のある教員による科目（専門領域）

③実務経験のある教員による科目（本務先）

③実務経験のある教員による科目（専門領域）

④実務経験のある教員による科目（本務先）

④実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑤実務経験のある教員による科目（本務先）

⑤実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑥実務経験のある教員による科目（本務先）

⑥実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑦実務経験のある教員による科目（本務先）

⑦実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑧実務経験のある教員による科目（本務先）

⑧実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑨実務経験のある教員による科目（本務先）

⑨実務経験のある教員による科目（専門領域）

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
生理心理	脳の構造と心の成り立ち。脳の左右差、文化差、男女差。LGBTQIに対する理解。
睡眠と覚醒	睡眠のリズムと心理変化。睡眠の重要性。睡眠が精神・心理状態にどう影響するのか？睡眠不足で現れる現象。
遺伝と性格の関係	最近の研究では、性格のかなりの部分が遺伝子の影響を受けていることが解ってきている。しかし世間では、性格は教育でほとんど決まると考えられている。このズレを理解し、遺伝と教育(環境)の相互作用を理解する。
認知心理	認知とは何か？ 人の情報処理の心理学モデル。短期記憶、長期記憶、ワーキングメモリ。
<small>ストレスと人間性、PTSD、虐待被害、自殺的傾向のフォローアップもある。</small> ストレス理論とコーピング。セリエとラザルスの考え方。さらに、目的論的アプローチの考え方について理解する。その上で、多方面からの理解の仕方を身につける。	
発達心理	Eriksonの心理社会的発達。発達課題。自我同一性。 Piagetの認知発達理論。感覚運動期、前操作期、具体的操作期、形式的操作期。 Vygotskyの発達の最近接領域
印象形成。態度変容。	人の印象を左右する要因。スキーマとヒューリスティックス。印象形成を誤らせる要因。 態度変容を促す要因。説得的コミュニケーション。スリーパー効果。自己知覚理論。心理的リアクタンス理論。認知的不協和理論。

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
<small>ヒューマンエラーと災害事故災害時の心理と行動</small>	エラーの分類とメカニズム。エラー対策。 災害時にパニックや暴力が発生するのか？ 災害時にみられる心理と行動。

2026年度

リハビリテーション概論

曜日・時限		配当学年	2学年	期区分		単位数	1単位	授業方法	講義
開講学科等	看護学科3年課程								
教員名	木村 保、藤田 修平、古澤 啓一、永吉 理香、磯野 千春								

科目の目標

リハビリテーションを理解し、チームの一員として適切な看護を行うことができる。

関連教科

特になし

時間外学習（予習・復習・課題）

講義のポイントが理解できるよう、予習・復習を行っておくこと。

オフィスアワー

平日の午後5時30分以降であれば可能だが、講師個人や日によって、会議やカンファレンス、所用があつて受けられないことがある。

成績評価方法・基準

評価項目	割合
終講試験	

テキスト

ナーシング・グラフィカ 成人看護学6 リハビリテーション看護

参考文献

参考URL

特記事項

①実務経験のある教員による科目（本務先）

木村 保

近畿大学病院 リハビリテーション部

①実務経験のある教員による科目（専門領域）

リハビリテーション（理学療法）

②実務経験のある教員による科目（本務先）

永吉 理香

近畿大学奈良病院 リハビリテーション部

②実務経験のある教員による科目（専門領域）

リハビリテーション（理学療法）

③実務経験のある教員による科目（本務先）

古澤 啓一

近畿大学病院 リハビリテーション部

③実務経験のある教員による科目（専門領域）

リハビリテーション（作業療法）

④実務経験のある教員による科目（本務先）

磯野 千春

近畿大学病院 リハビリテーション部

④実務経験のある教員による科目（専門領域）

リハビリテーション（言語聴覚療法）

⑤実務経験のある教員による科目（本務先）

藤田 修平

近畿大学病院 リハビリテーション部

⑤実務経験のある教員による科目（専門領域）

リハビリテーション（理学療法）

⑥実務経験のある教員による科目（本務先）

⑥実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑦実務経験のある教員による科目（本務先）

⑦実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑧実務経験のある教員による科目（本務先）

⑧実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑨実務経験のある教員による科目（本務先）

⑨実務経験のある教員による科目（専門領域）

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
<p>本村 保 近畿大学病院 リハビリテーション部</p>	<p>リハビリテーションの概念・理念とチームアプローチ（テキスト第1～4章） 【目標】 リハビリテーションの概念・理念について学び、諸段階で関わる専門職種 の役割およびチームアプローチについて理解する。 【内容】 ・リハビリテーションの定義やそこで用いられる概念について ・チームアプローチについて</p>
<p>藤田 裕平近畿大学病院 リハビリテーション部</p>	<p>運動器疾患のリハビリテーション（テキスト第5・7章） 【目標】 ・運動器リハビリテーションの概念を理解する。 ・廃用症候群とその予防について理解する。 【内容】 ・運動器リハビリテーションの対象、評価、訓練について ・寝たきりによる廃用性症候群について／症例紹介</p>
<p>藤田 裕平近畿大学病院 リハビリテーション部</p>	<p>呼吸リハビリテーション（テキスト第5・7章） 【目標】 呼吸リハビリテーションの概要を理解する。 【内容】 ・呼吸の基礎 ・肺疾患と呼吸リハビリテーションについて ・早期離床の目的と方法</p>
<p>古澤 理一近畿大学病院 リハビリテーション部</p>	<p>脳血管疾患のリハビリテーション（テキスト第5・7章） 【目標】 脳血管疾患の障害像を理解し、適切な看護ができる。 【内容】 ・脳血管疾患の障害像 ・脳血管疾患のリハビリテーション</p>
<p>古澤 理一近畿大学病院 リハビリテーション部</p>	<p>作業療法（テキスト第5・7章） 【目標】 作業療法の概要や特徴について理解する 【内容】 ・作業療法の概要 ・作業療法の実施</p>
<p>本宮 博香近畿大学奈良病院 リハビリテーション部</p>	<p>高次脳機能障害のリハビリテーションと嚥下リハビリテーション（テキスト第5・7章） 【目標】 高次脳機能障害のリハビリテーションと嚥下リハビリテーションを理解する。 【内容】 ・高次脳機能障害の概説とアセスメント ・高次脳機能障害のリハビリテーション ・摂食嚥下障害のリハビリテーション</p>
<p>磯野 千春近畿大学病院 リハビリテーション部</p>	<p>心臓リハビリテーション（テキスト第5・7章） 【目標】 心疾患の障害像を理解し、適切な看護ができる。 【内容】 ・心疾患の障害像 ・心臓リハビリテーション</p>
<p>本宮 博香近畿大学奈良病院 リハビリテーション部</p>	<p>生活の再構築への援助（テキスト第6章） 【目標】 患者および家族をトータルでサポートする考え方や方法を理解する。 【内容】 生活の再構築を援助する考え方やその具体的方法について</p>

2026年度

公衆衛生学

曜日・時限		配当学年	1学年	期区分		単位数	1単位	授業方法	講義
開講学科等	看護学科3年課程								
教員名	久保 佐智美、田中 麻理、李 嘉琦、岡本 華奈								

科目の目標

公衆衛生活動の担い手である看護師に必要な公衆衛生の知識と技術を学ぶ。

関連教科

健康科学、社会福祉、関係法規、微生物学

時間外学習（予習・復習・課題）

予習：各講義前日までに、講義で取り上げる内容に相当する教科書の単元を読むこと。

復習：各講義終了後、講義プリントと教科書を読み直すこと。また、関連事項を調べ必要な知識を補充すること。

オフィスアワー

火曜日13:00~15:00

成績評価方法・基準

評価項目	割合
終講試験評価	

テキスト

専門基礎 公衆衛生 健康支援と社会保障制度2
医学書院

参考文献

国民衛生の動向 2025/2026
厚生労働統計協会

参考URL

特記事項

①実務経験のある教員による科目（本務先）

久保 佐智美、田中 麻理、李 嘉琦、岡本 華奈
近畿大学医学部公衆衛生学教室

①実務経験のある教員による科目（専門領域）

公衆衛生、疫学

②実務経験のある教員による科目（本務先）

②実務経験のある教員による科目（専門領域）

③実務経験のある教員による科目（本務先）

③実務経験のある教員による科目（専門領域）

④実務経験のある教員による科目（本務先）

④実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑤実務経験のある教員による科目（本務先）

⑤実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑥実務経験のある教員による科目（本務先）

⑥実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑦実務経験のある教員による科目（本務先）

⑦実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑧実務経験のある教員による科目（本務先）

⑧実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑨実務経験のある教員による科目（本務先）

⑨実務経験のある教員による科目（専門領域）

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
1回目	<p>1. 公衆衛生の概念 目標：①公衆衛生の領域を列挙できる。②予防の3段階について具体的項目を列挙できる。③プライマリヘルスケアについて説明できる。④世界保健機構（WHO）の活動を説明できる。</p> <p>2. 健康と環境、疫学的方法 目標：①健康の成立要因について具体的に説明できる。②健康に影響する環境要因を列挙できる。③疫学的手法の基本概念を説明できる。④臨床疫学とその根拠に基づく医学（EBM）について説明できる。</p>
2回目	<p>3. 健康の指標 目標：①総人口と年齢3区分別人口の動向について説明できる。②人口動態統計の各項目とその動向について説明できる。③平均余命、平均寿命、健康寿命について説明できる。④有病率、罹患率、受療率について説明できる。</p> <p>4. 感染症とその予防 目標：①感染症の成立要因と感染の伝播様式について説明できる。②感染症の類型について具体例を挙げて説明できる。③感染症予防対策について説明できる。④主要な感染症について説明できる。</p>
3回目	<p>5. 医療・介護の保障制度 目標：①医療保障について説明できる。②医療保険について説明できる。③主な公的医療制度を列挙できる。④診療報酬・国民医療費について説明できる。⑤介護保険について概説できる。</p> <p>6. 地域保健活動（ヘルスサービスの構造） 目標：①保健所と市町村保健センターの役割と業務を説明できる。②医療施設の種類を説明できる。③保健・医療関係の職種を列挙し業務を説明できる。</p>
4回目	<p>7. 生活習慣病・難病対策 目標：①主な生活習慣病の動向を説明できる。②健康日本21と健康増進法を説明できる。③生活習慣と健康の関係を説明できる。④難病対策について説明できる。</p> <p>8. 健康教育とヘルスプロモーション 目標：①健康教育の定義を説明できる。②ヘルスプロモーションの概念について説明できる。③ヘルスプロモーションの進め方について説明できる。</p>
5回目	<p>9. 精神保健福祉 目標：①地域精神保健福祉と精神障害者の援助について概説できる。②各発達ステージにおけるメンタルヘルスについて説明できる。</p> <p>10. 産業保健 目標：①労働衛生管理を構成する三管理について説明できる。②主な職業病とその対策について説明できる。③トータルヘルスプロモーションについて説明できる。</p>
6回目	<p>11. 母子保健 目標：①乳児死亡率、死産率、周産期死亡率、妊産婦死亡率について説明できる。②主な母子保健事業を列挙し、説明できる。③母子保健における今後の主要課題について説明できる。</p> <p>12. 学校保健 目標：①学校保健安全法による保健事業について説明できる。②学校における感染症予防について説明できる。③学校環境衛生の検査項目を列挙できる。④学校安全の背景と内容について説明できる。</p>
7回目	<p>13. 食品保健と栄養 目標：①食中毒の主な原因を挙げ、その特徴と予防法を説明できる。②食品衛生管理制度について説明できる。③国民健康・栄養調査からみた栄養上の問題点を列挙できる。</p> <p>14. 生活環境の安全 目標：①主な地球環境問題について説明できる。②水と空気的安全衛生について説明できる。③廃棄物処理の概要を説明できる。④住環境の衛生について説明できる。</p>

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
8コマ目	15. これまでの復習 目標：1コマ目から7コマ目の授業目標の内容について理解を深める。

2026年度

社会福祉 I

曜日・時限		配当学年	1学年	期区分		単位数	1単位	授業方法	講義
開講学科等	看護学科3年課程								
教員名	新城 美香子								

科目の目標
看護師として必要な社会福祉における基礎的知識や技術を習得することができる。

関連教科
特になし

時間外学習（予習・復習・課題）
受講前にテキストの該当箇所について通読しておいてください。

オフィスアワー

成績評価方法・基準

評価項目	割合
終講試験	

テキスト

系統看護学講座 専門基礎 社会保障・社会福祉 健康支援と社会保障制度③

医学書院

参考文献

参考URL

特記事項

①実務経験のある教員による科目（本務先）

近畿大学病院 事務部
患者支援センター

①実務経験のある教員による科目（専門領域）

社会福祉

②実務経験のある教員による科目（本務先）

②実務経験のある教員による科目（専門領域）

③実務経験のある教員による科目（本務先）

③実務経験のある教員による科目（専門領域）

④実務経験のある教員による科目（本務先）

④実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑤実務経験のある教員による科目（本務先）

⑤実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑥実務経験のある教員による科目（本務先）

⑥実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑦実務経験のある教員による科目（本務先）

⑦実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑧実務経験のある教員による科目（本務先）

⑧実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑨実務経験のある教員による科目（本務先）

⑨実務経験のある教員による科目（専門領域）

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
1コマ目	<p>社会保障制度と社会福祉</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、社会保障制度の目的と機能について説明ができる。 2、実際に看護をするうえで、どのような場面で社会保障・社会福祉との関連がでてくるのか説明できる。 3、わが国の保険医療の動向について説明ができる。
2コマ目	<p>現代社会の変化と社会保障・社会福祉の動向</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、現代社会の変化について説明ができる。 2、社会福祉サービスの動向について現代社会の問題との関連が説明できる。
3コマ目	<p>医療保障</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、医療保障制度に関する法律にはどのようなものがあるのか説明できる。 2、高額療養費制度について説明できる。 3、医療保険の種類とその対象者、特徴について説明できる。
4コマ目	<p>介護保障</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、介護保険制度が創設された社会的背景について説明できる。 2、介護保険の保険者と被保険者、給付内容について説明できる。 3、要介護（要支援）認定の方法について説明できる。
5コマ目	<p>所得保障</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、わが国の所得保障制度にはどのようなものがあるのか説明できる。 2、年金保険の種類とその対象者、給付の種類について説明できる。 3、労災年金の適応となる事故や障害、疾病などにはどのようなものがあるのか説明できる。
6コマ目	<p>公的扶助</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、生活保護実施における4つの原則について説明できる。 2、8つの扶助の内容と給付の特徴について説明できる。 3、低所得者対策について説明できる。
7コマ目	<p>社会福祉の分野とサービス・社会福祉の歴史</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、高齢者の生活状況について説明できる。 2、ノーマライゼーションの理念について説明できる。 3、児童相談所の役割について説明できる。 4、社会福祉の歴史を各段階ごとに説明できる。

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
8コマ目	社会福祉の実践と医療・看護 1、看護職が行う援助にはどのようなものがあるのか説明できる。 2、医療ソーシャルワーカーが必要とされる理由について説明できる。 3、各専門職種間や医療機関内で連携する際に留意すべき点について説明できる。

2026年度

社会福祉Ⅱ

曜日・時限		配当学年	3学年	期区分		単位数	1単位	授業方法	講義
開講学科等	看護学科3年課程								
教員名	辰己 愛子								

科目の目標
社会福祉Ⅰで学んだ内容について、事例を通して実践的な思考につなげて理解する。

関連教科
社会福祉Ⅰ

時間外学習（予習・復習・課題）
講義内容により、グループでの課題取り組みを予定。

オフィスアワー

成績評価方法・基準

評価項目	割合
終講試験	
グループ発表	

テキスト

系統看護学講座 専門基礎 社会保障・社会福祉 健康
医学書院

参考文献

参考URL

特記事項

①実務経験のある教員による科目（本務先）
近畿大学病院 社会福祉士

①実務経験のある教員による科目（専門領域）
社会福祉

②実務経験のある教員による科目（本務先）

②実務経験のある教員による科目（専門領域）

③実務経験のある教員による科目（本務先）

③実務経験のある教員による科目（専門領域）

④実務経験のある教員による科目（本務先）

④実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑤実務経験のある教員による科目（本務先）

⑤実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑥実務経験のある教員による科目（本務先）

⑥実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑦実務経験のある教員による科目（本務先）

⑦実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑧実務経験のある教員による科目（本務先）

⑧実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑨実務経験のある教員による科目（本務先）

⑨実務経験のある教員による科目（専門領域）

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
1コマ目	社会福祉 I の復習： 事例を通して制度の振り返り
2コマ目	社会福祉 I の復習： 事例を通して実践につなげることを考える（以降の事例展開の導入）
3コマ目	事例展開：事例①
4コマ目	事例展開：事例②
5コマ目	事例展開：事例③
7コマ目	事例展開：事例④
6コマ目	事例展開：事例⑤
7コマ目	グループ発表とまとめ

2026年度

関係法規

曜日・時限		配当学年	2学年	期区分		単位数	1単位	授業方法	講義
開講学科等	看護学科3年課程								
教員名	垣内 康宏								

科目の目標
保健医療に関する法規や制度の理解を通して、看護師の責任と義務について学びます。

関連教科
医療従事者として行う様々な行為の法的根拠を学ぶ重要な教科です。様々な科目にも関連する横断的な授業になりますのでしっかり学んでください。

時間外学習（予習・復習・課題）
教科書の該当頁に目を通しておいてください。

オフィスアワー
個別の質問等は授業前後で受け付けます。また、授業後の2限目終了後昼休憩時間に個別の要望に応じてオフィスアワーを設定します。

成績評価方法・基準

評価項目	割合
試験（空所補充一記述、選択問題一番号選択）	
授業中の質疑応答等に対する回答等	

テキスト
看護関係法令 健康支援と社会保障制度4
医学書院

参考文献
公衆衛生がみえる
メディックメディア

参考URL
なし

特記事項
なし

①実務経験のある教員による科目（本務先）
近畿大学医学部

①実務経験のある教員による科目（専門領域）
法医学

②実務経験のある教員による科目（本務先）

②実務経験のある教員による科目（専門領域）

③実務経験のある教員による科目（本務先）

③実務経験のある教員による科目（専門領域）

④実務経験のある教員による科目（本務先）

④実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑤実務経験のある教員による科目（本務先）

⑤実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑥実務経験のある教員による科目（本務先）

⑥実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑦実務経験のある教員による科目（本務先）

⑦実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑧実務経験のある教員による科目（本務先）

⑧実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑨実務経験のある教員による科目（本務先）

⑨実務経験のある教員による科目（専門領域）

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
1コマ目	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学習内容の概説 2. 看護の国際性について（条約と国内法の関係） 3. 看護の対象及び看護者の人生
2コマ目	<ol style="list-style-type: none"> 1. 国民衛生の動向 2. 看護師国家試験必出項目（医療保険・介護保険・保助看法等）の概況 3. 生命の始期と終期
3コマ目	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護行為の法的性格 2. コンプライアンス遵守と法的義務 3. 医療過誤と責任の種類
4コマ目	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保健衛生法規、予防衛生法規、医事薬事法規 2. 環境衛生、公害、学校関係法規
5コマ目	<ol style="list-style-type: none"> 1. 労働関係法規 2. 社会保障の概説 3. 社会保険制度、公的扶助制度
7コマ目	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会福祉制度 2. 児童福祉、母子福祉 3. 障害者福祉、高齢者福祉 4. 被災者福祉、貧困者福祉
6コマ目	<ol style="list-style-type: none"> 1. 全体の復習 2. 保健医療福祉のシステムの全体像
7コマ目	<ol style="list-style-type: none"> 1. 定期試験に向けた全体振り返り 2. 国試問題を用いた演習

2026年度

看護学入門

曜日・時限		配当学年	1学年	期区分		単位数	1単位	授業方法	講義
開講学科等	看護学科3年課程								
教員名	田上 晶子								

科目の目標

「看護とはなにか」について探求し続けるための基本的な考え方を身につける。看護の原点や看護の理念、歴史的背景、教育制度などについての学習を通して、看護の本質的価値や魅力に触れる。また、看護職に求められる倫理について学び、看護職としての姿勢を身につける基本的な学習を行う。

関連教科

看護過程方法論、基礎看護学実習Ⅰ、看護理論

時間外学習（予習・復習・課題）

ナイチンゲールプロジェクト学習での元ポートフォリオ、プレゼン用模造紙、凝縮ポートフォリオ作成は時間外で行います。
また、学習を進めるうえでの面接指導も時間外に行います。

授業での学びにおいて課題はその都度指示します。

ナイチンゲールプロジェクト学習を通して、学習の計画性や課題提出方法、時間管理や報告・連絡・相談などについて看護学生としての姿勢も学びます。

オフィスアワー

成績評価方法・基準

評価項目	割合
終講試験・授業内課題・態度評価（出席・提出期限等）	
ナイチンゲールプロジェクト学習課題	

テキスト

系統別看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学① 看護学概論

医学書院

看護覚え書き

日本看護協会出版会

看護の基本となるもの

日本看護協会出版会

看護職の基本的責務

日本看護協会出版会

参考文献

系統別看護学講座 別巻 看護倫理

医学書院

ケアの本質

ゆるみ出版

プロジェクト学習の基本と手法

教育出版

参考URL

特記事項

看護職を目指すにあたっての学び方をしっかりと身につけましょう。

授業時間内はもちろん、時間外での「学び方」を知ってもらう科目であると考えていますので、授業時間外での課題ができないと合格に結び付きません。

”資料を読み取る”ことは看護職として必要な能力のひとつです。特にナイチンゲールプロジェクト学習は、資料での説明が中心です。しっかりと読みこなし、不明な点は積極的に質問しましょう。

①実務経験のある教員による科目（本務先）

近畿大学附属看護専門学校

①実務経験のある教員による科目（専門領域）

教員経験；基礎看護学、小児看護学

臨床経験；小児看護、整形外科看護

②実務経験のある教員による科目（本務先）

②実務経験のある教員による科目（専門領域）

③実務経験のある教員による科目（本務先）

③実務経験のある教員による科目（専門領域）

④実務経験のある教員による科目（本務先）

④実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑤実務経験のある教員による科目（本務先）

⑤実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑥実務経験のある教員による科目（本務先）

⑥実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑦実務経験のある教員による科目（本務先）

⑦実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑧実務経験のある教員による科目（本務先）

⑧実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑨実務経験のある教員による科目（本務先）

⑨実務経験のある教員による科目（専門領域）

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
1回目	看護の魅力を知り、看護師を目指すうえで大切なことは何かを考えることができる。
2回目・3回目	看護の変遷、看護の定義から、看護の本質的価値について考えることができる。 1) 看護の変遷を知り、近代看護についての理解を深める。 2) ナイチンゲール、ヘンダーソンの考え方から「看護」について考えることができる。
4回目	看護の役割・機能について考えることができる。 看護のメタパラダイムである「人間」「環境」「健康」のつながりを考えることができる。
5回目・6回目・7回目	看護におけるメタパラダイム「人間」「環境」「健康」について考えることができる。 ※5回目はナイチンゲールプロジェクト学習のすすめ方を説明します。
8回目・9回目	職業としての看護と看護職の資格や制度について理解できる。 看護の提供のしくみについて理解できる。
10・11・12回目	看護における倫理を学び、看護者としての求められている姿勢を理解し、学生としての姿勢・行動について考えることができる。
13・14回目	ナイチンゲールプロジェクト学習 発表会 1) 聞き手にわかるプレゼンテーションができる。 2) 相手に配慮した評価の仕方がわかる。 3) 他者のプレゼンテーションから学ぶべき点を見出すことができる。

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
15回目	ナイチンゲールプロジェクト学習 凝縮ポートフォリオ評価会 1) 自分以外の考え方や発想を得て、自己の成長につなげることができる。 2) 「凝縮ポートフォリオ」を適切に評価（自己・他者）することができる。 3) 発表会での学びを活かしたポートフォリオが作成できる。

2026年度

看護理論

曜日・時限		配当学年	2学年	期区分		単位数	1単位	授業方法	講義
開講学科等	看護学科3年課程								
教員名	椎原 由美子								

科目の目標

看護の枠組みと方向性を導く主要な看護理論や患者理解のための看護理論など、様々な看護理論に触れ、そこから看護独自の機能を見だし、看護実践と理論を結びつける基礎を学ぶ。

関連教科

看護学入門
看護学全般

時間外学習（予習・復習・課題）

事前に「ケアの本質」ミルトン・メイヤロフ ゆみる出版を読んでおく。
看護学で学習した理論を想起し、看護理論に対する理解を深める。

オフィスアワー

月～金：8：30～17：30

成績評価方法・基準

評価項目	割合
終講試験	
課題、レポート	

テキスト

系統看護学講座 専門I 看護学概論 基礎看護学①

医学書院

ケアの本質

ゆるみ出版 著) ミルトン・メイヤロフ

看護理論 看護理論20の理解と実践への応用

南江堂 著) 編集 筒井真優美

参考文献

事例でまなぶ 看護理論

Gakken

参考URL

特記事項

①実務経験のある教員による科目（本務先）

近畿大学附属看護専門学校

①実務経験のある教員による科目（専門領域）

臨床経験：救急看護、内科看護（呼吸器）

教員経験：在宅看護論、基礎看護学

②実務経験のある教員による科目（本務先）

②実務経験のある教員による科目（専門領域）

③実務経験のある教員による科目（本務先）

③実務経験のある教員による科目（専門領域）

④実務経験のある教員による科目（本務先）

④実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑤実務経験のある教員による科目（本務先）

⑤実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑥実務経験のある教員による科目（本務先）

⑥実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑦実務経験のある教員による科目（本務先）

⑦実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑧実務経験のある教員による科目（本務先）

⑧実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑨実務経験のある教員による科目（本務先）

⑨実務経験のある教員による科目（専門領域）

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
1回目	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護理論を学ぶ意義を理解する。 2. 看護理論が看護実践や看護研究の中から発展してきたことを理解する。
2回目	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護理論が看護実践や看護研究の中から発展してきたことを理解する。 2. 主要な看護理論家の看護概念を学ぶ。
3回目	<ol style="list-style-type: none"> 1. 主要な看護理論家の看護概念を学ぶ。
4回目	<ol style="list-style-type: none"> 1. 主要な看護理論家の看護概念を学ぶ。
5回目	<ol style="list-style-type: none"> 1. 3. ミルトン・メイヤロフ ケアの本質からケアについて考える
7回目	<ol style="list-style-type: none"> 1. 事例についてケアの本質を用いて考える。 2. グループで話し合い、発表内容をまとめ、発表原稿をまとめる。
6回目	<ol style="list-style-type: none"> 1. 発表会 グループで話し合い、内容をまとめたものを発表する。
7回目	<ol style="list-style-type: none"> 1. 発表会 グループで話し合い、内容をまとめたものを発表する。

2026年度

看護過程方法論

曜日・時限		配当学年	1学年	期区分		単位数	1単位	授業方法	講義
開講学科等	看護学科3年課程								
教員名	田上 晶子								

科目の目標

看護実践の方法論として、看護の守備範囲や看護問題の表記方法など看護問題/看護診断の基礎を含めて、問題志向型システムである看護過程を理解する。看護過程の展開を行ううえでの基礎的知識を学び、事例を使った演習を行う。

関連教科

看護学入門、ヘルスアセスメントⅠをはじめとする基礎看護学科目
解剖生理など専門基礎分野科目

時間外学習（予習・復習・課題）

情報の分析には、解剖生理学や病理学、疾病論などの知識が必要です。また、看護を考えるにあたっては、自ら知識を得ていくことが求められます。そのため、時間外での自己学習は必須となりますので、自己学習や課題の取り組みも評価の対象とします。

看護過程の展開を理解するには、毎回提示する課題を行わないと理解が難しくなってきますので、必ず実施しておきましょう。

オフィスアワー

成績評価方法・基準

評価項目	割合
終講試験	
<small>看護過程展開課題（課題の取り組み内容、提出期限を守ることやグループワーク、個人ワークでの取り組みを評価します）</small>	

テキスト

系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ
医学書院

NANDA - I 看護診断 定義と分類 2024 - 2026

医学書院

看護がみえる④ 看護過程

メディックメディア

看護がみえる⑤ 対象の理解Ⅰ

メディックメディア

系統看護学講座 専門Ⅰ 臨床看護総論

医学書院

参考文献

看護がみえる ①基礎看護技術 ③フィジカルアセスメント
メディックメディア

参考URL

特記事項

看護過程の展開は、授業を聞いているだけでは習得できない看護技術の一つです。しっかりと授業に参加しましょう。また、個人ワークだけの習得も難しい科目です。グループワークを多用しますので、協同学習のスキルも身につけ、グループ内での個人の責任をしっかりと果たし、“学び合う”ことで理解を深めてください。

①実務経験のある教員による科目（本務先）

近畿大学附属看護専門学校

①実務経験のある教員による科目（専門領域）

教員経験；基礎看護学、小児看護学

臨床経験；小児看護、整形外科看護

②実務経験のある教員による科目（本務先）

②実務経験のある教員による科目（専門領域）

③実務経験のある教員による科目（本務先）

③実務経験のある教員による科目（専門領域）

④実務経験のある教員による科目（本務先）

④実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑤実務経験のある教員による科目（本務先）

⑤実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑥実務経験のある教員による科目（本務先）

⑥実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑦実務経験のある教員による科目（本務先）

⑦実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑧実務経験のある教員による科目（本務先）

⑧実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑨実務経験のある教員による科目（本務先）

⑨実務経験のある教員による科目（専門領域）

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
1回目・2回目	<p>看護過程とは何かを理解できる。 ※ナイチンゲールプロジェクト学習で学んだことから理解を深める。</p>
2回目	<p>健康状態の経過に基づく看護について理解できる。 1) 健康状態各期の定義が理解できる。 2) 健康レベルに応じた看護の必要性について理解できる。</p>
3・4回目	<p>看護過程の展開 ①アセスメント 看護における情報の必要性和情報収集、情報の整理について理解できる。</p>
5・6・7回目	<p>看護過程の展開 ①アセスメント 収集・整理した情報から患者の現状、問題の原因、問題のなりゆきを、既習の知識を使って考えることができる。</p>
8・9回目	<p>看護過程の展開 ②問題の明確化（看護診断） アセスメントの内容から、NANDA - Iの看護診断を導くことができる。</p>
10・11回目	<p>看護過程の展開 ②問題の明確化（看護診断） 機能的健康パターンごとに抽出した看護診断を統合し、看護診断を統合することができる。 統合した看護診断（複数）の優先順位を考えることができる。</p>
12・13回目	<p>看護過程の展開 ③計画立案 長期目標、短期目標の理解から、具体的な計画立案ができる。</p>

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
14回目	看護過程の展開 ④実施・評価 計画に基づく実施とその評価の意義について理解できる。
15回目	看護記録 1) 看護記録の法的位置づけや規定、目的を理解することで正しい記録とは何かが理解できる。 2) 看護者として情報の保護について、必要性和方法について理解できる。

2026年度

ヘルスアセスメント論 I

曜日・時限		配当学年	1学年	期区分		単位数	1単位	授業方法	講義
開講学科等	看護学科3年課程								
教員名	椎原 由美子、山下 久美子								

科目の目標

看護の対象者の健康状態を把握するために必要なヘルスアセスメントについて学ぶとともに、対象の身体的状態を客観的に観察する技術として、身体計測とバイタルサイン測定の意義と方法を学ぶ。学内演習を通し、バイタルサイン測定の基本技術を習得する。

関連教科

コミュニケーション技法
解剖生理学 I・II・III
共通基本技術 I・II
生活援助論 I

時間外学習（予習・復習・課題）

- ヘルスアセスメントとしてのスクリーニングの技法を理解して、バイタルサイン測定の実習に臨む。
- バイタルサイン（意識・呼吸・循環・体温）に関連する解剖生理学の知識を想起して臨む。
- 13コマ目の学内実習ガイダンスまでに、バイタルサインに関連する自己学習を進める。
（課題：①設定患者の発達段階の特徴 ②体温調整のメカニズム ③バイタルサインの生理的変動因子 ④バイタルサイン測定の意義、観察内容、測定方法と留意事項）
- 技術練習についてはガイダンス時に説明します。

オフィスアワー

・月～金 8:30～17:30
・学内演習（技術練習）期間中の授業時間外に技術指導が可能な時間は、学内演習ガイダンス時に説明します。

成績評価方法・基準

評価項目	割合
筆記試験	
記録類（基礎看護技術実施要項）、提出物（課題）学内演習：技術の習得状況、練習状況	

テキスト

系統別看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 I
医学書院
系統別看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 II
医学書院
看護がみえる ③：フィジカルアセスメント
メディックメディカ

参考文献

参考URL

特記事項

指示された課題の提出期限は厳守する。
グループ行動における自己の責任を果たす。
バイタルサインに関連する解剖生理学の知識を想起して臨む。
学内実習では時間を有効に活用し、積極的に技術練習を行う。

①実務経験のある教員による科目（本務先）

椎原由美子
近畿大学附属看護専門学校

①実務経験のある教員による科目（専門領域）

臨床経験：救急看護、内科看護（呼吸器）
教員経験：在宅看護論、基礎看護学

②実務経験のある教員による科目（本務先）

山下久美子
近畿大学附属看護専門学校

②実務経験のある教員による科目（専門領域）

臨床経験：内科看護（循環器・消化器）、脳神経外科看護、小児看護、母性看護
教員経験：基礎看護学

③実務経験のある教員による科目（本務先）

③実務経験のある教員による科目（専門領域）

④実務経験のある教員による科目（本務先）

④実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑤実務経験のある教員による科目（本務先）

⑤実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑥実務経験のある教員による科目（本務先）

⑥実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑦実務経験のある教員による科目（本務先）

⑦実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑧実務経験のある教員による科目（本務先）

⑧実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑨実務経験のある教員による科目（本務先）

⑨実務経験のある教員による科目（専門領域）

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
1コマ目	講義：椎原 1. ヘルスアセスメントの意義と目的について述べるができる。 2. ヘルスアセスメントに必要な技術の構成と運用について述べるができる。
2～3コマ目	講義：椎原 1. 全身の概要を把握するための技術の実際について述べるができる。 2. 全身の身体的自覚症状を把握するための内容と方法について述べるができる。 3. 精神・身体的機能を把握するための確認すべき項目と選択肢について述べるができる。
4コマ目	1. 健康歴と保健行動を把握するための確認すべき項目について述べるができる。
5コマ目	1. 生活状況とその背景を把握するための確認すべき項目について述べるができる。
6コマ目	講義：椎原 1. ヘルスアセスメントとして、バイタルサインの観察を行う意義について理解できる。
7コマ目	講義：椎原 バイタルサインの観察：体温 1. 体温調節機能に関する復習ができる。 2. 体温の正常と異常が理解できる。 3. 体温の観察と測定方法について理解できる。
8コマ目	講義：椎原 バイタルサインの観察：呼吸 1. 換気のみかズムと呼吸の調整について復習できる。 2. 呼吸の正常と異常について理解できる。 3. 呼吸の観察と測定方法について理解できる。

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
9～10コマ目	<p>講義：椎原 バイタルサインの観察：循環（脈拍・心拍・血圧）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 循環動態の基礎的知識の復習ができる。 2. 脈拍・心拍・血圧の正常と異常、環境因子について理解できる。 3. 脈拍・心拍・血圧の観察と測定方法について理解できる。
11コマ目	<p>講義：椎原 バイタルサインの観察：意識レベル</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 意識が正常に保たれるしくみについて理解できる。 2. 意識レベルの正常と異常、観察と測定方法について理解できる。
12コマ目	<p>講義：椎原 ヘルスアセスメントとして、身体計測を行う意義について理解できる。</p> <p>身体計測</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 身体各部の計測方法と留意点について理解できる。
13コマ目	<p>学内演習：ガイダンス：椎原</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学内演習において何を学ぶか明確にする。 2. 模擬事例について具体的にイメージできる。 3. デモンストレーション見学を通して測定方法がわかる。
14～18コマ目	<p>技術練習：椎原（15コマ目～山下教員と2名）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. グループ別にバイタルサイン測定の練習を行う。 2. バイタルサインの測定結果を正しく記録する。 3. 立位および仰臥位での腹囲を正しく測定できる。
19～20コマ目	<p>学内演習：個別に教員による技術チェック・指導を受ける。※ユニフォーム着用</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. グループ別に「臥床患者のバイタルサイン測定」を実施する。 2. バイタルサインの測定結果を正しく記録できる。 3. 測定した結果と観察した内容を報告できる。

2026年度

ヘルスアセスメント論Ⅱ

曜日・時限		配当学年	2学年	期区分		単位数	1単位	授業方法	講義
開講学科等	看護学科3年課程								
教員名	中谷 能子、山下 久美子、武田 ひとみ、毛野 和代、椎原 由美子								

科目の目標

対象の身体的状態を系統的に観察する技術を学ぶ。
得られた情報から解釈・分析するための基本的知識・技術を修得する。

関連教科

解剖生理学
病理学総論
ヘルスアセスメント論Ⅰ
共通基本技術論Ⅰ・Ⅱ

時間外学習（予習・復習・課題）

既習の関連教科について復習を行い、講義・演習に臨む。

オフィスアワー

講義時間外の技術練習（事前に申し出ること）
放課後：講義終了後～17：45（18：00には下校できるように）

成績評価方法・基準

評価項目	割合
筆記試験	

テキスト

看護がみえる③フィジカルアセスメント
メディック メディア

参考文献

参考URL

特記事項

提出物・演習・受講態度も評価に加味されます。

①実務経験のある教員による科目（本務先）

椎原 由美子
近畿大学附属看護専門学校

①実務経験のある教員による科目（専門領域）

臨床経験；救急看護、内科看護（呼吸器）
教員経験；在宅看護論、基礎看護学

②実務経験のある教員による科目（本務先）

武田 ひとみ
近畿大学附属看護専門学校

②実務経験のある教員による科目（専門領域）

臨床経験；小児看護
教員経験；小児看護学、基礎看護学

③実務経験のある教員による科目（本務先）

山下 久美子
近畿大学附属看護専門学校

③実務経験のある教員による科目（専門領域）

臨床経験；内科看護（循環器・消化器）脳神経外科看護、小児看護、母性看護
教員経験；基礎看護学

④実務経験のある教員による科目（本務先）

中谷 能子
近畿大学附属看護専門学校

④実務経験のある教員による科目（専門領域）

臨床経験；母性看護、新生児看護
教員経験；母性看護学、小児看護学、基礎看護学

⑤実務経験のある教員による科目（本務先）

毛野 和代
近畿大学附属看護専門学校

⑤実務経験のある教員による科目（専門領域）

臨床経験；母性看護、精神看護学、脳神経内科
教員経験；母性看護学 基礎看護学

⑥実務経験のある教員による科目（本務先）

⑥実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑦実務経験のある教員による科目（本務先）

⑦実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑧実務経験のある教員による科目（本務先）

⑧実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑨実務経験のある教員による科目（本務先）

⑨実務経験のある教員による科目（専門領域）

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
第1～3回	講義・演習：中谷 フィジカルアセスメント総論 呼吸器系 1. 呼吸器も構造と機能が理解できる。 2. 呼吸の観察方法が理解できる。 3. 呼吸の観察が実施できる。 4. 得られた情報から呼吸状態の評価ができる。
第4～6回	講義・演習：山下 循環器系 1. 心臓の構造と機能が理解できる。 2. 心臓・血管について観察方法が理解できる。 3. 末梢循環の観察が実施できる。 4. 心音の聴取が実施できる。
第7・8回	講義：武田 皮膚・頭部・感覚器系 1. 感覚器の構造と機能が理解できる。 2. 脳神経の機能を理解し、観察方法と留意点がわかる。 3. 皮膚・頭部・感覚器系の観察が実施できる。
第9・10回	講義・演習：椎原 筋・骨格系・神経 1. 筋・骨格系のアセスメントの意義・観察方法・留意点が理解できる。 2. 中枢神経の構造と機能が理解できる。 3. 生命維持の観察方法、意識状態の評価方法、運動系の観察方法が理解できる。 4. 筋・骨格系・脳神経の観察が実施できる。 5. 得られた情報から筋・骨格系、運動系、神経系の状態の評価ができる。
第11・12回	講義：中谷 消化器系 1. 消化器系の構造と機能が理解できる。 2. 消化器系の観察方法が理解できる。 3. 消化器系の観察ができる。 4. 得られた情報から消化器系の評価ができる。
第13回	事例演習：基礎看護学教員 1. 慢性閉塞性肺疾患・大動脈弁閉鎖不全症の事例について、問診・視診・触診・聴診において観察項目は何かを述べるができる。
第14・15	事例演習：基礎看護学教員 1. 第13回の講義を踏まえ、事例の観察項目をもとに病態をフィジカルアセスメントすることができる。

2026年度

人間関係論

曜日・時限		配当学年	2学年	期区分		単位数	1単位	授業方法	講義
開講学科等	看護学科3年課程								
教員名	佐藤 栄晃								

科目の目標

講義とワークを通し、基本的な人間関係のあり方、看護におけるスタッフ間・チーム中での人間関係と病気を抱える人とその家族との関係について理解し、人の心について多面的な見方、考え方ができるようになる。

関連教科

心理学
コミュニケーション技法

時間外学習（予習・復習・課題）

授業内容を参考に自分や他人が日々どのように人との関わりをしているのか、照らし合わせてみてください。
また、自分にとってプラスになると思える内容は普段の生活に反映させてみましょう。

オフィスアワー

成績評価方法・基準

評価項目	割合
終講試験	
授業教室（グループワークへの取り込み方、ミニレポートなど）	
出席日数	

テキスト

系統看護学講座基礎分野 人間関係論
出) 医学書院

参考文献

参考URL

特記事項

①実務経験のある教員による科目（本務先）
関西大学大学院 心理学研究科 博士課程後期課程 満退

①実務経験のある教員による科目（専門領域）
社会心理学、感情心理学

②実務経験のある教員による科目（本務先）

②実務経験のある教員による科目（専門領域）

③実務経験のある教員による科目（本務先）

③実務経験のある教員による科目（専門領域）

④実務経験のある教員による科目（本務先）

④実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑤実務経験のある教員による科目（本務先）

⑤実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑥実務経験のある教員による科目（本務先）

⑥実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑦実務経験のある教員による科目（本務先）

⑦実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑧実務経験のある教員による科目（本務先）

⑧実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑨実務経験のある教員による科目（本務先）

⑨実務経験のある教員による科目（専門領域）

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
第1回	人間関係とは？（人間関係のとらえ方、プロセスなど） ・人間関係論の成り立ちから、人間関係論としての基本的な視点について理解する。
第2回	対人関係の成り立ち、社会的役割について ・対人関係の確立とそれに伴う諸理論について学ぶ。
第3回	コミュニケーションとは？ ・日常に扱われるコミュニケーションの種類と機能について理解する。
第4回	他者への態度について（説得や援助など） ・他者への働きかけとそれに伴う反応について理解する。
第5回	集団と個人について（課題解決と意思決定など） ・集団が個人に与える対人関係の影響について理解する。
第6回	コミュニケーションの技法 ・コミュニケーションの基本的な効果とその技法について体験を交えて理解する。
第7回	カウンセリングと心理療法について（理論とスキル） ・カウンセリングと心理療法の違いと各分野での主なアプローチを学ぶ。

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
第8回	看護におけるチームワークについて（チーム医療と人間関係） ・ 同じ目的を持ったチームでの人間関係構築の基礎を学ぶ。
第9回	看護におけるチームワークについて（チームワークとコミュニケーションエラー） ・ チーム内で起きる人間関係を原因としたミスについて理解する。
第10回	患者を支える人間関係について（患者・医療関係者間の人間関係） ・ 患者と医療関係者の関係構築について、人間関係論の視点から理解する。
第11回	患者を支える人間関係について（様々な場面での人間関係） ・ 場面ごとのアプローチ方法について事例を交えて学ぶ。
第12回	患者と家族を支える人間関係について（家族のケアとアプローチ） ・ 患者の家族への対応と人間関係の構築について理解する。
第13回	ソーシャルサポートについて（周りを巻き込む人間関係） ・ 地域資源を元にした人間関係の構築と患者へのサポートについて学ぶ。
第14回	看護における人間関係とは？ ・ 人間関係論の講義で学んだ、自分に必要なスキルや考え方をワークを通して整理する。

第14回

人間関係論とは？

- ・ 第1回から第14回までの内容について振り返りを行う。

2026年度

共通基本技術論 I

曜日・時限		配当学年	1学年	期区分		単位数	1単位	授業方法	講義
開講学科等	看護学科3年課程								
教員名	毛野 和代								

科目の目標

1. 感染予防の意義と原則を理解し、院内感染の原因やその制御のための基礎知識と感染予防の方法を学ぶ
2. 学内演習を通し、無菌操作の基本的方法を習得する。

関連教科

解剖生理学
微生物学

時間外学習（予習・復習・課題）

1. 感染について、関連する微生物学の知識を想起して臨む。
 2. 7・8コマ目の学内演習までに、実施する自己学習を進める。
- 課題：①衛生的手洗い ②個人防護用具の着脱の仕方 ③滅菌手袋の着脱の仕方 ④無菌操作（滅菌パックの開け方・滅菌包の開け方・滅菌物の取り出し方・鑷子の取り扱い・綿球の取り出し方、受け渡し方）

オフィスアワー

特になし

成績評価方法・基準

評価項目	割合
筆記試験	
学内演習状況、態度、提出物	

テキスト

系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 I 基礎看護学2

医学書院

看護が見える① 基礎看護技術

メディック メディカ

参考文献

看護がみえる①基礎看護技術

メディックメディア

参考URL

特記事項

①実務経験のある教員による科目（本務先）

毛野 和代

近畿大学附属看護専門学校

①実務経験のある教員による科目（専門領域）

臨床経験:母性看護、精神看護学、脳神経内科

教員経験:母性看護学、基礎看護学

②実務経験のある教員による科目（本務先）

②実務経験のある教員による科目（専門領域）

③実務経験のある教員による科目（本務先）

③実務経験のある教員による科目（専門領域）

④実務経験のある教員による科目（本務先）

④実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑤実務経験のある教員による科目（本務先）

⑤実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑥実務経験のある教員による科目（本務先）

⑥実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑦実務経験のある教員による科目（本務先）

⑦実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑧実務経験のある教員による科目（本務先）

⑧実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑨実務経験のある教員による科目（本務先）

⑨実務経験のある教員による科目（専門領域）

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
1コマ目	感染予防① 1. 感染のメカニズムおよび感染予防の意義と目的を理解する。 2. 感染予防のための組織と役割について理解する。
2コマ目	感染予防② 1. 標準予防策（スタンダードプリコーション）の基礎知識について理解する。
3コマ目	感染予防③ 1. 標準予防策（スタンダードプリコーション）の実際の方法について理解する。 2. 感染経路別予防策の基礎的知識（接触予防策・飛沫予防策・空気予防策）について理解する。
4コマ目	感染予防④ 1. 感染源への対策として、医療器具の洗浄・消毒・滅菌について理解する。
5コマ目	感染予防⑤ 1. 無菌操作の基礎的知識と方法について理解する。
6コマ目	感染予防⑥ 1. 感染性廃棄物の取り扱いについて理解する。 2. カテーテル関連血液感染対策、針刺し防止について理解する。
7・8コマ目	感染予防 演習（ユニホーム着用） 演習内容：衛生的手洗い、滅菌手袋の着脱方法、ガウンテクニック、無菌操作

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
9コマ目	創傷管理 1. 創傷の治癒過程と治癒形態について理解する。
10コマ目	包帯法 1. 包帯の種類と方法、洗濯について理解する。 2. 包帯の巻き方について理解する。
11コマ目	筆記試験

2026年度

共通基本技術論Ⅱ

曜日・時限		配当学年	1学年	期区分		単位数	1単位	授業方法	講義
開講学科等	看護学科3年課程								
教員名	中谷 能子								

科目の目標

- 人間にとっての環境の意味を理解し、健康的な生活環境を整えるための援助の方法を学ぶ。
- 人間の生活における活動と休息について学ぶ。
- 安全・安楽およびボディメカニクスについて理解し、活動と休息への援助方法について学ぶ。

関連教科

- ・解剖生理学Ⅰ
- ・解剖生理学Ⅱ
- ・看護学入門
- ・共通基本技術Ⅰ

時間外学習（予習・復習・課題）

- 課題 ①ベッドメイキング：目的、準備物品、手順、根拠、留意点
②リネン交換の目的：準備物品、手順、根拠、留意点
③体位変換・体位保持：目的、準備物品、手順、根拠、留意点
④車椅子移乗・移送：目的、準備物品、手順、根拠、留意点
⑤ストレッチャー移乗・移送：目的、準備物品、手順、根拠、留意点
- ベッドメイキング、リネン交換の技術練習

オフィスアワー

月～金 8：30～17：30 教務室担当者に申し出てください。

成績評価方法・基準

評価項目	割合
筆記試験	
提出物、練習状況	

テキスト

系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③

医学書院

看護がみえる vol.① 基礎看護技術

MEDIC MEDIA

参考文献

参考URL

特記事項

- ・学内演習時の身だしなみについて理解した上で、学内演習に臨んでください。

①実務経験のある教員による科目（本務先）

中谷 能子

近畿大学附属看護専門学校

①実務経験のある教員による科目（専門領域）

臨床経験:母性看護、新生児看護

教員経験:母性看護学、小児看護学、基礎看護学

②実務経験のある教員による科目（本務先）

②実務経験のある教員による科目（専門領域）

③実務経験のある教員による科目（本務先）

③実務経験のある教員による科目（専門領域）

④実務経験のある教員による科目（本務先）

④実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑤実務経験のある教員による科目（本務先）

⑤実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑥実務経験のある教員による科目（本務先）

⑥実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑦実務経験のある教員による科目（本務先）

⑦実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑧実務経験のある教員による科目（本務先）

⑧実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑨実務経験のある教員による科目（本務先）

⑨実務経験のある教員による科目（専門領域）

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
1コマ目	看護技術について 1. 看護技術の特徴について知る。 環境調整技術 1. 生活環境の意義について理解する。 2. 生活環境が健康に及ぼす影響について理解する。
2コマ目	環境調整技術 援助の基礎知識 1. 病室の環境のアセスメントと調整について理解する。 2. ベッド周囲の環境整備について理解し、実践をイメージする。
3コマ目	環境調整技術 1. ベッドメイキングの目的・実施方法を理解し、実践をイメージできる。 2. 学内演習（ベッドメイキング）の目的・方法が理解する。
4～5コマ目	環境調整技術 援助の実際 *学内演習 1. 学内演習でベッドメイキングを実践する。
6コマ目	活動・休息援助技術① 睡眠と休息の援助 1. 睡眠と休息が人間の生命や生活に与える影響を理解する。 2. 睡眠を促す必要がある状況と対応した援助について理解する。
7～8コマ目	活動・休息援助技術② 姿勢・ボディメカニクス・体位変換 1. 姿勢の基礎知識、ボディメカニクスの原理を理解する。 2. さまざまな体位とその目的を理解し、身体を動かすこと・保持することの生理的・身体的意義を理解する。体位変換の援助を学ぶ。
9コマ目	苦痛の緩和・安全確保の技術 1. 体位保持（ポジショニング）の意義を理解する。

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
10コマ目	<p>活動・休息援助技術③</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 移送の基本と移動を補助する器具について理解し、杖歩行の援助を学ぶ。 2. 車椅子・ストレッチャーについて理解し、移乗の援助と移送の方法を学ぶ。
11コマ目	<ol style="list-style-type: none"> 1. リネン交換の目的・実施方法を理解し、実践をイメージする。 2. 学内演習（体位変換・ポジショニング、車椅子移乗・移動）を目的・方法を理解する。
12～13コマ目	<p>活動・休息援助技術 *学内演習</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 安楽な体位を保持する方法を身につける。 2. 車椅子移乗・移送を実践する。 3. 対象が安全・安楽に移動できる援助方法を習得する。
14～15コマ目	<p>環境調整技術 *学内演習</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 臥床患者のシーツ交換の目的・実施方法を理解し実践する。 2. 学内演習で臥床患者のリネン（シーツ）交換を実践する。 3. 活動・休息援助技術で学んだ知識・技術・態度を活用し実践する。
16コマ目	筆記試験

2026年度

生活援助論 I

曜日・時限		配当学年	1学年	期区分		単位数	1単位	授業方法	講義
開講学科等	看護学科3年課程								
教員名	山下 久美子、武田 ひとみ								

科目の目標

1. 人間の生活における身体の清潔と衣生活の意義を理解し、清潔および更衣の援助方法について学ぶ。
2. 学内実習を通し、清潔援助・寝衣交換について考え、実施する。
 - 1) 皮膚の構造と生理機能を理解し、清拭・寝衣交換が実施できる。
 - 2) 部分浴により、臥床患者の血液循環を促進し、爽快感を与えることができる。
 - 3) 毛髪の構造と生理的機能を理解し、臥床患者に洗髪・結髪が実施できる。
 - 4) 陰部の構造と特徴を理解し、臥床患者の陰部洗浄が実施できる。

関連教科

解剖生理学
共通基本技術論 II

時間外学習（予習・復習・課題）

課題：全身清拭（石鹼清拭）・足浴・手浴・洗髪・陰部洗浄・寝衣交換の根拠と手順
課題についての詳細は、講義内で説明します。

オフィスアワー

講義時間以外に技術練習を行う場合は、事前に申し出ること。

- ・月～金 8：00～17：45まで（18：00には学校を出られるように計画的に行動する）
- ・土 8：00～11：45まで（12：00には学校を出られるように計画的に行動する）
- ・17～21コマ目にあたる学内実習期間中の授業時間外に練習指導が可能な時間は、学内実習ガイダンス時に説明します。

テキスト

系統看護学講座 専門 I 基礎看護技術 II 基礎看護学
医学書院
看護がみえる① 基礎看護技術
MEDIC MEDIA

成績評価方法・基準

評価項目	割合
筆記試験	
技術の習得状況、態度（技術練習時）、課題提出物	

参考文献

講義内で紹介します。

参考URL

特記事項

4コマ目以降は、講義時間内および講義時間外を有効に活用し、計画的かつ積極的に技術練習を行う。
技術練習に関する時間帯にオフィスアワーを参照する。

①実務経験のある教員による科目（本務先）

山下久美子
近畿大学附属看護専門学校

①実務経験のある教員による科目（専門領域）

臨床経験:内科看護（循環器・消化器）脳神経外科看護、小児看護、母性看護
教員経験:基礎看護学

②実務経験のある教員による科目（本務先）

武田ひとみ
近畿大学附属看護専門学校

②実務経験のある教員による科目（専門領域）

臨床経験:小児看護
教員経験:基礎看護学、小児看護学

③実務経験のある教員による科目（本務先）

③実務経験のある教員による科目（専門領域）

④実務経験のある教員による科目（本務先）

④実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑤実務経験のある教員による科目（本務先）

⑤実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑥実務経験のある教員による科目（本務先）

⑥実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑦実務経験のある教員による科目（本務先）

⑦実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑧実務経験のある教員による科目（本務先）

⑧実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑨実務経験のある教員による科目（本務先）

⑨実務経験のある教員による科目（専門領域）

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
1コマ目	<ol style="list-style-type: none"> 1. 皮膚、粘膜の構造と機能について理解することができる。 2. 身体の清潔が生体や精神に及ぼす影響と意義について理解できる。
2コマ目	<ol style="list-style-type: none"> 1. 全身清拭の意義を理解し、効果的な援助方法と留意点について理解できる。
3コマ目	<ol style="list-style-type: none"> 1. 洗髪・足浴・手浴の意義を理解し、効果的な援助方法と留意点について理解できる。
4コマ目	<ol style="list-style-type: none"> 1. 陰部洗浄の意義を理解し、効果的な援助方法と留意点について理解できる。 2. 衣生活の意義を理解する。 3. 病衣交換の方法と留意事項について理解できる。
5・6コマ目	<p>清潔援助 演習①②</p> <p>実施項目：「全身清拭・寝衣交換、陰部洗浄、洗髪、足浴、手浴」</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 専門家チームに対して教員がデモンストレーションを行う。 2. 専門家チームの技術練習
7・8コマ目	<p>清潔援助 演習③④</p> <p>実施項目：「全身清拭・寝衣交換、陰部洗浄、洗髪、足浴、手浴」</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 専門家チームで技術練習
9・10コマ目	<p>清潔援助 演習⑤⑥</p> <p>実施項目：「全身清拭・寝衣交換」</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 専門家からメンバーへデモンストレーションを行う。 2. グループ内で技術練習

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
11・12コマ目	清潔援助 演習⑦⑧ 実施項目：「陰部洗浄」 1. 専門家からメンバーへがデモンストレーションを行う。 2. グループ内で技術練習
13・14コマ目	清潔援助 演習⑨⑩ 実施項目：「洗髪：岡本式洗髪器」 1. 専門家からメンバーへデモンストレーションを行う。 2. グループ内で技術練習（岡本式洗髪器使用）
15・16コマ目	清潔援助 演習⑪⑫ 実施項目：「足浴、手浴」 1. 専門家からメンバーへデモンストレーションを行う。 2. グループ内で練習
17コマ目	1. 学内演習についてのガイダンス
18・19コマ目	学内演習 演習項目：「陰部洗浄・足浴」 1. グループ別に指導教員の技術チェックを受ける。 2. 演習後にリフレクションを行う。
20・21コマ目	学内演習 演習項目：「臥床患者の洗髪（岡本式洗髪器使用）」 1. グループ別に指導教員の技術チェックを受ける。 2. 演習後にリフレクションを行う。
22・23コマ目	学内実習 演習内容：臥床患者の全身清拭・寝衣交換 1. グループ別に指導教員の技術チェックを受ける。 2. 演習後にリフレクションを行う。

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
24コマ目	筆記試験

2026年度

生活援助論Ⅱ

曜日・時限		配当学年	1学年	期区分		単位数	1単位	授業方法	講義
開講学科等	看護学科3年課程								
教員名	毛野 和代、中谷 能子								

科目の目標

1. 人間の生活における食と排泄の意義を理解し、その援助方法を学ぶ。
2. 学内演習を通し、排泄援助について考え、実施する。

関連教科

- ・解剖生理学ⅠⅡ
- ・代謝栄養学Ⅰ
- ・看護学入門
- ・ヘルスアセスメント論Ⅰ
- ・共通基本技術論ⅠⅡ
- ・生活援助論Ⅰ

時間外学習（予習・復習・課題）

- ・受講前に「経鼻経管栄養法」「中心静脈栄養法」「導尿」「グリセリン浣腸」「摘便」「罨法」について、目的、必要物品、手順、留意点について学習しておくこと。
- ・「グリセリン浣腸」動画を視聴したうえで9回目を受講すること。
- ・「導尿」動画を視聴したうえで15回目を受講すること。

オフィスアワー

講義時間外に技術練習を行う場合は、事前に申し出ること

放課後：講義終了～17：45（18：00には全員下校できるように）

成績評価方法・基準

評価項目	割合
筆記試験	
態度、課題提出	

テキスト

系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③

医学書院

看護がみえるvol① 基礎看護技術

メディックメディア

看護がみえるvol② 臨床看護技術

メディックメディア

参考文献

参考URL

特記事項

①実務経験のある教員による科目（本務先）

中谷 能子

近畿大学附属看護専門学校

①実務経験のある教員による科目（専門領域）

臨床経験:母性看護、新生児看護

教員経験:母性看護学、小児看護学、基礎看護学

②実務経験のある教員による科目（本務先）

毛野和代

近畿大学附属看護専門学校

②実務経験のある教員による科目（専門領域）

臨床経験:母性看護、精神看護、脳神経内科看護

教員経験:母性看護学、基礎看護学

③実務経験のある教員による科目（本務先）

③実務経験のある教員による科目（専門領域）

④実務経験のある教員による科目（本務先）

④実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑤実務経験のある教員による科目（本務先）

⑤実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑥実務経験のある教員による科目（本務先）

⑥実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑦実務経験のある教員による科目（本務先）

⑦実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑧実務経験のある教員による科目（本務先）

⑧実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑨実務経験のある教員による科目（本務先）

⑨実務経験のある教員による科目（専門領域）

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
第1回	<p>食事援助技術</p> <ol style="list-style-type: none"> 人間の生活における食事を摂る意味、望ましい栄養摂取状態について学ぶ。
第2回	<p>食事援助技術</p> <ol style="list-style-type: none"> 対象の栄養状態および食欲・摂食能力のアセスメントの方法を理解する。
第3回	<p>食事援助技術</p> <ol style="list-style-type: none"> 非経口的栄養摂取の援助の概略について理解し、経鼻経管栄養法の具体的な方法を学ぶ。 中心静脈栄養法について学ぶ。
第4回	<p>食事援助技術</p> <ol style="list-style-type: none"> 食事介助の具体的な方法を学ぶ。 経口的な栄養摂取が行いにくい場合の摂食・嚥下訓練について学ぶ。
第5回	<p>食事援助技術</p> <ol style="list-style-type: none"> 食事援助の実際を学ぶ。 食事介助の実際を学ぶ。
第6回	<p>排泄援助技術</p> <ol style="list-style-type: none"> 排泄の意義とメカニズム、アセスメントの方法を理解する。 自然排尿および自然排便の介助の実際を学ぶ。 <ol style="list-style-type: none"> トイレにおける排泄介助 床上排泄援助 おむつによる排泄援助
第7回	<p>排泄援助技術</p> <ol style="list-style-type: none"> 排便を促す援助について学ぶ。 臥床患者に対する床上排泄の援助技術を学ぶ。

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
第8回	排泄援助技術 1. 一時的導尿、持続的導尿について学ぶ。
第9～11回	学内演習「グリセリン浣腸」 1. 学内演習において何を学ぶのかを明確にできる。 2. 模擬事例について具体的にイメージできる。 デモンストレーションを見学しグループ毎に浣腸の練習を行う。
第12～13回	学内演習（ユニホーム着用） 装着モデルを使用し、「臥床患者のグリセリン浣腸」を教員の指導のもとグループ別を実施する。
第14回	排泄援助技術 摘便について学ぶ。
第15～17回	学内演習「導尿」 1. 学内演習において何を学ぶのかを明確にできる。 2. 模擬事例について具体的にイメージできる。 デモンストレーションを見学しグループ毎に導尿の練習を行う。
第18～19回	学内演習（ユニホーム着用） 装着モデルを使用し「臥床患者の導尿」を教員の指導のもとグループ別を実施する。
第20回	苦痛の緩和・安楽確保の技術 罨法について学ぶ。

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
第21回	筆記試験

2026年度

診療補助技術

曜日・時限		配当学年	2学年	期区分		単位数	1単位	授業方法	講義
開講学科等	看護学科3年課程								
教員名	武田 ひとみ								

科目の目標

薬物療法における看護師の役割を理解し、与薬に関する基礎的知識と安全な与薬方法を学ぶ。
診察・検査における看護師の役割とその目的を理解し、診察・検査時の対象への援助方法を学ぶ。
学内演習を通し、安全で確実な与薬方法を考え、実施する。

関連教科

解剖生理学
臨床薬理学総論・各論
臨床検査論
ヘルスアセスメント論Ⅰ・Ⅱ
共通基本技術Ⅰ・Ⅱ
生活援助論Ⅰ・Ⅱ

時間外学習（予習・復習・課題）

既習の関連教科について復習を行い、講義に臨む。
「経口与薬・経口内与薬」「吸入」「点眼」「点鼻」「経費的与薬」「直腸内与薬」「注射（皮下注射・皮内注射・筋肉内注射・静脈内注射・点滴静脈内注射）」「輸血管理」について教科書を読み、予習しておくこと。
「生体検査」「検体検査」について教科書を読み、予習しておくこと。

オフィスアワー

講義時間外の技術練習（事前に申し出ること）
放課後：講義終了後～17：45（18：00には下校できるように）

成績評価方法・基準

評価項目	割合
筆記試験	
学内演習・態度・提出物・講義準備（忘れ物）等	

テキスト

系統別看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学Ⅲ

医学書院

看護がみえる vol① 基礎看護技術

メディックメディア

看護がみえる vol② 臨床看護技術

メディックメディア

参考文献

参考URL

特記事項

技術演習・技術練習時は安全に留意して集中して実施すること

①実務経験のある教員による科目（本務先）

武田ひとみ

近畿大学附属看護専門学校

①実務経験のある教員による科目（専門領域）

臨床経験：小児看護

教員経験：小児看護学、基礎看護学

②実務経験のある教員による科目（本務先）

②実務経験のある教員による科目（専門領域）

③実務経験のある教員による科目（本務先）

③実務経験のある教員による科目（専門領域）

④実務経験のある教員による科目（本務先）

④実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑤実務経験のある教員による科目（本務先）

⑤実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑥実務経験のある教員による科目（本務先）

⑥実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑦実務経験のある教員による科目（本務先）

⑦実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑧実務経験のある教員による科目（本務先）

⑧実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑨実務経験のある教員による科目（本務先）

⑨実務経験のある教員による科目（専門領域）

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
第1回	<p>与薬の基礎</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 与薬に関する基礎知識を学ぶ。 2. 各与薬方法の違いを知り、薬物による人体への影響を理解する。 3. 薬物療法における看護師の役割について理解する。 4. 与薬に伴う危険性と法的責任を理解する。
第2～3回	<p>与薬の基礎</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 与薬の種類と目的について理解する。 2. 安全な与薬の実施方法を理解する。
第4～5回	<p>注射の実際</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 注射の種類と目的・方法について理解する。 皮下注射・皮内注射・筋肉内注射・静脈内注射 2. 安全な注射の実施方法を理解する。
第6～7回	<p>注射の実際（学内演習）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 安全に留意し、皮下注射・筋肉内注射の方法を理解する。
第8回	<p>輸血管理</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 輸血の取り扱いの基本について理解する。 2. 安全に輸血を実施するための援助方法を理解する。
第9回	<p>診察・検査</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 診察・検査の看護師の役割について理解する。 2. 診察・検査の対象者の心理を理解する。 3. 診察時の援助方法を理解する。 4. 検査と意義と目的・方法について理解する。 5. 検査の種類と検体採取の方法を理解する。 6. 検査時の援助方法・看護を理解する。
第10回	<p>診察・検査</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 検査の種類と検体採取の方法を理解する。 2. 検査時の援助方法・看護を理解する。

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
第11回	学内演習：静脈血採血 1. 静脈血採血の実施方法を理解する。
第12～14回	学内演習：点滴静脈内注射 1. 点滴静脈内注射の準備が正確にできる。 2. 装着モデルを用いて、点滴静脈内注射が実施できる。 3. 対象の安全・安楽を考え、実施時の観察・説明ができる。 ※第12回は演習に向けた技術練習になります。 第13・14回は技術演習になります。
第15回	輸液管理 1. 点滴静脈内注射中の滴下調整が実施できる。 2. 三方活栓の使用方法・注意点が理解できる。 3. 点滴静脈内注射実施中の観察点がわかる。
第16回	筆記試験

2026年度

総合基礎看護演習

曜日・時限		配当学年	2学年	期区分		単位数	1単位	授業方法	講義
開講学科等	看護学科3年課程								
教員名	武田 ひとみ								

科目の目標

既習の共通基本技術、日常生活援助技術についての知識・技術をもとに、対象の安全・安楽を考慮し、原理原則に基づいた日常生活援助を実施する。

関連教科

看護学入門
看護理論
看護過程方法論
ヘルスアセスメント論Ⅰ・Ⅱ
共通基本技術Ⅰ・Ⅱ
生活援助論Ⅰ・Ⅱ

時間外学習（予習・復習・課題）

既習の関連教科について復習を行い、演習に臨む。
（ヘルスアセスメント論Ⅰ、共通基本技術Ⅰ・Ⅱ、生活援助論Ⅰについて特に復習をしておくこと）

オフィスアワー

講義時間外の技術練習（事前に申し出ること）
放課後：講義終了後～17：45（18：00には下校できるように）
夏期休暇：技術練習の日程に合わせて実施する

成績評価方法・基準

評価項目	割合
実技試験	
講義準備（忘れ物など）、提出物、演習・技術練習に取り組む姿勢、	

テキスト

系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学②
医学書院

系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③
医学書院

看護がみえる vol.① 基礎看護技術
メディックメディア 著）編集：医療情報科学研究所

看護がみえる vol.② 臨床看護技術
メディックメディア 著）編集：医療情報科学研究所

フィジカルアセスメントがみえる
メディックメディア 著）編集：医療情報科学研究所

参考文献

参考URL

特記事項

演習、技術練習において、各自が安全に留意し実施すること

①実務経験のある教員による科目（本務先）

武田ひとみ

近畿大学附属看護専門学校

①実務経験のある教員による科目（専門領域）

臨床経験：小児看護

教員経験：小児看護学、基礎看護学

②実務経験のある教員による科目（本務先）

②実務経験のある教員による科目（専門領域）

③実務経験のある教員による科目（本務先）

③実務経験のある教員による科目（専門領域）

④実務経験のある教員による科目（本務先）

④実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑤実務経験のある教員による科目（本務先）

⑤実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑥実務経験のある教員による科目（本務先）

⑥実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑦実務経験のある教員による科目（本務先）

⑦実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑧実務経験のある教員による科目（本務先）

⑧実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑨実務経験のある教員による科目（本務先）

⑨実務経験のある教員による科目（専門領域）

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
第1回	<p>実習関係：ガイダンス 実技試験に向けて試験項目、練習の方法、評価について理解する。 ※ベッドメイキング、シーツ交換、体位変換、全身清拭、床上洗髪、手浴・足浴、陰部洗浄、など、既習の共通基本技術・日常生活援助技術について技術練習を行い実技試験を行う。 第2～7回の技術練習の計画を立案する。</p>
第2～7回：技術練習	<p>1. 既習の看護技術が原理・原則に基づき、安全安楽に実施できる。 ※第2・3回、第4・5回、第6・7回は続けて技術演習を行う。 技術練習項目については、ガイダンス（第1回）で説明する。</p>
第8・9回	<p>実技試験 1. 対象の安全安楽に配慮し、原理・原則をもとに指定された共通基本技術・日常生活援助技術を時間内で実施する。 ※試験の実施項目については、夏期休暇明けに伝達する。</p>

2026年度

地域・在宅看護総論 I

曜日・時限		配当学年	1学年	期区分		単位数	1単位	授業方法	講義
開講学科等	看護学科3年課程								
教員名	杉本 美恵								

科目の目標

人々の生活基盤としての「地域」を理解するとともに、人の生活の多様性や個別性を知ること、自助・互助・共助・公助の観点からその人らしい生活を支える意義について学ぶ。

関連教科

基礎看護概論、社会学、社会福祉、家族看護論、関係法規、成人看護学総論、老年看護学総論、小児看護学総論、母性看護学総論、精神看護学総論

時間外学習（予習・復習・課題）

授業時に課題を提示します。課題を行ったうえで授業に参加してください。

オフィスアワー

成績評価方法・基準

評価項目	割合
受講態度・提出物	
終講試験	

テキスト

系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の基盤
出版社：医学書院 著）河原 加代子 編

参考文献

ナーシンググラフィカ 地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア
メディカ出版 著）臺 有佳他

参考URL

特記事項

地域・在宅看護論実習 I を行うまでに基盤となる学習です。課題を行いグループ学習に臨むことで、より多くの学びを実習で得られることにつながります。

①実務経験のある教員による科目（本務先）

杉本 美恵

近畿大学附属看護専門学校

①実務経験のある教員による科目（専門領域）

専門領域

臨床経験：外科看護(脳外科)、内科看護(循環器・代謝内科、腎臓)、外来看護、訪問看護

教員経験：在宅看護論

②実務経験のある教員による科目（本務先）

②実務経験のある教員による科目（専門領域）

③実務経験のある教員による科目（本務先）

③実務経験のある教員による科目（専門領域）

④実務経験のある教員による科目（本務先）

④実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑤実務経験のある教員による科目（本務先）

⑤実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑥実務経験のある教員による科目（本務先）

⑥実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑦実務経験のある教員による科目（本務先）

⑦実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑧実務経験のある教員による科目（本務先）

⑧実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑨実務経験のある教員による科目（本務先）

⑨実務経験のある教員による科目（専門領域）

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
第1回：暮らしについて、地域を構成するものを知る。	<p>学習目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 暮らしを構成するものがわかる。 2. 時代・地域・価値観・時期や状況によって異なる個々の暮らしがあることがわかる。 3. ライフステージによる多様性、健康レベルによる多様性の視点がわかる。 <p>【課題1】：第2回までに提出。自己の暮らし方、生活の様子について他者に説明できるように記載する（教科書P26）</p> <p>※注意：自分にとって健康な暮らしに必要なもの（こと）について考えながらまとめる。</p> <p>【課題2】：自己の居住地域（地区）の自治会調べに関する説明（第5回までに提出）。</p>
第2回：暮らしと健康の関係について理解する。	<p>学習目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域・在宅看護論における生活及び地域の捉え方がわかる。 2. 地域で暮らす人の生活と健康を捉える視点がわかる。 3. 地域で生活する人の暮らし方を尊重することがわかる。
第3回：地域・在宅看護の重要性と暮らし方について理解する。	<p>学習目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域・在宅看護が重視される社会的背景を理解できる。 <ul style="list-style-type: none"> ①人口構造の変化、国民の価値観の変容、疾病構造の変化、地域格差、地域包括ケアの推進 2. 地域・在宅看護を展開するための基本理念がわかる。 3. 在宅・地域看護に求められる役割・機能を知ることができる。 <p>【課題3】 第7回までに提出</p> <ol style="list-style-type: none"> ①P52 大阪狭山市の地域特性について地域特性を調べまとめる。 ②インターネットで「第4次大阪狭山市地域福祉計画」現状と課題を検索してくる。 <p>※演習：教科書P28様々な暮らしの理解と、生活を支援する看護師の役割を考える。</p>
第4回：暮らしの基盤としての地域を理解する。	<p>学習目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域の定義、地域構造（人口、産業、住民・文化、人口密度）に多様性があることを知る。 <ul style="list-style-type: none"> ※自己の居住地域（地区）の自治会調べを活用する。 2. システム思考で個人・家族・地域についての捉え方がわかる。 3. 地域包括ケアシステムにおける「自助・互助・共助・公助」がわかる。 4. 地域共生社会について具体的なイメージを持つことができる。 <p>※演習：事例における地域の特徴と、自助互助の育成をする関わりを考えることができる。</p>
第5回：地域を支援するシステム設計、地域共生社会の理解と実践。	<p>学習目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学校が設立されている地域（大阪狭山市）の地域特性を理解するために必要な情報がわかる。 2. 地域構造（人口構成、産業、住民・文化、人口密度、コミュニティ機関）に関し情報収集したことをまとめることができる。 3. 事例学習を通して、ライフステージの特徴と健康レベルに合わせた生活者への支援についてイメージできる。

2026年度

地域・在宅看護総論Ⅱ

曜日・時限		配当学年	1学年	期区分		単位数	1単位	授業方法	講義
開講学科等	看護学科3年課程								
教員名	森 文美代、由谷 千代子、瓜田 朋子								

科目の目標

在宅看護の基本的な概念・目的及び、在宅看護に必要とされる倫理について学び、看護の対象となる療養者・家族の特徴とその人々を支えている法・制度について学ぶ。また、人々の暮らしを支える地域包括ケアシステムにおける多職種連携の必要性を理解し、看護職の機能及び果たすべき役割について学ぶ。地域包括ケアシステムの機能を理解し暮らしの場における、これからの在宅看護の在り方・展望について考えることができる。

関連教科

各看護学総論・援助論、社会福祉、関係法規、公衆衛生学、家族論

時間外学習（予習・復習・課題）

オフィスアワー

教務室に在室している時は対応します。出張等で不在の場合はメモで用件を知らせてください（折り返し連絡します）。

成績評価方法・基準

評価項目	割合
終講試験	
提出物・小テスト・受講態度	

テキスト

系統看護学講座 専門分野1 地域・在宅看護論1 地域医学書院 著)河原 加代子 編

参考文献

参考URL

特記事項

地域・在宅看護論実習Ⅰの学びを深められるよう実習で見聞した内容について生活や健康をめぐる社会の動向と関連づけたり、様々な視点から考察していきましょう。そして、地域や人々の多様性・個別性との向き合い方や社会資源の活用のあるあり方、対象の意思を尊重した看護のあり方について皆さん自身の考えを深めていただきたいと思います。

①実務経験のある教員による科目（本務先）

森 文美代
近畿大学附属看護専門学校

①実務経験のある教員による科目（専門領域）

臨床経験：内科看護（消化器・血液膠原病・腎臓）
教員経験：基礎看護学、成人看護学、地域・在宅看護論

②実務経験のある教員による科目（本務先）

瓜田 朋子
近畿大学病院患者支援センター

②実務経験のある教員による科目（専門領域）

臨床経験：退院調整
教員経験：地域・在宅看護論

③実務経験のある教員による科目（本務先）

由谷 千代子
大阪府太子町健康福祉部いきいき健康課 地域包括支援センター

③実務経験のある教員による科目（専門領域）

臨床経験：看護師 小児看護、母子保健
介護支援専門員 介護予防
教員経験：地域・在宅看護論

④実務経験のある教員による科目（本務先）

④実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑤実務経験のある教員による科目（本務先）

⑤実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑥実務経験のある教員による科目（本務先）

⑥実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑦実務経験のある教員による科目（本務先）

⑦実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑧実務経験のある教員による科目（本務先）

⑧実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑨実務経験のある教員による科目（本務先）

⑨実務経験のある教員による科目（専門領域）

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
<p>第1回 概論・在宅看護の歴史と展望 11月14日（水）13:00～15:00</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域・在宅看護の対象（家族）について世帯状況と関連づけて理解できる。 2. 家族機能や発達課題、家族システムの視点と関連づけて家族支援の意義を理解できる。
<p>第2回 概論・在宅看護の歴史と展望 11月21日（水）13:00～15:00</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本における家族介護者の状況について統計資料を確認できる。 2. 家族介護者が抱える現状とケアニーズの多様性について理解できる。
<p>第3回 地域における暮らしを支える看護の多様な視点について理解できる。 11月28日（水）13:00～15:00</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域における暮らしを支える看護の多様な視点について理解できる。 2. 暮らしを支える地域の活動機関について確認できる。
<p>第4回 地域包括ケアシステムの発展経緯と機能・役割について理解できる。 12月5日（水）13:00～15:00</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域包括ケアシステムの発展経緯と機能・役割について理解できる。 2. 療養移行支援の必要性と機能について理解できる。 3. 療養移行支援における多職種連携の必要性について理解できる。
<p>第5回 退院支援・退院調整の実際について理解できる。 12月12日（水）13:00～15:00</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 退院支援・退院調整の実際について理解できる。 2. 病院と訪問看護の連携、継続看護の必要性について理解できる。
<p>第6回 在宅療養・介護に必要な社会資源の概要および必要性について説明できる。 12月19日（水）13:00～15:00</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅療養・介護に必要な社会資源の概要および必要性について説明できる。
<p>第7回 ケアマネジメントの目的・機能・基本的なプロセスについて説明できる。 12月26日（水）13:00～15:00</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. ケアマネジメントの目的・機能・基本的なプロセスについて説明できる。 2. 介護保険制度におけるケアマネジメントの特徴・意義について説明できる。

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
<p>第9回・第10回 地域・在宅看護論Ⅰの学習内容について地域包括ケアシステムと関連づけて理解できる。</p>	<p>1. 地域・在宅看護論実習Ⅰの実習内容について地域包括ケアシステムと関連づけて理解できる。 2. 地域・在宅看護にかかわる制度や地域包括ケアにおける支援・連携について学ぶ。</p>
<p>第10回・第11回 地域・在宅看護の機能</p>	<p>1. 地域・在宅看護における対象・提供の場・活動内容の多様性について理解できる。 2. 療養過程と関連づけて訪問看護の位置づけを理解できる。 3. 訪問看護活動の機能・特徴について理解できる。</p>
<p>第12回・第13回 地域・在宅看護におけるリスクと災害対策</p>	<p>1. 地域・在宅看護におけるリスクおよび対策について理解できる。 2. 災害による療養生活・介護への影響を知り、災害時の支援の必要性について理解できる。</p>
<p>第14回・第15回 地域・在宅看護における倫理的課題と意思決定支援</p>	<p>1. 地域・在宅看護における倫理的課題と意思決定支援のプロセスについて記述できる。 2. ケーススタディを通して倫理的課題における支援について自己の考えを整理し、意見交換できる。</p>

2026年度

地域・在宅看護支援論 I

曜日・時限		配当学年	2学年	期区分		単位数	1単位	授業方法	講義
開講学科等	看護学科3年課程								
教員名	森 文美代、杉本 美恵、平山 司樹								

科目の目標

在宅療養上問題となる主な疾患(認知症、難病)と終末期ケアにおける療養者と家族の生活・介護状況や、価値観に応じた自立を支援する看護過程を学ぶ。

関連教科

疾病論Ⅴ、社会福祉、看護過程方法論、成人セルフマネジメント、老年看護学総論、老年看護学援助論、小児看護学援助論、精神看護学総論、在宅看護総論Ⅰ・Ⅱ

時間外学習(予習・復習・課題)

パーキンソン病の病態生理・症状・治療・看護・利用可能な社会資源について自己学習を行なってください。
ALSの病態生理・症状・治療・看護・利用可能な社会資源について自己学習を行なってください。

オフィスアワー

基本的に在室時是对应しますので必要時には意思表示してください。平山先生には連絡をとりその都度確認していきます。

成績評価方法・基準

評価項目	割合
受講態度・提出物	
終講試験	

テキスト

系統看護学講座 専門分野1 地域・在宅看護論の基盤系統看護学講座 専門分野2 地域・在宅看護医学書院 著) 河原加代子他

参考文献

ナーシンググラフィカ 地域・在宅看護論②在宅療養を支える技術
メディカ出版 著) 臺 有桂 他

参考URL

特記事項

1. 夏期休暇に対象理解及びアセスメントをする課題があります。提出は夏期休暇明け初登校日です。
 2. 地域(在宅)で生活しながら療養する人の環境・疾病と生活上に生じる障害を関連させて学んでください。
 3. 在宅看護の特性をふまえながら、情報収集・アセスメントを行なってください。
- その他、ワークシートの提出など、講義時に説明いたします。

①実務経験のある教員による科目（本務先）

近畿大学附属看護専門学校
森 文美代

①実務経験のある教員による科目（専門領域）

臨床経験：内科看護（血液・膠原病・腎臓・消化器）
教員経験：基礎看護学、成人看護学、在宅看護論

②実務経験のある教員による科目（本務先）

近畿大学附属看護専門学校
杉本 美恵

②実務経験のある教員による科目（専門領域）

臨床経験：外科看護（脳外科、眼科）、内科看護（循環器、内分泌代謝、腎臓）、外来看護、訪問看護
教員経験：在宅看護論

③実務経験のある教員による科目（本務先）

平山 司樹
医療法人葛西病院 訪問看護ステーションかっさい

③実務経験のある教員による科目（専門領域）

在宅看護、在宅緩和ケア

④実務経験のある教員による科目（本務先）

④実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑤実務経験のある教員による科目（本務先）

⑤実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑥実務経験のある教員による科目（本務先）

⑥実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑦実務経験のある教員による科目（本務先）

⑦実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑧実務経験のある教員による科目（本務先）

⑧実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑨実務経験のある教員による科目（本務先）

⑨実務経験のある教員による科目（専門領域）

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
第1回 地域・在宅看護過程の基本	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域・在宅看護過程の基本的展開と特徴について理解できる。 2. 地域・在宅看護過程における情報収集とICFモデルの関連について理解できる。
第2回 地域・在宅看護過程の展開方法① 情報収集・アセスメント	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域・在宅看護過程におけるアセスメントの視点について理解できる。
第3回 地域・在宅看護過程の展開方法② 看護目標・計画・実施・評価	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域・在宅看護過程における看護目標の設定、計画の基本的考え方について理解できる。 2. 地域・在宅看護過程における実施・評価の基本的考え方について理解できる。
第4回 ①回 慢性疾患・介護予防をもつ高齢者への在宅看護	<ol style="list-style-type: none"> 1. 慢性疾患の特性と病状経過に応じたセルフケア支援の必要性について理解できる。 2. 設定事例の生活機能障害、環境因子、個人因子について情報整理ができる 3. 情報整理した内容と療養生活に及ぼす影響について思考できる 4. 機能低下の予防、残存機能の維持を目指した生活環境の調整について理解できる。 5. 設定事例の療養者・家族のニーズと療養上の課題を検討できる。
第5回 要介護高齢者・認知症高齢者への在宅看護	<ol style="list-style-type: none"> 1. 独居の要介護高齢者の生活環境及び生活上の危険因子について説明できる。 2. 認知症高齢者の自尊心を高め、安全と安心をもたらす看護について検討できる。 3. 認知症高齢者が住み慣れた場で暮らすために必要な支援と社会資源が述べられる。
第7回・8回 医療的ケア児の在宅看護	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療的ケア児を取り巻く状況と家族について理解できる。 2. 重症心身障害児及びその家族への支援のあり方が理解できる。 3. 在宅療養を開始移行するための援助方法・支援体制について説明できる。
第9回 神経難病をかかえる療養者への在宅看護	<ol style="list-style-type: none"> 1. 神経系難病療養者のアセスメントの視点が理解できる。 2. 進行性の疾患の特徴をふまえた生活・心理的支援について理解できる。 3. 地域・在宅看護におけるリスクマネジメントについて検討できる。 4. 医療依存度の高い療養者と家族に対する支援体制や職種連携が理解できる。

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
<small>第10～11回 11回 在宅医療の現状と今後の課題について理解できる</small>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 疾患の特性・機能障害の特徴と障害による生活機能の低下について理解できる。 2. 病状進行に伴う療養生活および介護内容の変化・生活の再調整の必要性について述べられる。 3. 設定事例の情報整理・アセスメントを通して療養者・家族のニーズを捉えられる。 4. 療養生活上の課題とニーズをふまえた看護目標を検討できる。 5. 設定事例の看護課題に対し、生活の視点をふまえた看護計画を考える視点が述べられる。 6. 療養者の強みを見据えた看護計画の修正・追加が行える。
<small>第13回 精神疾患を持つ療養者の看護</small>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域・在宅看護における精神疾患療養者の特徴が述べられる。 2. 在宅療養する精神疾患療養者に対する支援について述べられる。 3. 療養者および家族への支援のポイントが述べられる。
<small>第14～15回 終末期における在宅看護について理解できる</small>	<p>第14回：終末期における在宅看護</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅医療・看護の現状と今後の課題について理解できる。 2. がん・非がん終末期にある療養者・家族の全人的苦痛とケアのポイントを理解できる。 3. 終末期にある療養者・家族と関わる看護師に必要な感性・感受性を養うことができる。 <p>第15回：在宅での看取りと家族支援</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. それぞれのライフステージにおける死の特徴がわかる 2. 看取りの場の多様性を知る 3. グリーフケアの必要性がわかる
<p>第16回</p>	<p>終講試験</p>

2026年度

地域・在宅看護支援論Ⅱ

曜日・時限		配当学年	2学年	期区分		単位数	1単位	授業方法	講義
開講学科等	看護学科3年課程								
教員名	森 文美代、杉本 美恵								

科目の目標

療養者と家族の住まいや暮らし方に適した医療的ケア及び日常生活援助を学び、療養者と家族のセルフケア能力を生かした基本的医療技術を身につける。

関連教科

解剖生理学、共通基本技術論Ⅰ・Ⅱ、生活援助論Ⅰ・Ⅱ、成人看護学援助論

時間外学習（予習・復習・課題）

- 経管栄養法について
(1)講義開始までにテキストを確認しておいてください。：①経鼻胃カテーテル挿入手順 ②胃瘻カテーテルの日常管理 ③経鼻胃カテーテルからの栄養剤・内服薬注入手順
(2)ナースングスキル：①経腸栄養：経鼻胃管（手技ID：GEN-0006）②経腸栄養：胃ろう管理（手技ID：GEN-0007-C）の映像および手順の根拠を確認してください。
(3)演習（12・13コマ目）までに経管栄養剤および内服薬注入の技術練習をチェックリストに基づき行なってください。チェックリストは講義時に配付します。
- TPN管理について：ワークシートへの課題をした上で授業に臨む（提出は別途指示）
- 呼吸困難のある療養者に対する入浴介助・移動介助（ワークシート・課題提出）

オフィスアワー

基本的に在室時に対応しますので意思表示してください。

成績評価方法・基準

評価項目	割合
終講試験	
提出物・受講態度・技術練習実施状況	

テキスト

ナースンググラフィカ 地域・在宅看護論② 在宅療養を支える技術
メディカ出版 著）臺 有桂 編

参考文献

看護技術がみえる② 臨床看護技術
MEDIC MEDIA

参考URL

使用時に紹介します。

特記事項

各看護学における既習の知識・技術を想起し、関連づけながら在宅看護における個別的ニーズへの対応（応用）を学んでください。
提示した事前学習は、評価対象として提出日時を決めて提出してもらいます。

①実務経験のある教員による科目（本務先）

森 文美代
近畿大学附属看護専門学校

①実務経験のある教員による科目（専門領域）

臨床経験：内科看護（消化器・血液膠原病・腎臓）
教員経験：基礎看護学、成人看護学、在宅看護論

②実務経験のある教員による科目（本務先）

杉本 美恵
近畿大学附属看護専門学校

②実務経験のある教員による科目（専門領域）

臨床経験：外科看護（脳外科、眼科）、内科看護（循環器、内分泌代謝、腎臓）、外来看護、訪問看護
教員経験：在宅看護論

③実務経験のある教員による科目（本務先）

③実務経験のある教員による科目（専門領域）

④実務経験のある教員による科目（本務先）

④実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑤実務経験のある教員による科目（本務先）

⑤実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑥実務経験のある教員による科目（本務先）

⑥実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑦実務経験のある教員による科目（本務先）

⑦実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑧実務経験のある教員による科目（本務先）

⑧実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑨実務経験のある教員による科目（本務先）

⑨実務経験のある教員による科目（専門領域）

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
第1回 在宅療養における療養者本人・家族介護者にとっての意義を考慮した食生活の支援について理解できる。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅療養における療養者本人・家族介護者にとっての意義を考慮した食生活の支援について理解できる。 2. 経管栄養法の種類・特徴・栄養剤について説明できる。 3. 経管栄養法の合併症と対処方法について理解できる。
第2回 経管栄養法を受ける療養者の援助①	<ol style="list-style-type: none"> 1. 経鼻経管栄養法の安全に留意した援助方法について理解できる。 2. 胃瘻カテーテルの管理方法について理解できる。 3. 経管栄養演習（第12回・第13回）の内容および準備について理解できる。
第3回 経管栄養法を受ける療養者の援助②（技能練習）	<p>※実習室使用（指定運動服・ナースシューズ着用）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. シミュレーションモデルを使用し、経鼻栄養チューブの挿入・固定・注入方法について確認できる。 2. 胃瘻チューブの管理について確認できる。
第4回 在宅中心静脈栄養法・服薬管理	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅中心静脈栄養法の目的と特徴、管理方法について理解できる。 2. 在宅での服薬管理の特徴と療養者の状態に合わせた服薬支援の方法が理解できる。 3. 在宅での薬剤管理における職種連携がわかる。
第5回 呼吸管理①	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅酸素療法の適応基準、使用機器の種類と特徴、管理方法について説明できる。 2. 在宅酸素療法における療養生活支援の方法について説明できる。 3. 包括的呼吸リハビリテーションの必要性が理解できる。
第6回 呼吸管理②	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅人工呼吸療法の目的と適応について説明できる。 2. 在宅人工呼吸療法の管理と看護の要点について説明できる。 3. 在宅療養における休息・睡眠の看護について理解できる。 4. 呼吸困難のある療養者に対する安全安楽な移動方法と入浴時の留意点がわかる。
第7回 排泄①	<p>排泄</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅における排泄支援の特徴について説明できる。 2. 排泄障害の分類・特徴に合わせたケア方法の工夫や選択が理解できる。 3. 在宅における尿路系カテーテルの種類・管理方法の留意点が理解できる。 4. 排泄に関する介護負担と社会資源の活用・調整を考慮することができる。

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
第8回 清潔・フォックケア 移動・入浴介助	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅における清潔援助・感染予防・褥瘡ケアについて説明できる。 2. 足病変のある療養者に対する援助と観察項目がわかる。 3. 要介護者の残存機能を活かした移乗・移動方法の基本技術が説明できる。 4. 在宅療養者の環境整備・環境調整を捉える視点がわかる。
第9回 演習ガイダンス	<ol style="list-style-type: none"> 1. 呼吸困難のある療養者の状態に合わせた入浴介助について安全安楽を考慮した具体的な方法をグループで検討できる。 2. 設定事例の全身状態を考慮した観察項目・方法についてグループで検討できる。 3. 演習ガイダンスを受けて、目的・方法・留意点を明らかにして演習に取り組むことができる。
第10回・11回 移動・入浴	<ol style="list-style-type: none"> 1. 呼吸困難のある療養者の状態に合わせた、入浴介助が安全安楽を考慮して行える。 2. 設定事例の生活状況・状態を考慮した観察・移動介助が実施できる。 3. 療養者に適した福祉用具の選定を検討することが出来る。 4. 設定事例の足病変を観察し、安全に爪切りを実施できる。 5. 実施したケアの記述と振り返りを行い、グループで学びを深めることができる。
第12回・13回 演習 経管栄養法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 設定事例に対して経鼻栄養チューブからの栄養剤および内服薬注入の準備・実施ができる。 2. 実施内容を振り返り今後の課題を整理し記述できる。
第14回	終講試験

2026年度

コミュニケーション技法

曜日・時限		配当学年	1学年	期区分		単位数	1単位	授業方法	講義
開講学科等	看護学科3年課程								
教員名	赤木 紗子								

科目の目標

コミュニケーションの本質を探究し、「苦手」から「武器」にする。
コミュニケーションスキルのトレーニングを通して、自己理解・他者理解を深める。

関連教科

時間外学習（予習・復習・課題）

日常で使っているコミュニケーションから変容を起こすため、学んだことを実践し次回講義でリフレクションします

オフィスアワー

コミュニケーションセンスやスキルを身につけるポイントは①観察すること②試すことです。対話や学生自身のリアルな会話など様々なテーマで実践を行いコミュニケーションの体感、トレーニングを行います。

成績評価方法・基準

評価項目	割合
グループワーク評価レポート	
筆記試験	

テキスト

看護コミュニケーション（基礎から学ぶスキルトレーニング）
医学書院

参考文献

仕事がうまくいく人は「人と会う前」に何を考えているか
青春出版社

参考URL

特記事項

①実務経験のある教員による科目（本務先）
ナースィングマネージャー

①実務経験のある教員による科目（専門領域）
コミュニケーション、接遇

②実務経験のある教員による科目（本務先）

②実務経験のある教員による科目（専門領域）

③実務経験のある教員による科目（本務先）

③実務経験のある教員による科目（専門領域）

④実務経験のある教員による科目（本務先）

④実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑤実務経験のある教員による科目（本務先）

⑤実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑥実務経験のある教員による科目（本務先）

⑥実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑦実務経験のある教員による科目（本務先）

⑦実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑧実務経験のある教員による科目（本務先）

⑧実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑨実務経験のある教員による科目（本務先）

⑨実務経験のある教員による科目（専門領域）

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
1回目	コミュニケーションとは何か ・コミュニケーションの構成要素と成立過程 ・コミュニケーションの特徴
2回目	コミュニケーションの種類 ・言語的・非言語的コミュニケーション
3回目	コミュニケーションに影響するもの ・良好なコミュニケーションに必要なこと ・コミュニケーションに影響する要因とは
4回目	医療（看護）におけるコミュニケーション ・看護におけるコミュニケーションとは ・患者中心の看護面接
5回目	良好なコミュニケーションに必要な技法 - 質問技法 ・聴くための技法・質問技法
6回目	積極的傾聴と共感 ・積極的な傾聴と共感 ・看護学生にとっての共感とは
7回目	良好なコミュニケーションに必要な技法 - 関係構築の技法 ・感情探索の技法 ・表出された感情に対応する技法

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
8回目	看護面接のプロセスの13STEP ・患者中心の面接 ・医療者中心の面接への移行 ・統合された看護面接
9回目	自己理解とコミュニケーション実践トレーニング① コミュニケーションとストレス
10回目	自己理解とコミュニケーション実践トレーニング② 他者との違いを知る。自分のコミュニケーションのパターン
11回目	自己理解とコミュニケーション実践トレーニング③ 傾聴の実践。共感と同調
12回目	自己理解とコミュニケーション実践トレーニング④ 感情マネジメント。事実と感情
13回目	自己理解とコミュニケーション実践トレーニング⑤ 多職種連携、アサーティブコミュニケーション
14回目	筆記試験

2026年度

地域・在宅看護支援論Ⅲ

曜日・時限		配当学年	2学年	期区分		単位数	2単位	授業方法	講義
開講学科等	看護学科3年課程								
教員名	森 文美代、杉本 美恵、由谷 千代子								

科目の目標

1. 在宅療養者と家族に必要なとされる看護について、具体的な事例演習を通して対象の生活環境や意向・セルフケア能力に合わせた個別的な支援及びチームでの多職種連携・協働の必要性について学ぶ。
2. 訪問過程において重要なマナーやコミュニケーション技術について演習を通して学ぶ。

関連教科

各疾病論、社会学、社会福祉、関係法規、公衆衛生学、家族論、各看護学総論・方法論

時間外学習（予習・復習・課題）

- ・予習においては対象事例の心身の状態を具体的にイメージするための病態・治療に関する学習を主体的に行なってください。
- ・対象事例に関連した社会資源に関して情報収集してください。
- ・講義後は、テキストの関連ページ・講義資料を熟読し、理解を深めてください。

オフィスアワー

基本的に在室時は対応しますので必要時には意思表示してください。

成績評価方法・基準

評価項目	割合
終講試験	
出席状況・提出物・グループ活動の協力状況	

テキスト

系統看護学講座 専門分野1 地域・在宅看護の基盤
医学書院

系統看護学講座 専門分野2 地域・在宅看護の実践
医学書院

ナーシンググラフィカ 在宅看護論② 在宅療養を支える技術
メディカ出版

参考文献

使用時に紹介します。

参考URL

使用時に紹介します。

特記事項

1. 出席状況、受講態度、グループワークの参加姿勢・積極性を重視します。
2. 終講試験以降の出席状況も含めて受験資格の要件（有無）について最終的に判断しますので注意してください。
3. グループとして取り組む課題・演習があります。個々の学習を基盤としてグループでの意見交換・協力姿勢を大切に学びを深めてください。
4. 演習欠席に対しては全講義終了後に補講を実施します。

①実務経験のある教員による科目（本務先）

近畿大学附属看護専門学校
森 文美代

①実務経験のある教員による科目（専門領域）

臨床経験：内科看護（消化器・血液・膠原病・腎臓）
教員経験：基礎看護学、成人看護学、在宅看護論

②実務経験のある教員による科目（本務先）

近畿大学附属看護専門学校
杉本 美恵

②実務経験のある教員による科目（専門領域）

臨床経験：外科看護（脳外科、眼科）、内科看護（循環器、内分泌代謝、腎臓）、外来看護、訪問看護
教員経験：在宅看護論

③実務経験のある教員による科目（本務先）

由谷 千代子
大阪府太子町健康福祉部いきいき健康課 地域包括支援センター

③実務経験のある教員による科目（専門領域）

臨床経験：看護師 小児看護、母子保健
介護支援専門員 介護予防
教員経験：在宅看護論

④実務経験のある教員による科目（本務先）

④実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑤実務経験のある教員による科目（本務先）

⑤実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑥実務経験のある教員による科目（本務先）

⑥実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑦実務経験のある教員による科目（本務先）

⑦実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑧実務経験のある教員による科目（本務先）

⑧実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑨実務経験のある教員による科目（本務先）

⑨実務経験のある教員による科目（専門領域）

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
第1回	<p><訪問看護に求められる技術・態度・マナー：森></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域・在宅看護過程と関連づけて訪問の基本的な方法について理解できる。 2. 訪問時に求められる態度・マナーについて理解できる。
第2回・第3回	<p><訪問看護におけるコミュニケーション支援：森></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅療養者・家族間のコミュニケーションと療養生活・介護への影響について理解できる。 2. コミュニケーション障害の特徴に合わせた援助方法について説明できる。 3. 補助・代替コミュニケーション技法の目的・種類・基本手順について説明できる。 4. 補助・代替コミュニケーション技法演習について確認できる。
第4回	<p><補助・代替コミュニケーション技法演習：森> ※実習室使用</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 補助・代替コミュニケーション技法（口話・口文字）の実際を知り、療養者・家族の思いや実施における留意点について考えることができる。 2. 意思決定支援のプロセスにおけるコミュニケーション支援の必要性を理解できる。 3. 教育的支援における指導技法および指導過程について理解できる。
第5回	<p><訪問看護事例演習ガイダンス：森></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 訪問看護事例演習の目的・方法・留意事項について確認できる。 2. 演習事例の経過や生活背景について動画視聴を通し、確認できる。 3. 演習事例の病態生理について想起できる。
第6回	<p><演習事例の生活を支えるケアマネジメント：由谷></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 演習事例の療養者・家族の病状・生活変化の特性に応じた社会資源調整のポイントについて理解できる。 2. 演習事例の健康課題と関連づけて社会資源活用における多職種連携のポイントについて理解できる。
第7回	<p><訪問看護事例演習：情報整理・アセスメント①：森・杉本></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育的支援における指導技法および指導過程について理解できる。 2. 資料を確認し、疾患・医療ケアの視点から療養者に関する情報を整理できる。
第8回・第9回	<p><訪問看護事例演習：情報整理・アセスメント②③：森・杉本></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生活・活動の視点から療養者に関する情報を整理できる。 2. 介護・環境・社会資源の視点から療養者・家族に関する情報を整理できる。 3. 整理した情報に基づき演習事例のニーズ・看護課題についてアセスメントし意見交換できる。

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
第10回	<p><訪問看護事例演習：情報整理・アセスメント③／訪問看護マナー演習：ガイダンス：森・杉本></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 動画視聴を通し療養者・家族の状態・ニーズの変化をとらえ情報を追加できる。 2. 整理した情報に基づき、支援の必要性についてアセスメントしグループメンバーと意見交換できる。 3. 訪問看護マナー演習の目的・方法・準備について確認できる。 4. 訪問看護マナー演習時のグループワーク課題について確認できる。
第11回・第12回	<p><訪問看護マナー演習／訪問看護事例演習：目標設定：森・杉本></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 訪問看護に必要な服装・身だしなみを整え、基本的な訪問マナーを実施できる。 2. 臨地実習に向けての課題を整理し、記述できる。 3. アセスメント内容に基づき、グループで支援目標を意見交換できる。 4. 療養者・家族の心身の状態やセルフケア能力、意向をふまえて支援目標を設定できる。
第13回・第14回	<p><訪問看護事例演習：計画立案①②：森・杉本></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 設定した支援目標に基づき、療養者・家族の心身の状態やセルフケア能力、意向をふまえた支援計画を立案できる。 2. 立案した計画についてグループメンバーと根拠を確認し、意見交換できる。
第15回	<p><訪問看護事例演習：発表会準備：森></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. グループメンバーと協力し、発表内容を準備できる。 2. 立案した計画に対する理由・根拠を確認・学習できる。 3. 他者に伝わる発表内容として工夫し準備できる。
第16・17回	<p><訪問看護事例演習：発表会：森・杉本></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 立案した療養支援計画の意図・根拠を他者に伝わる構成・表現を工夫しながらグループメンバーと協力し、発表できる。 2. 発表内容について参加者は、療養者・家族の個性を反映した支援計画になっているか建設的に意見を記述できる。 3. お互いの考えを尊重しながら質疑応答ができる。
第18回	<p><訪問看護事例演習：リフレクション：森・杉本></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 発表内容について参加者の評価・意見をふまえグループとして意見交換を行い、改善点を抽出できる。 2. リフレクションを通して療養者・家族の個性について視点を広げることができる。 3. 病状経過に応じた看護師の関わりや社会資源の活用について今後の学習課題を整理できる。
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 訪問看護指示書から傷病名、病状・治療状況の情報を収集し記載できる。 2. 居宅サービス計画書から、家族の状況、療養環境、サービス利用状況、ADL・活動状況について情報収集し記載できる。 3. 設定事例の訪問目的を明らかにしながら同行訪問目標を考えることができる。（中心静脈栄養・服薬の管理、環境調整、移動の援助） 4. 訪問看護時の生活・健康に関する情報収集の方法と観察の視点がわかる。 5. 訪問看護師の関わり場面から、接遇・マナー及びコミュニケーションにおいて自己の課題が具体的に述べられる。 6. 訪問場面におけるその人らしさを大切に考えた関わり・支援のあり方について述べられる。 7. 看護師が行っていた行為や関わりについて、援助の必要性和根拠について考察・学びとして述べられる。

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
第21回	終講試験

2026年度

成人看護学総論

曜日・時限		配当学年	1学年	期区分		単位数	1単位	授業方法	講義
開講学科等	看護学科3年課程								
教員名	加藤 あゆみ								

科目の目標

1. 成人各期の身体的・精神的・社会的特徴を理解し、それぞれのライフサイクルがもたらす健康障害を理解できる
2. 成人看護の役割を理解し、成人を看護するときのアプローチについて理解できる
3. 成人期における保健活動を理解し、健康の維持・増進と疾病予防を図る活動について理解できる
4. 患者について収集した情報を整理し、対象の特性と健康問題から情報の分析、解釈を行い、患者を全人的に把握する方法を理解できる

関連教科

看護学入門
精神看護学総論
老年看護学総論

時間外学習（予習・復習・課題）

社会生活をおくる成人期の身近な人、自分自身の生活をイメージしながら講義に臨んでください。
健康に関するニュースや記事、市町村が発行している健康だよりに興味・関心を持ち、看護の視点につなげられるようにしましょう。
上記の内容が授業に対しての予習、課題となります。

オフィスアワー

月～金曜日 9:00～17:30
※上記以外の時間に関しては相談してください。

成績評価方法・基準

評価項目	割合
筆記試験	
出席・提出物などの内容も含む評価	

テキスト

成人看護学 成人看護学概論
南江堂

参考文献

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [1] 成人看護学総論

医学書院

中範囲理論入門

日総研出版

ナーシング・グラフィカ 成人看護学① 成人看護学概論

メディカ出版

生涯人間発達論

医学書院

国民衛生の動向

厚生労働統計協会

参考URL

特記事項

①実務経験のある教員による科目（本務先）

加藤あゆみ

近畿大学附属看護専門学校

①実務経験のある教員による科目（専門領域）

臨床経験：心臓血管外科、内科（消化器・血液膠原病・腎臓）、皮膚科、形成外科

教員経験：成人看護学

②実務経験のある教員による科目（本務先）

②実務経験のある教員による科目（専門領域）

③実務経験のある教員による科目（本務先）

③実務経験のある教員による科目（専門領域）

④実務経験のある教員による科目（本務先）

④実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑤実務経験のある教員による科目（本務先）

⑤実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑥実務経験のある教員による科目（本務先）

⑥実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑦実務経験のある教員による科目（本務先）

⑦実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑧実務経験のある教員による科目（本務先）

⑧実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑨実務経験のある教員による科目（本務先）

⑨実務経験のある教員による科目（専門領域）

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
1回目	<ol style="list-style-type: none"> 1. 成人看護学とはどのような看護を学ぶか知ることができる。 2. 人間の一生の中での成人期を述べることができる。
2回目	<ol style="list-style-type: none"> 1. 成人の発達課題を述べるができる。
3・4回目	<ol style="list-style-type: none"> 1. 成人各期の身体的・精神的・社会的特徴を述べるができる。 2. 成人各期に起こりやすい健康障害を述べるができる。
5回目	<ol style="list-style-type: none"> 1. 成人期の生活（生活環境・余暇・家族・役割・価値・信念など）について理解することができる。
6回目	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生活習慣に関連する健康障害について述べるができる。
7回目	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生活習慣病対策について述べるができる。
8～10回目	<ol style="list-style-type: none"> 1. 成人期を対象とした保健対策の現状について述べるができる。 2. 成人期の健康状況の動向について述べるができる。 3. セクシャリティ・性感染症に関する健康障害を述べるができる。

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
11回目	<ol style="list-style-type: none"> 1. 職業に関する健康障害について述べるができる。 2. 職場における成人の健康生活への活動について述べるができる。 3. 成人期のストレスについて
12回目	<ol style="list-style-type: none"> 1. 多様な健康問題に対する看護の役割について述べるができる。 2. 成人学習者の特徴と成人への看護アプローチの方法を述べるができる。
1～12回目	<p>成人・老年看護学アセスメントシート（NO.3-1） アセスメントシートを作成しながら毎回の講義が進んでいきます。 患者について収集した情報を整理し、対象の特性と健康問題から情報の分析、解釈を行い、患者を全人的に把握する方法を理解し、2年次の看護過程につなげます</p>
13回目	終講試験

2026年度

成人セルフマネジメント

曜日・時限		配当学年	2学年	期区分		単位数	1単位	授業方法	講義
開講学科等	看護学科3年課程								
教員名	富森 洋子、加藤 あゆみ								

科目の目標

生涯にわたり疾患のコントロールが必要な人および家族が、セルフマネジメントあるいはセルフケアをしながら、その人らしい生活を送れるような支援を学ぶ。

関連教科

成人看護学総論、疾病論Ⅰ（泌尿器科、消化器内科）疾病論Ⅱ（皮膚科学、血液・リンパ）疾病論Ⅴ（内分泌代謝、腎臓内科）、代謝栄養学、基礎看護学方法論Ⅱ

時間外学習（予習・復習・課題）

≪ 事前課題 ≫

事前課題 ※ 第1回目に詳細を説明します。

- 3日間の食事内容の記載 ➡ 提出：第3回の講義時使用
- ICG検査について（目的・手順・注意事項） ➡ 提出：第8回目の講義時に提出

オフィスアワー

月～金曜日 8：30～17：00

※上記以外の時間は相談してください。

成績評価方法・基準

評価項目	割合
終講試験	
<small>受講態度、講義内での小テスト・振り返り、課題などの提出物、グループワークの内容も含む総合評価</small>	

テキスト

系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学6 内分泌・代謝

医学書院

系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学8 腎・泌尿器

医学書院

系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学5 消化器

医学書院

系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学11 アレルギー・膠原病・感染症

医学書院

系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学4 血液・造血器

医学書院

看護学テキストNICE 成人看護学概論

南江堂 著）編集 林直子

看護学テキストNICE 成人看護学 慢性期看護

南江堂 著）鈴木 久美、旗持 知恵子他

参考文献

糖尿病療養指導ガイドブック 2025—糖尿病療養指導士の学習目標と課題

メディカルレビュー社 著）日本糖尿病療養指導士認定機構編・著

参考URL

特になし

特記事項

- 課題はルールに則り確実にいきましょう
- 講義に必要なと考える既習の講義資料・文献等も自己で判断し持参し活用しましょう

①実務経験のある教員による科目（本務先）

富森洋子
近畿大学附属看護専門学校

①実務経験のある教員による科目（専門領域）

臨床経験；救急看護、内科看護（呼吸器・内分泌代謝・腫瘍・神経内科）、眼科
教員経験；成人看護学

②実務経験のある教員による科目（本務先）

加藤あゆみ
近畿大学附属看護専門学校

②実務経験のある教員による科目（専門領域）

臨床経験；心臓血管外科、内科（消化器・血液膠原病）、皮膚科、形成外科
教員経験；成人看護学

③実務経験のある教員による科目（本務先）

③実務経験のある教員による科目（専門領域）

④実務経験のある教員による科目（本務先）

④実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑤実務経験のある教員による科目（本務先）

⑤実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑥実務経験のある教員による科目（本務先）

⑥実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑦実務経験のある教員による科目（本務先）

⑦実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑧実務経験のある教員による科目（本務先）

⑧実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑨実務経験のある教員による科目（本務先）

⑨実務経験のある教員による科目（専門領域）

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
1回目	慢性期にある人への看護の考え方 慢性期の概念・慢性疾患とその治療の特徴・慢性期看護の特徴を学ぶ
2・3・4回目	糖尿病とともに生きるセルフマネジメント支援 1. 糖尿病療法を受ける人の看護を学ぶことができる。
5・6回目	演習 糖尿病とともに生きるセルフマネジメント支援 1. 自己血糖測定・インスリン注射（デモ機）体験することができる。
7・8回目	腎不全とともに生きるセルフマネジメント支援 1. 腎機能障害のある看護を考えることができる 2. 透析療法を受ける人の看護を学ぶことができ、血液透析と腹膜透析の違いを述べることができる。
9・10・11回目	肝機能障害とともに生きるセルフマネジメント支援
12・13回目	血液・膠原病疾患を抱える患者の看護
14回目	終講試験

2026年度

周術期看護

曜日・時限		配当学年	2学年	期区分		単位数	1単位	授業方法	講義
開講学科等	看護学科3年課程								
教員名	横山 博美、加藤 あゆみ、紺屋 洋子								

科目の目標

周手術期にある成人期の対象と家族を理解し、周術期の経時的変化をとらえながら必要な看護を理解できる。

関連教科

解剖生理学、病理学、疾患論(麻酔科学、消化器)、成人看護学総論

時間外学習(予習・復習・課題)

1. 予習・課題

課題の疾患について、1年次で学んだ解剖生理・病態生理・検査・治療を復習し、講義に臨みましょう

課題1 胃がん

課題2 大腸がん・直腸がん

※課題の学習は、講義や実習で活用できるように、自分で分かりやすく工夫して整理し学習しましょう。

2. 復習

予習した知識をもとに受講し、周術期の患者がどのような回復経過を進むか、具体的にイメージし、必要な看護を考えましょう。

3. ナーシングスキル視聴し、予習・復習に活用しましょう

オフィスアワー

月～金曜日 8:40～17:00

※上記以外の時間に関しては相談してください。

成績評価方法・基準

評価項目	割合
筆記試験	
出席状況・受講態度・課題	

テキスト

成人看護学 急性期看護Ⅰ 概論・周手術期看護
南江堂

系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論
医学書院

系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論
医学書院

系統看護学講座 専門9 成人看護学5 消化器
医学書院

参考文献

パーフェクト臨床実習ガイド 成人実習Ⅰ(急性期・周術期)
照林社

パーフェクト臨床実習ガイド 成人看護Ⅱ(慢性期・回復期)
照林社

フィジカルアセスメントがみえる
メディックメディア

参考URL

特記事項

成人期の患者が手術により身体面・精神面・社会面にどんな影響を受けるか考えましょう。

①実務経験のある教員による科目（本務先）

横山博美
近畿大学附属看護専門学校

①実務経験のある教員による科目（専門領域）

臨床経験：外科看護（循環器外科・呼吸器外科・消化器外科・耳鼻咽喉科）
教員経験：成人看護学

②実務経験のある教員による科目（本務先）

紺屋 洋子
近畿大学病院 看護部

②実務経験のある教員による科目（専門領域）

看護師：褥瘡対策室、認定看護師（皮膚・排泄ケア）

③実務経験のある教員による科目（本務先）

③実務経験のある教員による科目（専門領域）

④実務経験のある教員による科目（本務先）

④実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑤実務経験のある教員による科目（本務先）

⑤実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑥実務経験のある教員による科目（本務先）

⑥実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑦実務経験のある教員による科目（本務先）

⑦実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑧実務経験のある教員による科目（本務先）

⑧実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑨実務経験のある教員による科目（本務先）

⑨実務経験のある教員による科目（専門領域）

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
1回目	<p>講義 周手術期看護の役割が理解できる。</p>
2回目	<p>講義 手術前期の看護が理解できる。</p>
3回目	<p>講義 手術前期～手術期の看護が理解できる。</p>
4～5回目	<p>講義 手術期の看護が理解できる。</p>
6～7回目	<p>講義 1. 手術における侵襲とそれに対する生体反応が理解できる。 2. 手術後期の看護が理解できる。</p>
8～9回目	<p>講義 1. 手術直後の合併症と観察の視点が理解できる。 2. 主要な術後合併症の予防と発症時の看護が理解できる。</p>
10回目	<p>講義 胃がんの手術を受ける患者の看護が理解できる。</p>

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
11回目	講義 大腸がん・直腸がんの手術を受ける患者の看護が理解できる。
12～13回目	講義・演習（看護部） 人工肛門造設術を受ける患者への看護が理解できる。

2026年度

緩和ケア

曜日・時限		配当学年	2学年	期区分		単位数	1単位	授業方法	講義
開講学科等	看護学科3年課程								
教員名	横山 博美、春木 沙織、中森 良子、藤山 たまき、遠藤 美幸								

科目の目標

がん患者の全人的苦痛を理解し、症状の苦痛緩和の方法や日常生活動作の障害に応じた看護を学ぶ。
終末期において尊厳を保ちながら、その人らしく最後まで生きることを支えるための援助を学ぶ。

関連教科

解剖生理学、病理学、臨床薬理学、疾病論（腫瘍内科、消化器外科・消化器内科・放射線科学）、成人看護学総論

時間外学習（予習・復習・課題）

学習課題
実習でも活用できるよう自分の学習として工夫し整理しましょう。

課題1 終末期にある患者や家族に関する闘病記を読み、終末期にある患者や家族の状態の理解を深めましょう。
提出：夏期休暇後、登校初日

課題2 食道がん
※1年次に学んだ解剖生理・病態生理・検査・治療（手術療法・化学療法・放射線療法）を復習し講義に臨みましょう。
※自己学習をすすめ、自主的に意見交換ができるようにしましょう。

オフィスアワー

月～金曜日 8：40～17：00
※上記以外は相談してください。

成績評価方法・基準

評価項目	割合
筆記試験	
出席状況・受講態度・課題	

テキスト

緩和ケア
南江堂
系統看護学講座専門Ⅱ 成人看護学 消化器
医学書院

参考文献

パーフェクト臨床実習ガイド 成人看護Ⅰ
照林社
パーフェクト臨床実習ガイド 成人看護Ⅱ
照林社

参考URL

特記事項

成人期の終末期にある患者や家族の思いについての理解を深め、自己の生命観・死生観について考えを養う機会となるよう取り組みましょう。

①実務経験のある教員による科目（本務先）

横山博美
近畿大学附属看護専門学校

①実務経験のある教員による科目（専門領域）

臨床経験：外科看護（循環器外科・呼吸器外科・消化器外科・耳鼻咽喉科）
教員経験：成人看護学

②実務経験のある教員による科目（本務先）

春木沙織
近畿大学病院

②実務経験のある教員による科目（専門領域）

緩和ケア

③実務経験のある教員による科目（本務先）

藤山たまき
近畿大学病院

③実務経験のある教員による科目（専門領域）

がん放射線療法

④実務経験のある教員による科目（本務先）

遠藤 美幸
近畿大学病院

④実務経験のある教員による科目（専門領域）

緩和ケア

⑤実務経験のある教員による科目（本務先）

中森 良子
近畿大学病院

⑤実務経験のある教員による科目（専門領域）

がん化学療法看護

⑥実務経験のある教員による科目（本務先）

⑥実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑦実務経験のある教員による科目（本務先）

⑦実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑧実務経験のある教員による科目（本務先）

⑧実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑨実務経験のある教員による科目（本務先）

⑨実務経験のある教員による科目（専門領域）

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
1回目	<p>講義 終末期看護の概念について理解することができる。</p>
2回目	<p>講義 終末期にある患者について理解することができる。</p>
3回目	<p>講義 終末期にある患者の心理状態とかかわり方について考えることができる。</p>
4回目	<p>講義 終末期医療における倫理的課題について考えることができる。</p>
5回目	<p>講義 終末期における主要な症状とその看護について理解できる。</p>
6回目	<p>講義 死が近づいた患者への看護が理解できる。 1. 臨死期の症状について理解できる。 2. 臨死期の患者と看取りを迎える家族への看護について考えることができる。 3. 死亡後の看護について理解できる。</p>
7回目	<p>講義（看護部）中森先生 緩和ケアにおける化学療法時の看護について理解できる。 1. 投与時の主な副作用と発現時期について理解できる。 2. 投与時の必要な看護について理解できる。</p>

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
8回目	講義（看護部）藤山先生 緩和ケアにおける放射線療法時の看護について理解できる。 1. 放射線療法時の主な副作用と発現時期について理解できる。 2. 治療時の必要な看護について理解できる。
9回目	講義（看護部）遠藤先生 緩和ケアとチーム医療の中での看護の役割について理解できる。
10回目	講義（看護部）春木先生 終末期における疼痛について理解できる。 1. 痛みの定義が述べられる。 2. 痛みのアセスメントの視点が述べられる。
12回目	講義（看護部）春木先生 疼痛のマネジメントについて理解できる。 1. 鎮痛薬の種類と使用方法が理解できる。 2. レスキュー薬について理解できる。 3. 疼痛緩和における看護師の役割について理解できる。
11回目	講義 1. 死が近づいた患者への看護が理解できる。 ①死亡後の看護について理解できる。 2. 終末期にある食道がん患者への看護について考えることができる。 ①疾患の特徴を理解し、アセスメントの視点が理解できる。 ②患者への看護を考えることができる。
12回目	講義 終末期にある食道がん患者への看護について考えることができる。 1. 疾患の特徴を理解し、アセスメントの視点が理解できる。 2. 患者への看護問題を考えることができる。

2026年度

急性期看護

曜日・時限		配当学年	2学年	期区分		単位数	1単位	授業方法	講義
開講学科等	看護学科3年課程								
教員名	富森 洋子、加藤 あゆみ、横山 博美								

科目の目標

身体的に生命の危機状態にある人の救命及び生命維持に必要な看護の視点を理解し、その人が心身共に生活リズムを取り戻すための援助や社会復帰に向けての関わりを学ぶ

関連教科

解剖生理学、疾病論Ⅱ、成人看護学総論、周術期看護、成人看護学援助論、災害看護

時間外学習（予習・復習・課題）

- 事前課題
- ①抗血小板薬・抗凝固薬服薬中の看護
②心筋梗塞の病態（フォレスト分類・キリップ分類）
心電図（12誘導・モニター心電図・ホルター心電図・負荷心電図とは）
心臓カテーテル検査、PCI実施時の看護
心臓リハビリテーション

※ 提出日：夏期休暇明け提出（詳しい日時は後日伝達）

オフィスアワー

月～金曜日 8:30～17:00
※上記以外の時間に関しては相談してください。

成績評価方法・基準

評価項目	割合
筆記試験	
提出物・演習・グループワークの内容も含む総合評価	

テキスト

系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論
医学書院

系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学3 循環器
医学書院

系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学7 脳・神経
医学書院

パーフェクト臨地実習ガイド 成人看護Ⅰ
照林社 著) 編集 井上智子

パーフェクト臨地実習ガイド 成人看護Ⅱ
照林社 著) 編集 野並葉子

看護学テキストNICE 成人看護学 急性期看護Ⅱ
南江堂 著) 佐藤まゆみ/林直子

看護がみえるvol.2 臨床看護技術
MEDICMEDIA

参考文献

看護がみえるvol.5対象の理解
MEDICMEDIA

参考URL

特になし

特記事項

- 提出時の約束
 - 表紙をつける。表紙に参考文献をつける
 - インデックスをつける
 - 1年次の使用した課題を整理して利用しても良い

①実務経験のある教員による科目（本務先）

富森洋子
近畿大学附属看護専門学校

①実務経験のある教員による科目（専門領域）

臨床経験；救急看護、内科看護（呼吸器・内分泌代謝・腫瘍・神経内科）、眼科
教員経験；成人看護学

②実務経験のある教員による科目（本務先）

加藤あゆみ
近畿大学附属看護専門学校

②実務経験のある教員による科目（専門領域）

臨床経験；心臓血管外科、内科（消化器・血液膠原病・腎臓）、皮膚科、形成外科
教員経験；成人看護学

③実務経験のある教員による科目（本務先）

横山 博美
近畿大学附属看護専門学校

③実務経験のある教員による科目（専門領域）

臨床経験；外科看護（循環器外科・呼吸器外科・消化器外科・耳鼻咽喉科）
教員経験；成人看護学

④実務経験のある教員による科目（本務先）

④実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑤実務経験のある教員による科目（本務先）

⑤実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑥実務経験のある教員による科目（本務先）

⑥実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑦実務経験のある教員による科目（本務先）

⑦実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑧実務経験のある教員による科目（本務先）

⑧実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑨実務経験のある教員による科目（本務先）

⑨実務経験のある教員による科目（専門領域）

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
1回目	看護に求められる資質、家族の心理的特徴と看護、倫理的問題について 1. クリティカルケアを受ける患者とその家族にニーズを学ぶことができる。 2. 救急看護の役割について学ぶことができる。
2回目	脳血管障害のある患者の看護 1. 病態と患者の特徴に対するアセスメントと観察のポイントについて学ぶことができる。
3回目	脳神経外科の周手術期看護 1. 術前・術後の看護について学ぶことができる。
4回目	熱傷患者の看護
5回目	心臓カテーテル検査を受ける患者の看護 心臓手術を受ける患者の看護 1. 急性期の経過を踏まえた観察・看護のポイントを学ぶことができる。
6回目	心筋梗塞患者の看護 経皮的冠状動脈を受ける患者の看護 1. 急性期の経過を踏まえた観察・看護のポイントを学ぶことができる。
7回目	狭心症患者の看護

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
8回目	大動脈解離の患者の看護
9・10回目	IVRを受けた患者への看護援助 ※ 実習室で演習を行う 1. 治療直後の観察を行うことができる。 2. 安全・安楽に患者を移送することができる（ストレッチャー移送）
11回目	終講試験

2026年度

成人看護学援助論

曜日・時限		配当学年	2学年	期区分		単位数	1単位	授業方法	講義
開講学科等	看護学科3年課程								
教員名	横山 博美、富森 洋子、加藤 あゆみ								

科目の目標

演習を通して、看護過程を展開し、療養生活についての知識と技術を習得する。

関連教科

解剖生理学Ⅰ・Ⅱ、疾病論Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、看護過程方法論、ヘルスアセスメントⅠ・Ⅱ、成人看護学総論、周術期看護、急性期看護

時間外学習（予習・復習・課題）

1) 事前課題1

1. ナーシングスキル視聴し、熟読、テストをチャレンジしてから授業に臨むこと
 - ・「呼吸・循環を整える技術」（酸素吸入療法・気管吸引）
 - ・低圧持続吸引：胸腔ドレーン挿入中の管理
- ※ 期限：各講義日まで

2) 講義内課題

- ①講義中に肺がん 手術療法を受ける患者の事例展開を行う。講義時に詳細を伝達予定
- ※ 最終提出：終講試験終了後に提出（詳細は講義内で伝達）

オフィスアワー

月～金曜日 8：40～17：00

※上記以外の時間は相談してください。

成績評価方法・基準

評価項目	割合
筆記試験	
<small>受講態度・課題などの提出物・演習・グループワークの内容・小テストなども含む総合評価</small>	

テキスト

系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論

医学書院

系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論

医学書院

系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学[2] 呼吸器

医学書院

系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ

医学書院

看護がみえる vol.② 臨床看護技術

MEDICMEDIA

成人看護学 急性期看護Ⅰ 概論・周手術期看護

南江堂

看護がみえる3 フィジカルアセスメント

MEDICMEDIA

参考文献

看護がみえる vol.4 看護過程の展開

MEDIC MEDIA

看護がみえるvol.5 対象の理解Ⅰ

MEDIC MEDIA

参考URL

特記事項

1. 準備するもの
 - ① 成人看護学の看護過程のファイル1冊準備し
 - ・アセスメントⅠ 見本 No.3 - ① をはさんでおく
 - ② それぞれの方法論に使用できる「1年次における講義資料」をファイリングしておくこと
2. 提出時の約束
 - ① 表紙をつける。表紙に参考文献をつける
 - ② インデックスをつける
 - ③ 1年次の使用した課題を整理して利用しても良い
3. 演習に関しては、演習時間以外に準備・後片付けが必要となります。
4. 学生同士で演習するのでパートナーのプライバシーに十分配慮しましょう。

①実務経験のある教員による科目（本務先）

富森洋子
近畿大学附属看護専門学校

①実務経験のある教員による科目（専門領域）

臨床経験；救急看護、内科看護（呼吸器・内分泌代謝・腫瘍・神経内科）、眼科
教員経験；成人看護学

②実務経験のある教員による科目（本務先）

横山博美
近畿大学附属看護専門学校

②実務経験のある教員による科目（専門領域）

臨床経験；外科看護（循環器外科・呼吸器外科・消化器外科・耳鼻咽喉科）
教員経験；成人看護学

③実務経験のある教員による科目（本務先）

加藤あゆみ
近畿大学附属看護専門学校

③実務経験のある教員による科目（専門領域）

臨床経験；心臓血管外科、内科（消化器・血液膠原病）、皮膚科、形成外科
教員経験；成人看護学

④実務経験のある教員による科目（本務先）

④実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑤実務経験のある教員による科目（本務先）

⑤実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑥実務経験のある教員による科目（本務先）

⑥実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑦実務経験のある教員による科目（本務先）

⑦実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑧実務経験のある教員による科目（本務先）

⑧実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑨実務経験のある教員による科目（本務先）

⑨実務経験のある教員による科目（専門領域）

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
1回目	呼吸器疾患患者の看護 1) 呼吸器疾患の病態生理～検査（ABG、呼吸機能検査、12誘導心電図、造影CT、気管支鏡）
2・3回目	シミュレーションセンター演習 （12誘導心電図実施体験、ラング・イチロー、人工呼吸器について）
4回目	呼吸を整える技術（1）酸素療法 演習 吸入療法 1. 酸素療法の目的・方法・必要性を理解することができる。 2. ネブライザーの目的・方法・必要性を理解することができる。
5回目	呼吸を整える技術（2）排痰ケアについて 1. 呼吸訓練の目的・方法・必要性を理解することができる。 2. 排痰法の目的・方法・必要性を理解することができる。 呼吸を整える技術（3）吸引（一時吸引・持続吸引） 1. 吸引の目的・方法・必要性を理解することができる。 2. 一時吸引時の看護のポイントを述べることができる。 3. 持続吸引についてイメージすることができる。
6・7回目	呼吸を整える技術（4）酸素療法・吸引演習 1. 吸引の方法、吸引時の注意事項についてモデル人形を通して学ぶ。 2. 酸素療法の実際、酸素ポンペの取り扱い、留意事項について体験を通して学ぶ。
8・9回目	手術療法を受ける肺がん患者の看護（看護過程） 1. 肺がんの病態生理・術式を理解できる。 2. 手術療法を受けた肺がん患者の術後1日目の状態を理解できる。 ・手術当日～手術室、術中体位、胸腔ドレーン、術後合併症について
第10回～15回	手術療法を受ける肺がん患者の看護（看護過程） 肺切除術を受ける患者についてアセスメントし、術後1日目の看護問題を抽出、看護計画を立案する。

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
------	------

第16・17回目	手術療法を受ける肺がん患者の看護（看護過程） 1. 立案した看護計画をもとに援助を行う（演習）① 2. 実施した援助をもとに看護計画の追加・修正ができる。
第18・19回目	手術療法を受ける肺がん患者の看護（看護過程） 1. 立案した看護計画をもとに援助を行う（演習）② 2. 実施した援助をもとに看護計画の追加・修正ができる。
20回目	手術療法を受ける肺がん患者の看護（看護過程） 看護計画に基づいて看護介入した援助の評価を考えることができる。

2026年度

老年看護学総論

曜日・時限		配当学年	1学年	期区分		単位数	1単位	授業方法	講義
開講学科等	看護学科3年課程								
教員名	内田 浩江								

科目の目標

1. 身体的・精神的・社会的側面から、高齢者の特性を知り、ライフサイクルにおける老年期とその健康課題を学ぶ。
2. 高齢者を取りまく社会環境から、保健・医療・福祉の動向と諸問題を学び、看護の役割を知る。

関連教科

心理学、コミュニケーション技法、社会学、家族論、社会福祉Ⅰ、看護学入門、精神看護学総論、地域・在宅看護学、成人看護学総論

時間外学習（予習・復習・課題）

1. 「生活機能を整える看護」「回復を促す看護」を基盤に、治療を必要とする高齢者への看護、エンド・オブ・ライフケア、介護予防や家族支援を含む生活・療養の場における看護を視野に入れ考察する。
2. 「住み慣れたところで最期まで」を実現する地域包括ケア・地域共生社会の実現に着目し、自分が住んでいる地域の情報を活かして課題探求する。
3. 自ら興味・関心をもち、知ろうとする行動とグループでの活動を通して学び合う。

オフィスアワー

成績評価方法・基準

評価項目	割合
筆記試験	
課題に対する取り組み・内容・グループワークへの参加状況と成果物	

テキスト

系看護学講座 専門分野 老年看護学
医学書院

参考文献

新体系 看護学全書 老年看護学① 老年看護学概論・老年保健

メヂカルフレンド社

ナーシンググラフィカ 老年看護①「高齢者の健康と障害」
メディカ出版

参考URL

特記事項

グループでのディスカッション、課題探索など協同学習を用いたアクティブラーニングでの授業を行う

①実務経験のある教員による科目（本務先）
兵庫大学

①実務経験のある教員による科目（専門領域）
老年看護学 家族看護学 地域・在宅看護学

②実務経験のある教員による科目（本務先）

②実務経験のある教員による科目（専門領域）

③実務経験のある教員による科目（本務先）

③実務経験のある教員による科目（専門領域）

④実務経験のある教員による科目（本務先）

④実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑤実務経験のある教員による科目（本務先）

⑤実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑥実務経験のある教員による科目（本務先）

⑥実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑦実務経験のある教員による科目（本務先）

⑦実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑧実務経験のある教員による科目（本務先）

⑧実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑨実務経験のある教員による科目（本務先）

⑨実務経験のある教員による科目（専門領域）

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
1回目 老年期を生きる人の理解	<ol style="list-style-type: none"> 1. 老いるということ <ol style="list-style-type: none"> 1) 「高齢者を知る」 2) 「老いのイメージ」 3) 「喪失体験」 2. 老いを生きるということ
2回目 高齢者の定義・高齢者の発達・心身老化・老年期の課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 老年期にある人の特徴 <ol style="list-style-type: none"> 1) 高齢者の定義 2) 高齢者の発達と成熟 2. 老年期の発達課題 <ol style="list-style-type: none"> 1) 発達理論と発達課題 3. 老年看護における理論と概念の活用
3回目 加齢に伴う身体的変化の特徴	<ol style="list-style-type: none"> 1. 加齢に伴う身体的変化の特徴 <ol style="list-style-type: none"> 1) 身体の加齢変化とアセスメント <ol style="list-style-type: none"> ①循環系 ②呼吸系 ③消化器系 ④ホルモンの分泌 ⑤泌尿生殖器 ⑥皮膚とその付属器 ⑦視覚 ⑧聴覚 ⑨その他の感覚器 ⑩運動系
4回目 加齢に伴う身体的変化の特徴	<ol style="list-style-type: none"> 1. 加齢に伴う身体的変化の特徴 <ol style="list-style-type: none"> 1) 身体の加齢変化とアセスメント <ol style="list-style-type: none"> ①循環系 ②呼吸系 ③消化器系 ④ホルモンの分泌 ⑤泌尿生殖器 ⑥皮膚とその付属器 ⑦視覚 ⑧聴覚 ⑨その他の感覚器 ⑩運動系
5回目 超高齢社会と社会保障①	<ol style="list-style-type: none"> 1. 超高齢社会の統計的輪郭 <ol style="list-style-type: none"> 1) 超高齢社会の現況 2) 高齢者と家族 3) 高齢者の健康状態 2. 高齢社会における保健医療福祉の動向 <ol style="list-style-type: none"> 1) 介護保険制度 2) 高齢者の医療制度 3) 地域・在宅支援 3. 多職種連携支援
6回目 超高齢社会と社会保障②	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者の権利擁護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 高齢者に対するスティグマと差別 2) 高齢者虐待 3) 身体拘束 4) 権利擁護のための制度 2. 認知症高齢者と家族への支援 3. 認知症予防への支援（MCI）
7回目 老年看護のなりたち	<ol style="list-style-type: none"> 1. 老年看護のなりたち 2. 老年看護の役割 3. 高齢者と家族看護 4. 高齢者の尊厳と意思決定支援 5. エンド・オブ・ライフケア

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
<small>※科目 老年看護の発展【課題研究実習Ⅱ（16ゼラー半習Ⅱ）】</small>	<ol style="list-style-type: none">1. 地域共生社会実現に向けての課題と看護2. 高齢者の『その人らしさ』を支える看護

2026年度

老年看護学援助論

曜日・時限		配当学年	2学年	期区分		単位数	2単位	授業方法	講義
開講学科等	看護学科3年課程								
教員名	加納 薫、富森 洋子、津田 美沙緒、魚津 梨恵、宇城 恵								

科目の目標

老年期に起こりやすい疾患を通して、老年期の身体的・精神的・社会的側面を統合的に捉え、健康障害に合わせた看護援助の方法を学ぶ。

関連教科

解剖生理Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、共通基本技術論Ⅰ・Ⅱ、生活援助論Ⅰ・Ⅱ、老年看護学総論

時間外学習（予習・復習・課題）

1. 講義・演習を通して、高齢者が、どのような日常生活を送っているのかを知り、高齢者に必要な看護について考えてください。
2. 演習や見学実習に関しては、実施後ワークシートを用いたり、グループワークを通じて学びを深めていきましょう。課題提出に関しては講義中に伝達します。

オフィスアワー

8:30~17:30
外部講師の場合、講義終了時

成績評価方法・基準

評価項目	割合
終講試験評価	
課題・提出物	

テキスト

系統別看護学講座 専門Ⅱ 老年看護学
医学書院

生活機能からみた老年看護過程 病態・生活機能関連図
医学書院

参考文献

ナーシンググラフィカ 老年看護①高齢者の健康と障害
メディカ出版

ナーシンググラフィカ 老年看護②高齢者看護の実践
メディカ出版

高齢者の理解とケア加齢・症状のメカニズムと対応
Gakken

写真でわかる臨床看護技術②
インターメディカ

参考URL

特記事項

①実務経験のある教員による科目（本務先）

加納 薫
近畿大学附属看護専門学校

①実務経験のある教員による科目（専門領域）

臨床経験：内分泌・代謝内科、呼吸器内科、消化器内科、腫瘍内科
教員経験：精神看護学

②実務経験のある教員による科目（本務先）

富森 洋子
近畿大学附属看護専門学校

②実務経験のある教員による科目（専門領域）

臨床経験：救急看護、内科看護（呼吸器・内分泌代謝・腫瘍・神経内科）、眼科
教員経験：成人看護学

③実務経験のある教員による科目（本務先）

宇城 恵
近畿大学病院 看護部

③実務経験のある教員による科目（専門領域）

看護部：脳神経外科病棟勤務、摂食・嚥下障害看護認定看護師

④実務経験のある教員による科目（本務先）

津田 美沙緒
近畿大学病院 看護部

④実務経験のある教員による科目（専門領域）

看護師：皮膚・排泄ケア特定認定看護師

⑤実務経験のある教員による科目（本務先）

魚津 梨恵
近畿大学病院 看護部

⑤実務経験のある教員による科目（専門領域）

看護師：皮膚・排泄ケア認定看護師

⑥実務経験のある教員による科目（本務先）

⑥実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑦実務経験のある教員による科目（本務先）

⑦実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑧実務経験のある教員による科目（本務先）

⑧実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑨実務経験のある教員による科目（本務先）

⑨実務経験のある教員による科目（専門領域）

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
1回目	担当者:加納 薫 さまざまな場所で生活する高齢者の看護① 1) 高齢者とヘルスプロモーション 2) 保健医療福祉施設および居住施設における看護
2回目	担当者:加納 薫 さまざまな場所で生活する高齢者の看護② 1) 治療・介護を必要とする高齢者を含む家族の看護 2) 多職種連携実践による活動
3回目	担当者:加納 薫 高齢者の特徴に応じたヘルスアセスメント （身体の予備力を評価し、今後おこりうる疾病や廃用症候群・老年症候群を予測する視点、高齢者総合機能評価の活用について、MMT、ROM、フレイル、サルコペニアについて）
4回目	担当者:津田 美沙緒 排尿パターンの変調①
5回目	担当者:津田 美沙緒 排尿パターンの変調②
6回目	担当者:宇城 恵 食生活と摂食障害①
7回目	担当者:加納 薫 食生活と摂食障害②

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
8・9回目	担当者：加納 薫 富森 洋子 ①加齢に伴う摂食嚥下機能の変化 ②老年期に多い疾患による摂食嚥下障害 （嚥下評価/食事介助/口腔ケア）
10回目	担当者：魚津 梨恵 褥瘡と皮膚障害①
11回目	担当者：魚津 梨恵 褥瘡と皮膚障害②
12回目	担当者：加納 薫 老年期の特有な疾患や徴候 （頻度の高い老年症候群、熱中症、脱水、発熱、感染症など）
13回目	担当者：加納 薫 薬物療法を受ける高齢者の看護 （薬物動態の加齢変化やポリファーマシーを背景とした薬物有害事象と、高齢者の特徴を踏まえた安全な薬物療法について）
14回目	担当者：加納 薫 高齢者の特徴に応じた看護① （高齢者が受けることの多い検査）
15回目	担当者：加納 薫 高齢者の特徴に応じた看護② （検査を受ける高齢者への援助）

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
16回目	担当者：加納 薫 高齢者の生活機能を整える看護 （日常生活を支える基本的活動）
17・18回目	担当者：加納 薫 富森 洋子 演習：※移動動作（起き上がり・車椅子移乗、杖歩行） インスタントシニア体験と振り返り（4階実習室）
19回目	担当者：加納 薫 富森 洋子 排泄ケア
20・21回目	担当者：加納 薫 富森 洋子 排泄ケア演習
22回目	担当：加納 薫 富森 洋子 演習のリフレクション①
23回目	担当：加納 薫 富森 洋子 演習のリフレクション②
	終講試験

2026年度

老年看護学方法論

曜日・時限		配当学年	2学年	期区分		単位数	1単位	授業方法	講義
開講学科等	看護学科3年課程								
教員名	加納 薫、富森 洋子、中尾 有花、林 真由美、阿部 健太、加藤 恵子、北井 園子								

科目の目標

加齢による生活行動や、健康レベルが低下した高齢者の特徴を捉え、生活機能を支えるための看護展開を考える。事例を通して高齢者を理解し、マイナス的な問題解決型思考だけでなく、目標志向型思考をもって高齢者の強みを引き出すアセスメントを行う。

関連教科

基礎分野・専門基礎分野・老年看護学総論 老年看護学
法論Ⅱ

時間外学習（予習・復習・課題）

老年看護学総論で学んだ高齢者の理解、加齢変化に伴う身体変化の特徴をもとに、高齢者に特有な症状や疾患・障害に応じた看護を学ぶため、1年次の老年看護学総論、疾患学を復習しておいてください。また、高齢者に関心を持ち、イメージできるようにしましょう。
慢性心不全患者の事例を用いて看護過程の展開の講義を行います。実践での看護に繋げることができるよう、自らが考える力とグループで協力する力を育みたいと考えていますので主体的に取り組んでください。

オフィスアワー

月～金曜日 8:40～17:00
※上記以外は相談してください

成績評価方法・基準

評価項目	割合
終講試験評価	
課題・提出物	

テキスト

系統別看護学講座 専門分野 老年看護学
医学書院

系統別看護学講座 老年看護 病態・疾患論
医学書院

生活機能からみた老年看護過程
医学書院

基礎看護技術Ⅰ
医学書院

看護がみえるvol.4 看護過程の展開（第1版）
メディックメディア

看護がみえるvol.5 対象の理解Ⅰ（第1版）
メディックメディア

参考文献

ナーシング・グラフィカ 老年看護① 高齢者の健康と障害
メディカ出版

参考URL

特記事項

①実務経験のある教員による科目（本務先）

加納 薫
近畿大学附属看護専門学校

①実務経験のある教員による科目（専門領域）

臨床経験：内分泌・代謝内科看護、消化器内科看護、呼吸器内科看護、腫瘍内科看護
教員経験：精神看護学、老年看護学

②実務経験のある教員による科目（本務先）

北井 園子
近畿大学病院

②実務経験のある教員による科目（専門領域）

老年看護専門看護師

③実務経験のある教員による科目（本務先）

加藤 恵子
近畿大学病院

③実務経験のある教員による科目（専門領域）

慢性心不全看護認定看護師

④実務経験のある教員による科目（本務先）

林 真由美
近畿大学病院

④実務経験のある教員による科目（専門領域）

脳卒中リハビリテーション看護認定看護師

⑤実務経験のある教員による科目（本務先）

中尾 有花
近畿大学病院

⑤実務経験のある教員による科目（専門領域）

認知症看護認定看護師

⑥実務経験のある教員による科目（本務先）

阿部 健太
近畿大学病院

⑥実務経験のある教員による科目（専門領域）

集中ケア認定看護師

⑦実務経験のある教員による科目（本務先）

富森 洋子
近畿大学附属看護専門学校

⑦実務経験のある教員による科目（専門領域）

臨床経験：救急看護、内科看護（呼吸器・内分泌代謝・腫瘍・神経内科）、眼科
教員経験：成人看護学

⑧実務経験のある教員による科目（本務先）

⑧実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑨実務経験のある教員による科目（本務先）

⑨実務経験のある教員による科目（専門領域）

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
1回目	担当者：中尾 有花 認知症・認知機能低下（せん妄・うつ）のある患者の看護①
2回目	担当者：加納 薫 認知症・認知機能低下（せん妄・うつ）のある患者の看護① 脳血管疾患・脳梗塞の看護（麻痺・コミュニケーション障害）
3・4回目	担当者：林 真由美 脳血管疾患・脳梗塞の看護（麻痺・コミュニケーション障害）
5回目	担当者：阿部 健太 周手術期にある高齢者の看護
6回目	担当者：加納 薫 加齢変化による骨・関節疾患のアセスメントと看護（大腿骨頸部骨折の高齢者の看護）
7・8回目	担当：加藤 恵子 心不全をもつ高齢者の看護 （心機能の状態に合わせ、もてる力を活用しながら生活に即した療養行動の継続、高齢者の生き方を尊重し、QOLが維持・向上する支援）
9回目	担当者：北井 園子 終末期にある高齢者と家族への看護

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
10・11・12・13回目	担当者：加納 薫 富森 洋子 看護過程の展開①②③④
14回目	担当者：加納 薫 富森 洋子 看護過程の展開⑤ 看護計画に基づき援助を実施
15回目	担当者：加納 薫 富森 洋子 看護過程の展開⑥
	終講試験

2026年度

英語

曜日・時限		配当学年	1学年	期区分		単位数	1単位	授業方法	講義
開講学科等	看護学科3年課程								
教員名	中西 洋平								

科目の目標

目標：基本的な英文法を学習しながら、英語を実際に「使う」機会を持ち、「使える」実感を味わうこと。また、看護学の分野で必要とされる英語表現を学び、より実用的な英語を身につけ、外国人の患者さんと英語でコミュニケーションが図れるようになること。

関連教科

時間外学習（予習・復習・課題）

復習、小テストの準備
授業で指示する予習やプリント等

オフィスアワー

授業のある水曜日 12:30～13:00
上記以外にも事前連絡があれば別の時間に設定可能

成績評価方法・基準

評価項目	割合
課題、提出物、授業での活動への取り組み等	
復習小テスト	
終講テスト (Final Exam)	
パフォーマンス課題（発表やスピーキングなど）	

テキスト

看護系学生のための実践英語 [改訂版] English for N
朝日出版社

参考文献

参考URL

特記事項

授業計画は、受講生の意見を可能な限り取り入れながら、適宜変更していきます。

①実務経験のある教員による科目（本務先）
関西大学

①実務経験のある教員による科目（専門領域）
外国語教育学

②実務経験のある教員による科目（本務先）

②実務経験のある教員による科目（専門領域）

③実務経験のある教員による科目（本務先）

③実務経験のある教員による科目（専門領域）

④実務経験のある教員による科目（本務先）

④実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑤実務経験のある教員による科目（本務先）

⑤実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑥実務経験のある教員による科目（本務先）

⑥実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑦実務経験のある教員による科目（本務先）

⑦実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑧実務経験のある教員による科目（本務先）

⑧実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑨実務経験のある教員による科目（本務先）

⑨実務経験のある教員による科目（専門領域）

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
講義 1	オリエンテーション Unit 1 : It is your first visit to this hospital.
講義 2	Unit 2 : What' s the matter?
講義3	Unit 3 : You need to see a Dermatologist.
講義 4	Unit 4 : Let me direct you to Radiology.
講義5	Unit 5 : Let' s check your height and weight.
講義6	Unit 6 : I need to ask you some questions.
講義7	Unit 7 : Can you describe the pain?

授業計画（回数任意科目）

授業回数	授業内容
講義 8	Unit 8 : Rest your arm on the armrest.
講義 9	Unit 9 : Please make a follow-up appointment.
講義 10	Unit 10 : Take this medicine after meals
講義 11	Unit 11 : Your operation will be this afternoon.
講義 12	Unit 12 : Are you feeling more comfortable now?
講義 13	Unit 13 : This is an emergency.
講義 14	Unit 14 : Tests show you have high sugar levels.

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
講義 15	Unit 15 : You' ll be leaving us soon.
試験	Final Exam（終講試験）

2026年度

小児看護学総論 I

曜日・時限		配当学年	1学年	期区分		単位数	1単位	授業方法	講義
開講学科等	看護学科3年課程								
教員名	谷上 愛								

科目の目標
小児看護における目標や役割、倫理を学び、看護の特徴を理解する。また、子どもの成長発達や子どもを取り巻く社会環境と擁護について学ぶ。

関連教科
生命倫理、社会学、家族論、心理学、母性看護学総論

時間外学習（予習・復習・課題）
発達段階に応じた子どもの特徴を理解するために、身近にいる子どもの遊びや特徴を観察しておくこと

オフィスアワー

成績評価方法・基準

評価項目	割合
筆記試験	

テキスト

小児看護学概論 小児臨床看護総論
医学書院

参考文献

参考URL

特記事項

①実務経験のある教員による科目（本務先）

吉川病院

①実務経験のある教員による科目（専門領域）

臨床経験: 病院病棟勤務（小児循環器科）
外来勤務、当直勤務（小児救急救急、
産科）
学校専任教員

②実務経験のある教員による科目（本務先）

②実務経験のある教員による科目（専門領域）

③実務経験のある教員による科目（本務先）

③実務経験のある教員による科目（専門領域）

④実務経験のある教員による科目（本務先）

④実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑤実務経験のある教員による科目（本務先）

⑤実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑥実務経験のある教員による科目（本務先）

⑥実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑦実務経験のある教員による科目（本務先）

⑦実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑧実務経験のある教員による科目（本務先）

⑧実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑨実務経験のある教員による科目（本務先）

⑨実務経験のある教員による科目（専門領域）

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
1コマ目	<p>小児看護の特徴と理念</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 小児看護の目指すところを述べることができる。 2 我が国の小児と家族の諸統計について知ることができる。 3 小児看護の変遷を学び現代の小児看護を述べることができる。 <p>子どもと家族を取り巻く社会</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 子どもに関するおもな法律と施策について述べるができる。
2コマ目	<p>小児看護における発達理論</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 小児における発達理論について述べるができる。 <p>小児における看護理論</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 小児における看護理論の考え方を述べるができる。
3コマ目	<p>小児看護における倫理</p> <p>小児看護における倫理と課題について述べるができる。</p>
4コマ目	<p>子どもの成長・発達</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 成長発達の進み方、成長発達に影響する因子が述べるができる。 2. 成長発達の評価の方法について述べるができる。
5コマ目	<p>乳児期の成長・発達の特徴と療育の視点</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 形態的・身体生理・感覚機能的・知的特徴について述べるができる。 2 運動機能について述べるができる(粗大運動, 微細運動)。 3 発達課題について述べるができる。 4 社会的機能、愛着形成の大切さを述べるができる(アタッチメント)。
6コマ目	<p>幼児期の成長・発達の特徴と療育の視点</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 形態的・身体生理・感覚機能的・知的特徴について述べるができる。 2 運動機能について述べるができる。 3 発達課題について述べるができる。 4 社会的機能について述べるができる。
7コマ目	<p>学童期の成長・発達の特徴と療育の視点</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 形態的・身体生理・感覚機能的・知的特徴について述べるができる。 2 発達課題について述べるができる。 3 社会的機能について述べるができる。

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
8コマ目	<p>思春期・青年期の子どもの成長・発達の特徴と療育の視点</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 形態的・身体生理・感覚機能的・知的特徴について述べるができる。 2 発達課題について述べるができる。 3 社会的機能について述べるができる。 4 生活の特徴について述べるができる。
9.10コマ目	<p>子どもにおける生活習慣における視点</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 子どもの栄養について(離乳含む)述べるができる。 2 子どもの遊びについて述べるができる。 3 子どもの排泄(トイレトレーニング含む)について述べるができる。 4 子どもの睡眠について述べるができる。 5 子どものコミュニケーション機能(言語の発達含む)について述べるができる。

2026年度

小児看護学総論Ⅱ

曜日・時限		配当学年	2学年	期区分		単位数	1単位	授業方法	講義
開講学科等	看護学科3年課程								
教員名	岩戸 さゆき、谷上 将生								

科目の目標

1. 病気・障害は、子どもと家族にどのような変化や影響を及ぼすのかを学ぶことができる
2. 疾病の経過による看護の必要性を思考でき、理解することができる。
3. 小児看護援助技術に学習をつなげ、実践に役立てることができる。

関連教科

周産期学、新生児学、小児栄養学、小児病態学、

時間外学習（予習・復習・課題）

◎各講義（第1～8回分）中に10分ほどで授業のまとめの小レポートを提出すること

- ・子どもの発達段階を復習し、正常な発達過程をまとめておくこと。
- ・子どもだけではなく、病気や疾患が家族に及ぼす影響について理解を深めるため、
家族看護学・社会学の復習をすること。
- ・具体的な援助技術につなげられるよう、まとめること。

オフィスアワー

成績評価方法・基準

評価項目	割合
終講試験・小レポート	

テキスト

小児看護学概論 小児臨床看護総論
医学書院

参考文献

病気が見える
メディックメディア

参考URL

特記事項

①実務経験のある教員による科目（本務先）

岩戸 さゆき

近畿大学病院附属看護専門学校

①実務経験のある教員による科目（専門領域）

臨床経験；小児病棟、重度心身障害児施設、内科病棟、訪問看護ステーション

教員経験；小児看護学、在宅看護論

②実務経験のある教員による科目（本務先）

谷上 将生

大阪急性期・総合医療センター

②実務経験のある教員による科目（専門領域）

循環器看護、小児救急看護

小児救急看護認定看護師

③実務経験のある教員による科目（本務先）

③実務経験のある教員による科目（専門領域）

④実務経験のある教員による科目（本務先）

④実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑤実務経験のある教員による科目（本務先）

⑤実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑥実務経験のある教員による科目（本務先）

⑥実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑦実務経験のある教員による科目（本務先）

⑦実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑧実務経験のある教員による科目（本務先）

⑧実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑨実務経験のある教員による科目（本務先）

⑨実務経験のある教員による科目（専門領域）

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
1コマ目	<p>病気・障害をもつ子どもと家族の看護</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康問題が子どもの成長・発達に及ぼす影響について、発達段階ごとに整理することができる ・健康問題のある子どものセルフケアの自立を支援する看護について、発達段階ごとに考えることができる ・入院が子どもにもたらす影響について、子どもの発達段階ごとに整理することができる ・入院している子どものきょうだいへのケアについて、考えることができる
2コマ目	<p>子どもの状況（環境）に特徴づけられる看護</p> <p>入院環境と看護の役割について述べるができる 入院中の子どもと家族の看護のポイントを述べるができる</p>
3コマ目	<ol style="list-style-type: none"> 1 外来における子どもと家族の看護 外来を受診する子どもと家族への看護のポイントをあげるができる 2 在宅療養中の子どもと家族の看護 子どもと家族にとっての在宅療養の意義につまとめることができる 3 災害時の子どもと家族の看護 災害地における子どもの反応とその対応についてまとめることができる
4コマ目	<p>慢性期にある子どもと家族の看護</p> <p>慢性期の子どもの看護について述べるができる 慢性期の子どもを持つ家族の看護について述べるができる</p>
5コマ目	<p>急性期にある子どもと家族の看護</p> <p>急性期の子どもの看護について述べるができる 急性期の子どもを持つ家族の看護について述べるができる</p>
6コマ目	<p>周手術期の子どもと家族の看護</p> <p>周手術期にある子どもの看護について述べるができる 周手術期にある子どもを持つ家族の看護について述べるができる</p>
7コマ目	<p>終末期にある子どもと家族の看護</p> <p>終末期の子どもの看護について述べるができる 終末期の子どもを持つ家族の看護について述べるができる</p>

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
8コマ目	<p>障害のある子どもと家族の看護</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身体障害のある子どもの発達段階ごとに生じやすい身体的・精神的な問題と社会性の発達課題、家族の困難や課題を整理できる ・医療的ケアを必要とする子どもの在宅生活への移行、地域での生活における看護について整理できる ・障害児にかかわるそれぞれの専門職が果たす役割と、多職種連携における看護師の役割を考えることができる
9コマ目（谷上）	<p>子どもの虐待と看護</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 児童虐待の定義と現状が述べられる 2. 虐待に対する看護師の役割が述べられる 3. 虐待の発生要因を理解し、子どもや家族のケアを考えることができる
10コマ目（谷上）	<p>子どもの事故防止</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの発達段階から起こりやすい事故を考えることができる 2. 子どもの事故予防の具体的方法を考えることができる 3. 事故時の対処方法についてわかる

2026年度

小児疾病論

曜日・時限		配当学年	2学年	期区分		単位数	1単位	授業方法	講義
開講学科等	看護学科3年課程								
教員名	杉本 圭相、平松 英文、竹村 豊、宮崎 紘平、小西 悠平、今岡 のり、森本 優一、龍神 雅子								

科目の目標
子どもの特性である正常な成長・発達を学び、子どもの心身両面の発育を理解し、小児特有の疾患の特徴ならびにその他の問題・対応についても学修する。

関連教科
系統看護学講座 専門Ⅱ 小児臨床看護各論

時間外学習（予習・復習・課題）
・講義前に教科書で該当する部分を熟読しておく
・身近にいる子どもたちの成長や発達を観察しておく

オフィスアワー

テキスト
小児臨床看護各論 小児看護学2
医学書院

成績評価方法・基準

評価項目	割合
筆記試験	

参考文献

参考URL

特記事項

①実務経験のある教員による科目（本務先）

杉本 圭相
近畿大学医学部 小児科学教室

①実務経験のある教員による科目（専門領域）

小児科学（虐待、思春期学・心身症）

②実務経験のある教員による科目（本務先）

森本 優一
近畿大学医学部 小児科学教室

②実務経験のある教員による科目（専門領域）

小児科学（腎臓・膠原病）

③実務経験のある教員による科目（本務先）

龍神 雅子
近畿大学医学部 小児科学教室

③実務経験のある教員による科目（専門領域）

小児科学（神経・精神）

④実務経験のある教員による科目（本務先）

小西 悠平
近畿大学医学部 周産期母子医療センターNICU部

④実務経験のある教員による科目（専門領域）

小児科学（新生児）

⑤実務経験のある教員による科目（本務先）

宮崎 紘平
近畿大学医学部 小児科学教室

⑤実務経験のある教員による科目（専門領域）

小児科学（感染症）

⑥実務経験のある教員による科目（本務先）

竹村 豊
近畿大学医学部 小児科学教室

⑥実務経験のある教員による科目（専門領域）

小児科学（アレルギー・免疫）

⑦実務経験のある教員による科目（本務先）

平松 英文
近畿大学医学部 小児科学教室

⑦実務経験のある教員による科目（専門領域）

小児科学（血液・腫瘍）

⑧実務経験のある教員による科目（本務先）

今岡のり
近畿大学医学部 小児科学教室

⑧実務経験のある教員による科目（専門領域）

小児科学（循環器）

⑨実務経験のある教員による科目（本務先）

⑨実務経験のある教員による科目（専門領域）

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
循環器	先天性心疾患、不整脈、心不全、川崎病などの病態、および診断・治療・予後などについて
腎	ネフローゼ症候群、腎炎、腎不全などの病態、および診断・治療・予後などについて
神経・発達	神経・筋疾患、発達障害、脳性麻痺などの病態、および診断・治療・予後などについて
新生児	低出生体重児、呼吸障害、新生児仮死の病態、および診断・治療・予後などについて 新生児健診、新生児マススクリーニングの意義、診察法について
感染・予防接種	細菌感染症、ウイルス感染症の病態、および診断・治療・予後などについて 予防接種の意義とその効果について
血液・腫瘍	食物アレルギー、気管支喘息、アトピー性皮膚炎などの病態、および診断・治療・予後などについて
アレルギー	貧血、出血性疾患（血友病）、小児がんの総論、白血病、固形腫瘍の病態、および診断・治療・予後などについて 集学的治療、長期的なトータルケアの重要性などについて
血液・腫瘍	児童虐待における適切な対応について 主な思春期の健康問題および小児心身症に対する理解・診断・対応について

2026年度

小児看護学援助論

曜日・時限		配当学年	2学年	期区分		単位数	1単位	授業方法	講義
開講学科等	看護学科3年課程								
教員名	岩戸 さゆき、実原 恵美子、中野 美紀、西田 真理								

科目の目標

症状別看護の知識と技術を習得できる。
発達段階に応じた看護過程の展開を理解できる。
疾患を持つ子どもへの看護援助を演習を通して理解することができる。

関連教科

小児看護学総論Ⅰ、基礎看護学技術論Ⅵ、基礎看護学技術論Ⅶ、小児看護疾病論

時間外学習（予習・復習・課題）

この授業は、発達段階に応じた症状別看護を学ぶ場であるため疾患ごとの看護ではありません。しかし、実習では疾患特有の看護が展開されます。それゆえ、授業の中では代表的な疾患の主症状として教授することがあります。授業内で、必要な学習についてはアナウンスするため、各自で取り組んでください。
演習・看護過程は、レポートの点数があります。体調を整え、欠課せずに頑張りましょう。

オフィスアワー

特になし

成績評価方法・基準

評価項目	割合
終講試験	
演習レポート（3回分）	
看護過程（看護計画・プロブレムリスト）	

テキスト

小児臨床看護各論 小児看護学2

医学書院

小児看護学概論・小児臨床看護学総論 小児看護学2

医学書院

参考文献

こどもの心臓病と手術

MCメディカ出版

こどもの腎臓病と治療

MCメディカ出版

こどものがんと治療

MCメディカ出版

DVD 子どものバイタルサインズの測定

ビデオ・パック・ニッポン

DVD 子どもの身体計測

ビデオ・パック・ニッポン

参考URL

特記事項

1. 演習時は、ユニフォーム、ナース靴着用
2. 出席、授業態度は評価に反映しますので、注意して下さい
3. 提出物は期限を厳守して下さい。正当な理由がなく遅れた場合は、評価対象外になるので注意して下さい
4. 演習授業参加後、レポートの指示があります。休むと、加点されないので注意してください

①実務経験のある教員による科目（本務先）

岩戸さゆき
近畿大学附属看護専門学校

①実務経験のある教員による科目（専門領域）

臨床経験：小児科病棟、重度心身障害児施設、内科病棟、訪問看護ステーション
教員経験：小児看護学、在宅看護論

②実務経験のある教員による科目（本務先）

実原恵美子

②実務経験のある教員による科目（専門領域）

臨床経験：近畿大学病院

③実務経験のある教員による科目（本務先）

中野 美紀
近畿大学病院

③実務経験のある教員による科目（専門領域）

新生児看護、低出生体重児看護

④実務経験のある教員による科目（本務先）

西田 真理
近畿大学病院

④実務経験のある教員による科目（専門領域）

新生児看護、低出生体重児看護

⑤実務経験のある教員による科目（本務先）

⑤実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑥実務経験のある教員による科目（本務先）

⑥実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑦実務経験のある教員による科目（本務先）

⑦実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑧実務経験のある教員による科目（本務先）

⑧実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑨実務経験のある教員による科目（本務先）

⑨実務経験のある教員による科目（専門領域）

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
1コマ目（岩戸）	<p>循環器系疾患の看護</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 小児の心疾患の特徴が述べられる 2. 心疾患をもつ小児と家族への援助について考えることができる 3. 周手術期の小児と家族への関わりについて考えることができる
2コマ目（岩戸）	<p>循環器系疾患の看護</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 小児の心疾患の特徴が述べられる 2. 心疾患をもつ小児と家族への援助について考えることができる 3. 周手術期の小児と家族への関わりについて考えることができる
3コマ目（岩戸）	<p>消化器系疾患の看護</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 消化器疾患をもつ小児と家族への影響を考えることができる 2. 先天性形態異常をもつ子どもと家族への必要な援助及び療養行動を支える看護について考えることができる
4コマ目（岩戸）	<p>腎・泌尿器疾患の看護</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 腎・泌尿器疾患をもつ子どもと家族の身体的苦痛や心理・社会的問題について考えることができる 2. 長期療養の必要な子どもについて生活上の問題点を考えることができる 3. 食事や安静などの制限がある子どもの日常生活の工夫を考えることができる
5コマ目（岩戸）	<p>呼吸器系疾患と看護</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 呼吸器の観察項目を理解できる 2. 日常生活上の問題点と援助の方法を述べることができる
6コマ目（岩戸）	<p>悪性新生物と看護</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 悪性新生物をもつ子どもと家族に与える影響について考えることができる 2. 化学療法を受けている子どもと家族に必要な援助について考えることができる
7コマ目（西田/中野）	<p>低出生体重児の看護</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 低出生体重児の特徴と起こりやすい疾患が述べられる 2. 胎外生活への適応について必要な援助が述べられる 3. 治療・処置が成長発達に与える影響について述べられる 4. ディベロップメンタルケアの必要性がわかり、具体的な援助について述べられる

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
8コマ目（西田/中野）	<p>低出生体重児の看護</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 低出生体重児の特徴と起こりやすい疾患が述べられる 2. 胎外生活への適応について必要な援助が述べられる 3. 治療・処置が成長発達に与える影響について述べられる 4. ディベロップメンタルケアの必要性がわかり、具体的な援助について述べられる
9コマ目（美原・岩戸 演習）レポート提出あり	<p>演習テーマ：発達段階及び症例に応じた看護技術を習得できる</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 新生児の沐浴 2. 新生児のバイタルサイン測定、授乳、抱っこ、おむつ交換 3. 子どもの点滴固定
10コマ目（美原・岩戸 演習）レポート提出あり	<p>演習テーマ：発達段階及び症例に応じた看護技術を習得できる</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 新生児の沐浴 2. 新生児のバイタルサイン測定、授乳、抱っこ、おむつ交換 3. 子どもの点滴固定
11コマ目（岩戸）	<p>講義テーマ：入院中の子どもの気持ちがわかる。子どもの辛さを軽減できる看護技術を考えることができる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもにとって検査・処置がどのような体験になるのかを考えることができる 2. プレパレーション・ディストラクションの意義がわかる 3. 入院中の子どものストレス緩和に向けての援助が考えられる
12コマ目（岩戸・美原 演習）レポートあり	<p>演習テーマ：プレパレーション、ディストラクションの実施</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. プレパレーションを体験する 2. ディストラクションを体験する 3. 疾患をもつ子どもの気持ちが理解できる
13コマ目（美原・岩戸 演習）レポート提出あり	<p>演習テーマ：輸液ポンプ・シリンジポンプの取り扱い、遊びの技術を習得する</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 輸液ポンプ、シリンジポンプの基本的な操作ができる 2. 入院中の子どもに対し、気分展開活動に向けた看護援助のツールを作成する
14コマ目（美原・岩戸 演習）レポート提出あり	<p>演習テーマ：輸液ポンプ・シリンジポンプの取り扱い、遊びの技術を習得する</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 輸液ポンプ、シリンジポンプの基本的な操作ができる 2. 入院中の子どもに対し、気分展開活動に向けた看護援助のツールを作成する

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
15コマ目（岩戸・授業）	<p>講義テーマ：小児看護 看護過程（1）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. NANDA-Iとゴードンの機能的健康パターンを理解する 2. 事例から情報を整理できる
16コマ目（岩戸・授業）	<p>講義テーマ：小児看護 看護過程（2）</p> <ol style="list-style-type: none"> 2. 情報の振り分けができ、事例の全体像がみえる
17コマ目（岩戸 授業）	<p>講義テーマ：小児看護 看護過程（3）</p> <p>SAOP形式を学び、経過記録が書けるようになる</p>
18コマ目（岩戸 授業）	<p>講義テーマ：小児看護 看護過程（4）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 疾病の経過や治療、小児の成長発達を踏まえ、看護診断が抽出できる 2. 看護の方向性が定まる 3. プロブレムリストが作成できる
19コマ目（岩戸 授業）	<p>講義テーマ：小児看護 看護過程（5）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. プロブレムリストから看護計画を立案する（標準的な計画の作成）
20コマ目（岩戸 授業）	<p>小児看護 看護過程（6）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 立案された計画を追加修正する（個別的な看護計画にブラッシュアップする） 2. 計画の評価をする

2026年度

母性看護学総論

曜日・時限		配当学年	1学年	期区分		単位数	1単位	授業方法	講義
開講学科等	看護学科3年課程								
教員名	奥田 裕紀子								

科目の目標

1. 母性看護の対象を理解する
2. 母性を取り巻く社会の現状や課題と制度や法律を関連させ、母子保健を学ぶ
3. 女性のライフサイクル各期における健康の保持増進のための看護者の役割を学ぶ

関連教科

社会学、生命倫理、家族論、成人看護学総論、精神看護学総、基礎看護学方法論Ⅱなど

時間外学習（予習・復習・課題）

基礎体温を30日以上測定します。測定開始時期は、講義中にお知らせします。
女子学生は婦人体温計を準備してください。男子学生は普通の体温計を準備してください。

オフィスアワー

授業後

成績評価方法・基準

評価項目	割合
終講試験	
課題の提出	

テキスト

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学概論 母性看護学I

医学書院

ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程

医歯薬出版 著) 太田 操

参考文献

参考URL

特記事項

出席・授業態度は評価に反映するので注意してください。

①実務経験のある教員による科目（本務先）

奥田裕紀子

近畿大学附属看護専門学校

①実務経験のある教員による科目（専門領域）

臨床経験：アドバンス助産師 産婦人科 小児科 乳腺外科 消化器外科

教員経験：基礎看護学 助産診断・技術学 助産管理

②実務経験のある教員による科目（本務先）

②実務経験のある教員による科目（専門領域）

③実務経験のある教員による科目（本務先）

③実務経験のある教員による科目（専門領域）

④実務経験のある教員による科目（本務先）

④実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑤実務経験のある教員による科目（本務先）

⑤実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑥実務経験のある教員による科目（本務先）

⑥実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑦実務経験のある教員による科目（本務先）

⑦実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑧実務経験のある教員による科目（本務先）

⑧実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑨実務経験のある教員による科目（本務先）

⑨実務経験のある教員による科目（専門領域）

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
1コマ目	母性・父性 母性・父性の概念が述べられる 人間の発達課題とともに、親になること・家族を作るの意味が考えられる 母性・父性の発達過程とその発達に影響を与える要因が述べられる
2コマ目	母性看護、リプロダクティブヘルス 母性看護の目的について述べられる リプロダクティブヘルス/ライツの概念が述べられる
3・4コマ目	母性の身体的特徴：性周期 性周期の仕組みが述べられる 卵巣・子宮の周期性変化が述べられる 性周期におけるホルモンの変化が述べられる 基礎体温の測定方法についてわかる
5・6コマ目	母性の心理的特徴 母性性の発達について理解できる 親子相互作用について内容がわかる
7コマ目	母性の社会的特徴 現在の家族の傾向から母性が受ける影響について述べられる 地域社会から母性が受ける影響が述べられる 労働から母性が受ける影響が述べられる
8コマ目	母子保健の現状 母子保健統計から日本の現状と動向がわかる
9コマ目	母子保健対策 母子保健対策の現状について述べられる 母子保健活動のための法律がわかる 母子保健活動の内容が述べられる

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
10コマ目	母性看護に必要な看護技術 ヘルスプロモーションのための看護技術がわかる 女性のライフサイクル各期の保健指導がわかる 母性看護における看護過程の特徴がわかる

2026年度

母性看護学援助論 I

曜日・時限		配当学年	2学年	期区分		単位数	1単位	授業方法	講義
開講学科等	看護学科3年課程								
教員名	奥田 裕紀子、貫戸 明子、甲斐 冴、川崎 薫、葉 宜慧								

科目の目標
周産期における一連の過程での正常および異常の経過について学ぶ。

関連教科
産科学、社会学、生命倫理、家族論、解剖生理学、母性看護学総論

時間外学習（予習・復習・課題）
講義では、重要な項目に重点をおいて解説します。予習はもちろんのこと、授業後には教科書に一通り目を通し、復習をしっかりとってください。

オフィスアワー
産婦人科医師担当の講義内容に関する質問はa-kanto@med.kindai.ac.jpまで

成績評価方法・基準

評価項目	割合
筆記試験（外部講師）	
筆記試験（専任教員）	

テキスト
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論 母性看護学②
医学書院

参考文献

参考URL
https://www.jsog.or.jp/public/human_plus_dictionary/book_vol2.p

特記事項
出席・授業態度は評価に反映するので注意してください。

①実務経験のある教員による科目（本務先）

川崎薫
近畿大学病院

①実務経験のある教員による科目（専門領域）

産婦人科

②実務経験のある教員による科目（本務先）

葉宜慧
近畿大学病院

②実務経験のある教員による科目（専門領域）

産婦人科

③実務経験のある教員による科目（本務先）

甲斐冨
近畿大学病院

③実務経験のある教員による科目（専門領域）

産婦人科

④実務経験のある教員による科目（本務先）

貫戸明子
近畿大学病院

④実務経験のある教員による科目（専門領域）

産婦人科

⑤実務経験のある教員による科目（本務先）

奥田裕紀子
近畿大学附属看護専門学校

⑤実務経験のある教員による科目（専門領域）

臨床経験：アドバンス助産師 産婦人科 乳腺外科 消化器外科
教員経験：基礎看護学 助産診断・技術学 助産管理

⑥実務経験のある教員による科目（本務先）

⑥実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑦実務経験のある教員による科目（本務先）

⑦実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑧実務経験のある教員による科目（本務先）

⑧実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑨実務経験のある教員による科目（本務先）

⑨実務経験のある教員による科目（専門領域）

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
1	妊娠の生理、胎児の発育と生理（担当：奥田 裕紀子） 到達目標：妊娠期の母体の正常な変化が理解できる 胎児・および附属物の特徴が理解できる
2	妊娠期の異常（遺伝相談・不妊症・出生前診断を含む）（担当：川崎薫） 到達目標：妊娠期の検査・治療・処置が理解できる 出生前診断の適応と方法がわかる 不妊症の原因分類と治療方法が理解できる
3	分娩経過（担当：奥田 裕紀子） 到達目標：分娩期の正常な経過が理解できる
4	分娩期の異常（担当：葉宜慧） 到達目標：分娩期の異常とそのリスク要因について理解できる 分娩期の検査・治療・処置について理解できる胎児・分娩の異常
5	【胎児機能不全の診断・対処と異常のある産婦の看護】（担当：奥田 裕紀子） 到達目標：胎児機能不全の診断と対処がわかる 分娩時に異常がある産婦とその家族の看護がわかる
7	産褥期の異常（担当：甲斐冨） 到達目標：産褥期の異常とそのリスク要因について理解できる 産褥期の検査・治療・処置が理解できる
6	産褥経過・新生児の胎外生活適応過程（担当：奥田裕紀子） 到達目標：産褥期の正常な経過が理解できる 出生後の新生児の胎外生活における適応過程を理解できる
7	新生児の異常（担当：貫戸明子） 到達目標：新生児の異常とそのリスク要因が理解できる 新生児期の検査・治療・処置が理解できる

2026年度

母性看護学援助論Ⅱ

曜日・時限		配当学年	2学年	期区分		単位数	2単位	授業方法	講義
開講学科等	看護学科3年課程								
教員名	奥田 裕紀子、山崎 由美子								

科目の目標
妊娠・分娩・産褥および新生児における生理的变化とそれぞれの時期における保健指導を含めた看護について理解できる

関連教科
母性看護学総論 母性看護学援助論Ⅰ

時間外学習（予習・復習・課題）
身近な妊産褥婦・新生児と関わり、観察してください

オフィスアワー
授業後

成績評価方法・基準

評価項目	割合
終講試験	
課題（提出状況と内容）	
演習（参加状況・態度）	

テキスト
系統看護学講座 専門Ⅱ 母性看護学各論 母性看護学2
医学書院

参考文献
病気がみえる10 産科 第4版 MEDIC MEDIA

ウエルネス看護診断にもとづく母性看護過程 第4版

参考URL

特記事項
・各期の間で講義進度は前後することがあります。
・出席、講義態度（技術演習も含む）は評価に反映しますので注意してください。

①実務経験のある教員による科目（本務先）

山崎 由美子
近畿大学病院

①実務経験のある教員による科目（専門領域）

助産師 専門看護師 産婦人科

②実務経験のある教員による科目（本務先）

奥田裕紀子
近畿大学附属看護専門学校

②実務経験のある教員による科目（専門領域）

臨床経験；アドバンス助産師、産婦人科、乳腺外科、消化器外科
教員経験；基礎看護学、助産診断・技術学、助産管理

③実務経験のある教員による科目（本務先）

③実務経験のある教員による科目（専門領域）

④実務経験のある教員による科目（本務先）

④実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑤実務経験のある教員による科目（本務先）

⑤実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑥実務経験のある教員による科目（本務先）

⑥実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑦実務経験のある教員による科目（本務先）

⑦実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑧実務経験のある教員による科目（本務先）

⑧実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑨実務経験のある教員による科目（本務先）

⑨実務経験のある教員による科目（専門領域）

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
1～3コマ目	<p>妊娠期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 妊娠期の成立と胎児の発育過程が述べられる ・ 胎児付属物の機能と役割が述べられる ・ 妊婦の経過に伴う身体生理的变化、心理的・社会的変化が述べられる ・ 妊婦のニーズおよび看護問題とその原因を判断するために必要な情報がわかる ・ 母児が妊娠経過を健康に過ごすために、援助を必要としているニーズと看護問題がわかる ・ 妊娠経過に合わせた、妊婦の日常生活健康探究行動がわかる
4.5コマ目	<p>妊娠期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 母性意識の発達を促す援助についてわかる ・ 妊婦の一般的心理を理解して、その援助のあり方がわかる ・ マイナートラブル（不快症状）に対する援助がわかる ・ 妊娠経過で起こりやすい異常の予防と早期発見、および健康回復のための援助方法がわかる
6.7.8コマ目	<p>分娩期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 産婦の分娩経過における身体的・心理的・出産に伴う家族の影響が述べられる ・ 分娩の経過に影響を及ぼす因子がわかる ・ 産婦のニーズおよび看護問題と、その原因を判断するために必要な情報がわかる ・ 母児が分娩経過を健康に過ごすために、援助を必要としているニーズと看護問題がわかる ・ 母児が健康で分娩を経過するように、分娩経過に合わせた産婦の日常生活行動の援助がわかる ・ 産婦とその家族の精神的安定をはかる援助のあり方がわかる
9～11コマ目	<p>分娩期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 薬物を用いない産痛緩和法がわかる ・ 分娩経過で起こりやすい異常の予防と早期発見、および健康回復のための緩和方法がわかる
12.13コマ目	<p>産褥期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 産婦の産褥経過における身体的変化・心理的特徴・出産に伴う家族の反応が述べられる ・ 産褥異常が母児に及ぼす主な健康問題がわかる ・ 産婦のニーズおよび看護問題とその原因を判断するための必要な情報がわかる ・ 産婦が産褥経過を健康に過ごすために、産婦の援助を必要としているニーズと看護問題がわかる
14.15コマ目	<p>産褥期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 感染、子宮復古不全、乳汁分泌不足などの異常を起こさず、健康で産褥期を経過するように、産褥経過に合わせた産婦の日常生活行動について援助がわかる ・ ペアレンティングを促進する援助がわかる ・ 産褥経過で起こりやすい異常の予防と早期発見、および健康回復のための援助方法がわかる
16～19コマ目	<p>新生児</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新生児の胎外生活への適応過程がわかる ・ 新生児の身体的特徴がわかる ・ 新生児のニーズおよび看護問題とその原因を判断するために必要な情報がわかる ・ 新生児とのコミュニケーションのとり方がわかる ・ 新生児が胎外生活に適応し健康に過ごすために、援助を必要としている新生児のニーズと看護問題がわかる ・ 新生児の保育技術がわかる ・ 新生児に起こりやすい異常の予防と早期発見、および健康回復のための援助方法がわかる

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
20～21コマ目	正常分娩（初産婦）の看護過程の展開：提出
22. 23コマ目	技術演習 <ul style="list-style-type: none"> ・新生児のバイタルサイン ・新生児の身体計測 ・妊婦の看護(妊婦体験・レオポルド触診法・褥婦の子宮底の観察等)

2026年度

精神看護学総論

曜日・時限		配当学年	1学年	期区分		単位数	1単位	授業方法	講義
開講学科等	看護学科3年課程								
教員名	菊地 美鈴、加納 薫								

科目の目標

こころの健康について、不健康の側面だけでなく、健康や予防の側面、成長発達、社会・環境との関連など広い視野で学ぶとともに精神保健医療福祉に関する法律法律・制度の歴史的な変遷をふまえて人権尊重・権利擁護、リカバリーについて理解し、精神看護実践の基礎となる考え方や態度を養う。

関連教科

コミュニケーション技法、心理学、社会学、社会福祉Ⅰ、家族論、地域・在宅看護総論Ⅰ、成人看護学総論、母性看護学総論、小児看護学総論

時間外学習（予習・復習・課題）

どのような地域社会が、精神に障がいがある人にとって生活しやすいかを考えてみましょう。

夏期休暇課題 クラスルームに提出
精神に障がいがある人が利用できる社会資源、医療機関、福祉施設、公共機関について、あなたが居住している地域で生活する場合の生活のしやすさや、生活のしづらさを考えながら、地域の資源を調べてみましょう。
居宅介護、同行援護および行動援護、重度訪問介護、生活介護、短期入所、生活訓練、就労移行支援、就労継続支援A型・B型、共同生活援助（グループホーム）、市役所、精神科クリニック、精神科訪問看護ステーション

オフィスアワー

成績評価方法・基準

評価項目	割合
課題に対する取り組み姿勢・グループワークへの参加状況・グループワーク発表内容	
筆記試験	

テキスト

系統看護学講座－専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護学①

医学書院

系統看護学講座－専門分野Ⅱ 精神看護の展開 精神看護学②

医学書院

参考文献

当事者が語る精神障害者とのつきあい方「グッドラック！統合失調症」と言おう

明石書店

参考URL

特記事項

精神看護学総論の授業を受けるにあたり、何か配慮が必要なことがありましたら事前にお伝えください。

①実務経験のある教員による科目（本務先）

菊地 美鈴
近畿大学附属看護専門学校

①実務経験のある教員による科目（専門領域）

臨床経験：精神科看護、循環器外科看護
教員経験：精神看護学、成人看護学

②実務経験のある教員による科目（本務先）

加納 薫
近畿大学附属看護専門学校

②実務経験のある教員による科目（専門領域）

臨床経験：内分泌・代謝内科看護、消化器内科看護、呼吸器内科看護、腫瘍内科看護
教員経験：精神看護学・老年看護学

③実務経験のある教員による科目（本務先）

③実務経験のある教員による科目（専門領域）

④実務経験のある教員による科目（本務先）

④実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑤実務経験のある教員による科目（本務先）

⑤実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑥実務経験のある教員による科目（本務先）

⑥実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑦実務経験のある教員による科目（本務先）

⑦実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑧実務経験のある教員による科目（本務先）

⑧実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑨実務経験のある教員による科目（本務先）

⑨実務経験のある教員による科目（専門領域）

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
1回目 第1章 精神看護学で学ぶこと	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神看護学の基本的な考え方を理解できる 2. 精神的健康の保持・増進としての精神保健について理解できる
2回目 第2章 精神保健の考え方	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神の健康について理解できる 2. 精神の健康や障害の3側面を理解できる 3. ストレスコーピング、危機理論について理解できる
3回目 第3章 心のはたらきと人格の形成	<p>”第3章 心のはたらきと人格の形成 p102まで（ピアジェ：小児、エリクソン：心理学）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 心のはたらきと仕組みについて、生物学的・心理学的・社会的側面から理解できる <ol style="list-style-type: none"> 1) 心のはたらきについて理解することができる 2) 防衛機制について理解することができる
4回目 第10章 社会資源の活用とケアマネジメント	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神疾患・精神障害者ケアマネジメントの基本的考え方について理解できる 2. 社会資源の活用とソーシャルサポートについて理解できる
5回目 第12章 地域で活用できる社会資源について調べる	<p>精神に障がいがある人が利用できる社会資源について、あなたが居住している地域で生活する場合の生活のしやすさや、生活のしづらさを考えながら、地域の資源を調べてみましょう。居宅介護、同行援護および行動援護、重度訪問介護、生活介護、短期入所、生活訓練、就労移行支援、就労継続支援A型・B型、共同生活援助（グループホーム）、市役所、精神科クリニック、精神科訪問看護ステーション</p>
6回目 第13章 地域で活用できる社会資源について調べる	<ol style="list-style-type: none"> 1. グループでまとめた内容をiPadを使用し画面共有して発表することができる。 2. 社会資源や地域で生活するために必要なことについて考えることができる。 <p>居宅介護、同行援護および行動援護、重度訪問介護、生活介護、短期入所、生活訓練、就労移行支援、就労継続支援A型・B型、共同生活援助（グループホーム）、市役所、精神科クリニック、精神科訪問看護ステーション</p>
7回目 第4章 関係のなかの人間	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護の基本となる人間関係についてシステム論の観点を理解できる 2. 家族のコミュニケーションや家族の役割について理解できる 3. 人の成長と回復にとっての集団の役割と意味を考えることができる

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
8回目 第5章 精神を病むこと生きること	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神を病むという体験について考えることができる 2. 精神症状のとらえ方を理解することができる 3. ストレス脆弱性と精神科リハビリテーションについて理解することができる
9回目 第7章 社会のなかの精神障害	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神疾患・障害の歴史的な流れを理解することができる 2. 精神保健医療における倫理を理解することができる
10回目 第7章 社会のなかの精神障害	<p>10回目の続き</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 精神科看護師として知っておくべき法制度を理解することができる

2026年度

精神疾病論

曜日・時限		配当学年	2学年	期区分		単位数	1単位	授業方法	講義
開講学科等	看護学科3年課程								
教員名	橋本 衛、柳 雅也、佐久田 静、山形 祥礼								

科目の目標

1. 精神看護における看護師の目標や役割、倫理を学び、看護の特徴が理解できる。
2. 基本的な精神症候の特徴、病態を理解する。
3. 統合失調症、気分障害、摂食障害、神経症、認知症、発達障害などの一般的な精神疾患の病態、症状、治療を学び、説明することができる。
4. 精神を病む人のこころを知る。
5. 精神を病む人に寄り添うことができる。

関連教科

特になし

時間外学習（予習・復習・課題）

事前に配布したレジメを用いて、講義内容の予習ならびに復習する。

オフィスアワー

講義担当者によって異なりますので、質問がある際には医学部精神科医局（内線3283）に適宜問い合わせてください。

成績評価方法・基準

評価項目	割合
最終試験評価	

テキスト

新体系看護学全書 精神看護学② 精神障害をもつ人のメヂカルフレンド社

参考文献

現代臨床精神医学
金原出版株式会社

参考URL

特記事項

出席は評価に反映されますので注意してください。

①実務経験のある教員による科目（本務先）

橋本 衛
近畿大学医学部 精神神経科学教室

①実務経験のある教員による科目（専門領域）

精神科（老年精神医学）

②実務経験のある教員による科目（本務先）

柳 雅也
近畿大学医学部 精神神経科学教室

②実務経験のある教員による科目（専門領域）

精神科（統合失調症）

③実務経験のある教員による科目（本務先）

佐久田 静
近畿大学医学部 精神神経科学教室

③実務経験のある教員による科目（専門領域）

精神科（児童青年期精神医学）

④実務経験のある教員による科目（本務先）

山形祥礼
近畿大学医学部 精神神経科学教室

④実務経験のある教員による科目（専門領域）

精神科（児童青年期精神医学）

⑤実務経験のある教員による科目（本務先）

⑤実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑥実務経験のある教員による科目（本務先）

⑥実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑦実務経験のある教員による科目（本務先）

⑦実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑧実務経験のある教員による科目（本務先）

⑧実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑨実務経験のある教員による科目（本務先）

⑨実務経験のある教員による科目（専門領域）

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
4月13日第1時限（担当：橋本）	<p>精神科概論</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 精神疾患の定義、分類、原因、症候、診断体系について概説します。 2. 精神障害に対する歴史的な理解と偏見について概説します。 3. 精神保健福祉法について概説します。 4. 精神医学的面接方法と精神医療の目的について概説します。
4月20日第1時限（担当：橋本）	<p>気分障害</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. うつ病、双極性障害の疫学について説明します 2. うつ病、双極性障害の症状と病態について説明します 3. うつ病、双極性障害の診断と治療について説明します 4. うつ病、双極性障害の患者さんの関わり方のポイントやケアについて説明します
5月1日第1時限（担当：山形）	<p>神経症・ストレス関連</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 精神疾患の分類や神経症性障害の概念について説明します。 2. 防衛機制について説明します。 3. 代表的な神経症性障害の疾患（不安症、パニック症、強迫症など）の疾患概念、症状について説明します。 4. 代表的な心的外傷およびストレス因関連障害群（急性ストレス反応、PTSDなど）、解離症の疾患概念、症状について説明します。 5. 神経症性障害、心的外傷およびストレス因関連障害群、解離症の治療について説明します。
5月12日第4時限（担当：柳）	<p>統合失調症</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 統合失調症の疾患概念と歴史について説明します。 2. 統合失調症の症状と診断について説明します。 3. 統合失調症の治療と援助について説明します。
5月18日第1時限（担当：佐久田）	<p>パーソナリティ障害/摂食障害</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. パーソナリティ障害の分類について説明します。 2. 境界性パーソナリティ障害の発症仮説、精神症状について説明します。 3. 境界性パーソナリティ障害の治療について説明します。 4. 摂食障害の疫学、発症要因、精神症状、合併症について説明します。 5. 摂食障害の治療、経過、予後について説明します。
6月4日第1時限（担当：橋本）	<p>児童・青年期精神医学</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 総論として、正常な成長・発達の過程、心理検査についての説明をします。 2. 各論として、自閉スペクトラム症、注意欠損多動性障害などについての病態及び治療・援助について説明をします。
5月27日第1時限（担当：山形）	<p>老年精神医学</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者の心理について説明します。 2. 老年期に生じやすい疾患（うつ病、遅発パラフレニー、せん妄、認知症）について説明します。 3. 認知症の定義、症状、分類、神経基盤について説明します。 4. 認知症の治療とケアについて説明します。 5. 認知症患者の心理について説明します。
6月4日第1時限（担当：橋本）	<p>精神疾患の治療法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 精神療法について説明します。 2. 向精神薬の種類と作用、副作用について説明します。 3. 向精神薬の適応とその実際について説明します。 4. 精神保健福祉法に基づいた入院形態とその運用について説明します。

2026年度

精神看護学援助論 I

曜日・時限		配当学年	2学年	期区分		単位数	1単位	授業方法	講義
開講学科等	看護学科3年課程								
教員名	菊地 美鈴、田邊 友也、宮川 香子、谷本 裕太、矢守 麻里、樋口 頼良、藤原 和久、山下 眞紀								

科目の目標

1. こころのバランスをくずしている人や精神に障がいをもつ人の家族との関わりや支援方法について理解することができる。

関連教科

コミュニケーション技法、心理学、人間関係論、精神看護学総論、精神疾病論

時間外学習（予習・復習・課題）

講義に関連する資料を集めファイリングしましょう。

オフィスアワー

成績評価方法・基準

評価項目	割合
提出物・授業への参加	
筆記試験・提出物（授業内に提出物が提出物点として加点されることがあります）	

テキスト

系統看護学講座 専門Ⅱ 精神看護の基礎①

医学書院

系統看護学講座 専門Ⅱ 精神看護の展開②

医学書院

精神看護学 学生 - 患者のストーリーで綴る実習展開 第3版 田中美恵子編著

医歯薬出版株式会社

参考文献

リカバリー・退院指導・地域連携のためのストレスモデル実践活用術

医学書院

参考URL

特記事項

臨床の第一線でご活躍されている先生方の講義を受けることができる貴重な機会ですので、授業時間を大切に積極的に授業に参加しましょう。

①実務経験のある教員による科目（本務先）

菊地美鈴
近畿大学附属看護専門学校

①実務経験のある教員による科目（専門領域）

精神看護学

②実務経験のある教員による科目（本務先）

藤原 和久
社会医療法人杏和会阪南病院

②実務経験のある教員による科目（専門領域）

精神科認定看護師

③実務経験のある教員による科目（本務先）

山下 眞希
社会医療法人杏和会阪南病院

③実務経験のある教員による科目（専門領域）

精神科認定看護師

④実務経験のある教員による科目（本務先）

林 良太
関西医科大学リハビリテーション学部作業療法学科

④実務経験のある教員による科目（専門領域）

精神科作業療法

⑤実務経験のある教員による科目（本務先）

田邊 友也
特定非営利活動法人精神医療サポートセンター 訪問看護ステーションいしずえ

⑤実務経験のある教員による科目（専門領域）

精神科認定看護師、精神看護専門看護師

⑥実務経験のある教員による科目（本務先）

北野 紀一郎
就労継続支援B型事業所 シング

⑥実務経験のある教員による科目（専門領域）

障害福祉

⑦実務経験のある教員による科目（本務先）

宮川 香子
特定非営利活動法人精神医療サポートセンター 訪問看護ステーションいしずえ

⑦実務経験のある教員による科目（専門領域）

精神看護、訪問看護

⑧実務経験のある教員による科目（本務先）

樋口頼良
堺市立総合医療センター

⑧実務経験のある教員による科目（専門領域）

リエゾン精神看護専門看護師

⑨実務経験のある教員による科目（本務先）

矢守 麻里

⑨実務経験のある教員による科目（専門領域）

精神看護専門看護師、訪問看護

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
1・2回目	第8章 精神障がいをもつ人への看護援助の展開 担当：菊地 1. 精神障がいとはなにかを考えることができる 1. 精神障がいをもつ人への看護援助の基本構造を理解することができる 2. 精神障がいをもつ人へのセルフケア援助のあり方の意味を理解することができる 3. 各発達段階であらわれやすい精神障害・心的不調、主な症状と看護を理解することができる
3回目	5章 疾患別看護 担当：高島先生 1. 統合失調症 主な症状と看護を理解することができる
4回目	5章 疾患別看護 担当：高島先生 1. 気分（感情）障害 主な症状と看護を理解することができる
5回目	5章 疾患別看護 担当：菊地 1. 神経症障害、ストレス関連障害および身体表現性障害 主な症状と看護を理解することができる
6回目	5章・7章 疾患別看護 担当：谷本先生 1. 精神作用物質使用による精神および行動の障害 主な症状と看護を理解することができる 1) 離脱症状アセスメント、離脱後社会資源活用、共依存防止を理解することができる 2. 依存症対策（7章）について理解することができる
7回目	4章・5章・10章 疾患別看護 担当：谷本先生 1. 精神作用物質使用による精神および行動の障害 主な症状と看護を理解することができる 1) アルコール症がある人の看護を理解することができる 2) 治療へのグループ活用について理解することができる （5章p201 - 207）・4章p121 - 128）について理解することができる
8・9回目	2章 心的外傷（トラウマ）と回復 担当：田邊先生、宮川先生 1. トラウマインフォームド・ケアについて理解することができる 6章 薬物療法 1. 精神科薬物療法について理解することができる

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
------	------

10回目	<p>第10章 地域におけるケアと支援 担当：矢守先生</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域における生活支援の方法について理解することができる 2. 地域におけるケアの方法と実際について理解することができる
11・12回目	<p>11章 入院治療の意味 担当：樋口先生</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 精神科受診から精神科病院での入院までのケアを理解することができる 2. 精神科病棟での入院生活を支え方を理解することができる 3. 入院中の観察とアセスメントを理解することができる 4. 退院にむけての支援と実際を理解することができる
13回目	<p>第13章 安全をまもる 担当：藤原先生</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 患者の安全をまもるためのリスクマネジメントについて理解することができる 1) 安全の条件について理解することができる 2) リスクマネジメントと行動制限について理解することができる (13章・7章) 3) 拘束体験を通して、看護について考えることができる
14回目	<p>13章 安全を守る 担当：藤原先生</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 緊急事態に対処する方法を理解する 1) 自殺のリスクマネジメントについて理解することができる 2) 暴力のリスクマネジメントについて理解することができる 3) 離院の防止対策について理解することができる
15回目	<p>12章 身体をケアする 担当：山下先生</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 精神科における身体のケアについて理解することができる 2. 身体を通じた看護ケアの実際について理解することができる 3. 身体合併症のアセスメントについて理解することができる
16回	<p>12章 身体をケアする 担当：山下先生</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 治療に伴う身体のケアについて理解することができる 1) 薬物療法を受ける患者のケアについて理解することができる 2) 電気けいれん療法を受ける患者のケアについて理解することができる (6章・12章)
17回目	<p>14章 医療の場におけるメンタルヘルスと看護 担当：頼友先生</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 身体疾患をもつ患者のメンタルヘルスを理解することができる 2. リエゾン精神看護とその活動について理解できる 3. 身体疾患病院での自殺対策

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
18回目	6章 精神科での治療 担当：林先生 1. 環境療法・社会療法について理解することができる 1) 作業療法 2) 精神科リハビリテーション
19回目	第10章 地域を支えるシステムと社会資源 担当：北野先生 1. 障害者総合支援法による福祉サービスについて理解することができる 1) 相談支援、障害福祉サービスについて理解することができる 2) 地域で生活する人に必要な支援について理解することができる
20回目	15章・16章 担当：菊地 1. 災害時のメンタルヘルスと看護について理解することができる 2. 看護師のメンタルヘルスについて理解することができる
21回	終講試験

2026年度

文化人類学

曜日・時限		配当学年	1学年	期区分		単位数	1単位	授業方法	講義
開講学科等	看護学科3年課程								
教員名	松尾 香奈								

科目の目標

世界には様々な文化があり、多様なものの見方や考え方があることを理解する。そして、それらのうち特定のものが進んでいたり、正しいというわけではないことを理解したうえで、人の営みの多様性や多層性について身近なことがらと照らし合わせながら考える。特に現代社会における文化の諸相について理解を深め、複眼的な視点と相対化の思考を身につける。

関連教科

論理的思考 社会学

時間外学習（予習・復習・課題）

講義の内容を、講義の中だけで終わらせるのではなく、日常生活での様々な経験や出来事と関連させて考える。

オフィスアワー

講義終了後

成績評価方法・基準

評価項目	割合
テスト	
出席および参加姿勢、講義内の課題	

テキスト

系統看護学講座 基礎 文化人類学
医学書院 著）波平恵美子編

参考文献

講義時間内に適宜指示する。

参考URL

特記事項

障害や難病により、合理的配慮を必要とする者は、事務室をとおして講師に連絡すること。なお、このとき、障害者手帳や特定医療費（指定難病）受給者証の所有有無は問わない。

①実務経験のある教員による科目（本務先）
京都大学大学院 人間・環境学研究科

①実務経験のある教員による科目（専門領域）
人間・環境学

②実務経験のある教員による科目（本務先）

②実務経験のある教員による科目（専門領域）

③実務経験のある教員による科目（本務先）

③実務経験のある教員による科目（専門領域）

④実務経験のある教員による科目（本務先）

④実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑤実務経験のある教員による科目（本務先）

⑤実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑥実務経験のある教員による科目（本務先）

⑥実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑦実務経験のある教員による科目（本務先）

⑦実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑧実務経験のある教員による科目（本務先）

⑧実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑨実務経験のある教員による科目（本務先）

⑨実務経験のある教員による科目（専門領域）

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
1コマ目	<p>イントロダクション・文化人類学とは</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間にとって文化とは何か考え、理解する。 ・文化の諸相（モノの多様性、文化の普遍性と多様性）について理解する。 ・文化人類学の有用性について理解する。 ・文化人類学の思考を通じて自身の興味関心を見つける。
2コマ目	<p>贈与・互酬性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・贈る／もらう行為の意味について考える。 ・3種類の互酬性について理解する。 ・贈与交換から人間関係や社会の仕組みを考える。
3コマ目	<p>人生・通過儀礼、宗教</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通過儀礼と境界理論について理解する。 ・儀礼の構造について理解する。 ・ライフサイクルにおける身近な通過儀礼について考える。
4コマ目	<p>宗教</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宗教の多様性について知る。 ・イスラームと食の禁忌について知る。食品の成分表や、医薬品・物品の成分を確認することで、ハラール／ハラームを自分で判断する能力を身につける。 ・イスラームと衣服、医療について知る。
5コマ目	<p>セクシュアリティ・ジェンダー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジェンダー／セックス／セクシュアリティの区別について理解する。 ・セクシュアリティの多様性について理解する。
6コマ目	<p>セクシュアリティ、家族</p> <ul style="list-style-type: none"> ・核家族以外の家族形態の多様性について理解する。 ・セクシュアル・マイノリティと医療の関係について学び、看護について考える。
7コマ目	<p>医療と文化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身体観、病気観の多様性を理解する。 ・患者による「語り」を知る。 ・病気と健康、医療をとりまく状況と、そこにおける病気の見方や経験のあり方が、時代や社会、文化によって多様であることを理解する。

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
8コマ目	医療人類学と民族誌 ・さまざまなフィールドにおける医療人類学の民族誌について知る。

2026年度

精神看護学援助論Ⅱ

曜日・時限		配当学年	2学年	期区分		単位数	1単位	授業方法	講義
開講学科等	看護学科3年課程								
教員名	菊地 美鈴、中川 玲子								

科目の目標

対象との関わりの場面や演習を通して自己を見つめ、実際の看護に必要な援助の方法や考え方を学ぶ。また、精神看護における看護過程の展開の方法を学ぶ。

関連教科

精神看護学総論、精神看護学援助論Ⅰ、心理学、人間関係論、コミュニケーション技法

時間外学習（予習・復習・課題）

自己の体験を言語化する機会が多いです。また、看護過程の展開では、事例から情報を振り分け、アセスメントします。慣れないことで難しいと思いますが、体験記などを読むとイメージしやすくなると思います。配慮が必要なことがあればお知らせください。

オフィスアワー

成績評価方法・基準

評価項目	割合
授業プリントへの記載内容、提出課題	

テキスト

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の展開 精神看護学②

医学書院

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護学①

医学書院

精神看護学 学生 - 患者のストーリーで綴る実習展開 第3版 田中美恵子 編著

医歯薬出版株式会社

参考文献

リカバリー・退院支援・地域連携のためのストレスモデル実践活用術

医学書院

マンガでわかる！統合失調症 中村ユキ

日本評論社

今日もテレビは私の噂話ばかりだし、空には不気味な赤い星が浮かんでる ～統合失調症の私から世界はこ

KADOKAWA

参考URL

特記事項

①実務経験のある教員による科目（本務先）

近畿大学附属看護専門学校

①実務経験のある教員による科目（専門領域）

精神科看護、心臓血管外科看護
精神看護学、成人看護学

②実務経験のある教員による科目（本務先）

NPO法人タッチケアケア支援センター
中川玲子

②実務経験のある教員による科目（専門領域）

タッチケア

③実務経験のある教員による科目（本務先）

③実務経験のある教員による科目（専門領域）

④実務経験のある教員による科目（本務先）

④実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑤実務経験のある教員による科目（本務先）

⑤実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑥実務経験のある教員による科目（本務先）

⑥実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑦実務経験のある教員による科目（本務先）

⑦実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑧実務経験のある教員による科目（本務先）

⑧実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑨実務経験のある教員による科目（本務先）

⑨実務経験のある教員による科目（専門領域）

授業計画（回数任意科目）

授業回数	授業内容
1回目 精神看護の目的・回復を支援する	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神看護学実践の目的を理解することができる 2. 精神看護学の技術と技法を理解することができる 3. リカバリーについて理解することができる 9章 4. ストレングスモデルの基本について理解することができる 10章 5. ストレングスモデル実践活用方法について理解し、記載することができる
2回目 回復を支援する	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会生活技能トレーニング（SST）の基本について理解することができる 2. 認知行動療法の基本について理解することができる みつめ直し日記、当事者研究
3回目 回復を支援する	<ol style="list-style-type: none"> 1. 心理教育の基本について理解することができる 10章 2. 元気回復行動プラン（WRAP）の基本的考え方を理解することができる ・ 自分自身のWRAPを作成することができる
4回目 回復を支援する 中川れい子	<ol style="list-style-type: none"> 1. 基本のタッチケアの理論 <ol style="list-style-type: none"> 1) 自律神経系やオキシトシンの理論 2) マインドフルネス セルフタッチングのワーク 肩・背中に触れるタッチケア
5回目 回復を支援する 第9章	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自己を振り返り、関係性をアセスメントする方法を理解することができる 2. プロセスレコードを活用方法を理解することができる 3. プロセスレコードを用いて場面を記載し振り返ることができる
6回目 セルフケア理論	<ol style="list-style-type: none"> 1. セルフケア理論の基本的考え方について理解することができる 精神看護学 第3版 医歯薬出版株式会社 p39 <ol style="list-style-type: none"> 1) オレム看護理論について理解することができる 2) オレム - アンダーウッド看護理論について理解することができる 3) 精神看護学実習記録への記載方法を理解することができる
7回目 事例を読み、対象の思い、疾患の特徴、症状の経過についてイメージすることができる	<ol style="list-style-type: none"> 1. 事例を読み、対象の思い、疾患の特徴、症状の経過についてイメージすることができる

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
<small>08目 事例を用いた看護過程の構築（状況理解を深めることができる）</small>	1. 対象をイメージしながら生活歴をアセスメントすることができる
<small>9回目 家族への支援 4章・6章</small>	1. 家族療法 4章 6章 1) 家族心理教育の基本について理解することができる 2) 事例患者さんご家族に必要な支援を考えることができる
<small>10回目 事例を用いた看護過程 N03</small>	1. 精神機能の働きとアセスメント 1) 観察の視点を理解することができる 2) 精神機能のアセスメントができる
<small>11回目 事例を用いた看護過程 N03</small>	1. 対象の精神機能を記載することができる 2. 精神機能のアセスメントを記載することができる
<small>12回目 事例を用いた看護過程 N03</small>	1. 現在と過去のセルフケアの状態を記載することができる 2. セルフケアの状態をアセスメントすることができる 3. セルフケアレベルを記載することができる
<small>13回目 看護過程 N03</small>	1. 必要な支援（本人・家族）について考えることができる 2. 対象の希望や現在の状態をふまえた、看護の方向性を記載することができる 3. 情報とアセスメントしたことをふまえて、全体像を記載することができる
<small>14回目 看護過程（N05）</small>	1. 対象の状態と個性をふまえた看護計画の立案ができる
<small>14回目 看護過程（N05）</small>	1. 計画の追加・修正、患者目標達成度評価を記載方法がわかる（N05） 2. まとめ

2026年度

看護マネジメント論

曜日・時限		配当学年	2学年	期区分		単位数	1単位	授業方法	講義
開講学科等	看護学科3年課程								
教員名	田上 晶子、奥田 裕紀子、加戸 聖美								

科目の目標

社会のニーズに応える看護を提供するために、看護管理の概念およびマネジメントの基礎的知識を学ぶ。またチーム医療においてリーダーシップ、フォロワーシップなど多職種連携に必要な知識や技術を学ぶ。さらにキャリア開発について学び、自己のキャリア形成について考えることができる。

関連教科

文化人類学、社会学、健康科学、公衆衛生学、看護学入門、看護理論、看護過程方法論
成人看護学総論、老年看護学総論、小児看護学総論Ⅰ、小児看護学総論Ⅱ、母性看護学総論、精神看護学総論、地域・在宅看護学総論Ⅰ、地域・在宅看護学総論Ⅱ

時間外学習（予習・復習・課題）

オフィスアワー

授業終了後

成績評価方法・基準

評価項目	割合
終講試験	
演習レポート・演習参加姿勢・課題提出等	

テキスト

系統看護学講座 統合分野 看護管理 看護の統合と実践
医学書院

参考文献

参考URL

特記事項

演習や医学部生とのグループワークを予定しています。積極的に参加してください。

①実務経験のある教員による科目（本務先）

田上 晶子
近畿大学附属看護専門学校

①実務経験のある教員による科目（専門領域）

基礎看護学、小児看護学

②実務経験のある教員による科目（本務先）

奥田裕紀子
近畿大学附属看護専門学校

②実務経験のある教員による科目（専門領域）

アドバンス助産師
母性看護学、基礎看護学、助産技術・診断学、助産管理

③実務経験のある教員による科目（本務先）

加戸聖美
近畿大学病院 看護部管理室

③実務経験のある教員による科目（専門領域）

看護管理

④実務経験のある教員による科目（本務先）

④実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑤実務経験のある教員による科目（本務先）

⑤実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑥実務経験のある教員による科目（本務先）

⑥実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑦実務経験のある教員による科目（本務先）

⑦実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑧実務経験のある教員による科目（本務先）

⑧実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑨実務経験のある教員による科目（本務先）

⑨実務経験のある教員による科目（専門領域）

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
1コマ目（田上晶子）	<p>看護におけるマネジメント 看護管理の定義や基本的要素、マネジメントの考え方を知り、なぜ看護管理を学ぶのかを考えることができる。</p>
2コマ目（田上晶子）	<p>看護ケアのマネジメント 看護ケアにおけるマネジメントについて理解し、看護ケアのマネジメントを行ううえでの基本的な考え方がわかる。 （患者の権利の尊重、安全管理、チーム医療、看護業務の実践）</p>
3コマ目（奥田裕紀子）	<p>看護サービスマネジメントは何かを理解できる。 看護方式の種類について理解できる。 1）看護の対象やPDCAサイクルについて説明できる。 2）看護方式の種類と内容について知る。</p>
4～5コマ目（奥田裕紀子）	<p>看護サービスと経済の仕組みについて理解できる。 1）人的資源のマネジメントが説明できる。 2）物的資源のマネジメントが説明できる。 3）組織におけるリスクマネジメントが説明できる。 4）医療サービスの質評価が説明できる。</p>
6コマ目（加戸聖美・田上晶子）	<p>適切な医療・看護サービスを提供するためのチーム医療や組織作りについての実際がわかる。 1）組織とはどのようなものであるかを知り、組織のシステムについて述べることができる。 2）看護部組織と看護職員に配置について説明することができる。</p>
7・8・9コマ目（田上晶子）	<p>マネジメントに必要な知識と技術 組織の一員として行動し、よりよい看護を提供するために必要な知識と技術を学び、実践できる。 （リーダーシップとフォロワーシップ、アサーティブネス、動機づけなど）</p>
10・11・12コマ目（田上晶子）	<p>看護職のキャリアマネジメント 看護職としてのキャリア形成について学び、自身の将来について考えることができる。 10コマ目；キャリア形成とは何かを知る。 11コマ目；ゲストスピーカーによるキャリア形成の実際を聞き、自己のキャリア形成についてのイメージができる。 12コマ目；自己のキャリアプランに役立つ情報収集を行い、他者と共有できる。</p>

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
13・14・15コマ目（田上美子・奥田裕紀子）	<p>チーム医療と多職種連携・協働 医療チームメンバーとしての意見交換を協調的に行うとともに、多様な見方や考え方を知ることができる。</p> <p>13コマ目；チーム医療、他職種連携についての基本的な考え方がわかる。（医学部連携教育プログラムガイダンスを含む）</p> <p>14・15コマ目；医学部生と事例を通して患者への援助を考え、看護職としての責任と役割について考えることができる。</p>

2026年度

災害看護と国際協力

曜日・時限		配当学年	2学年	期区分		単位数	1単位	授業方法	講義
開講学科等	看護学科3年課程								
教員名	椎原 由美子、中田 敬司、水谷 和郎、植嶋 利文、溝畑 智子、西 有未、玉城 飛翔、中西 由貴								

科目の目標

災害の特徴、災害医療および看護の基本を理解するとともに、災害各期の看護に必要な知識を学ぶ。学内演習を通して、急性期の救助活動に必要な基本的な救助技術を習得する。
また、大勢の人の生命と暮らしを脅かす紛争や災害および世界における新たな健康問題の現状と国際協力の仕組みについて理解し、異なった文化や社会における問題を解決していく必要性を学ぶ。

関連教科

<災害看護>
公衆衛生学、共通基本技術論Ⅱ、急性期看護
<国際協力>
文化人類学、社会学、健康科学、公衆衛生学、看護学入門、成人看護学総論、老年看護学総論、小児看護学総論、母性看護学総論、精神看護学総論、地域・在宅看護総論

時間外学習（予習・復習・課題）

<災害看護>
1. 災害サイクルと看護についてのレポート・・・2年次4月に配布、2コマ目終了時に提出して下さい。
<国際協力>
1. 新聞やテレビのニュースなどを通して、世界で起こっていることに関心をもっておいてください。

オフィスアワー

授業終了後または、月～金曜日 8:30～17:30
※上記以外の時間および外部講師に関する相談は教務に申し出てください。

成績評価方法・基準

評価項目	割合
災害看護：終講試験、出席・提出物・演習・グループワークの内容も含む総合評価国際協力：終講試験	

テキスト

系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践3 災害看護学
医学書院

参考文献

いのちとこころを救う災害看護
学研メディカル

参考URL

授業時にお知らせします。

特記事項

<災害看護>
15・16コマ目に災害演習が入ります。詳細については、事前に説明します。
講義内容をしっかりと復習し、積極的に行動してください。
<国際協力>
グループワークを設定しています。
グループワークはグループで取り組むものですので、積極的に参加してください。

①実務経験のある教員による科目（本務先）

椎原由美子
近畿大学附属看護専門学校

①実務経験のある教員による科目（専門領域）

臨床経験；救急看護、呼吸器内科看護
教員経験；在宅看護論、基礎看護学

②実務経験のある教員による科目（本務先）

中田 敬司
神戸学院大学

②実務経験のある教員による科目（専門領域）

救急医学

③実務経験のある教員による科目（本務先）

水谷 和郎
六甲アイランド甲南病院

③実務経験のある教員による科目（専門領域）

救急医学

④実務経験のある教員による科目（本務先）

植島 利文
近畿大学病院

④実務経験のある教員による科目（専門領域）

救急医学

⑤実務経験のある教員による科目（本務先）

西 有未
近畿大学病院 看護部

⑤実務経験のある教員による科目（専門領域）

救急看護

⑥実務経験のある教員による科目（本務先）

中西 由貴
近畿大学病院 看護部

⑥実務経験のある教員による科目（専門領域）

救急看護

⑦実務経験のある教員による科目（本務先）

玉城 飛翔
近畿大学病院 看護部

⑦実務経験のある教員による科目（専門領域）

救急看護

⑧実務経験のある教員による科目（本務先）

太田 泉
近畿大学病院 看護部

⑧実務経験のある教員による科目（専門領域）

慢性心不全看護認定看護師

⑨実務経験のある教員による科目（本務先）

溝畑 智子
金沢大学 医薬保健研究域 保健学系

⑨実務経験のある教員による科目（専門領域）

国際保健、国際看護、地域看護、在宅看護

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
1・2回	<p>【災害看護①②（椎原）】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 災害の定義、災害の歴史について述べるができる。 2. 災害の種類、疾病構造、災害サイクル（概要）について述べるができる。
3・4回	<p>【災害看護③④（中田先生）】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 災害サイクルの特徴（詳細）・災害関連死、災害における関連について述べるができる。 2. 災害に関する法律・制度について述べるができる。 3. 災害時のCSCATTTを述べるができる。 4. 災害時のボランティア活動について述べるができる。
5・6回	<p>【災害看護⑤⑥（水谷先生）】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 阪神・淡路大震災の実際を知り、医療者としての行動を考えることができる。 2. 被災者および援助者の思いを知り、災害に関連したところのケアを考えることができる。
7回	<p>【災害看護⑦（植嶋先生）】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 災害時の医療活動に必要な情報体制、通信手段・通信方法について述べるができる。 2. 災害時の関係各機関の支援体制（国内外）・活動と連携について述べるができる。
8回	<p>【災害看護⑧（椎原）】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 災害サイクル各期における看護活動（在宅療養・避難所・応急仮設住宅・災害公営住宅における看護）について述べるができる。
9回	<p>【災害看護⑨（西先生）】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 病院における災害への備え・初動体制について述べるができる。 2. 救急医療・看護、ショックの分類について述べるができる。
10・11回	<p>【災害看護⑩⑪（中西先生）】</p> <p>災害時に必要な技術①（講義） ※クラス別</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. トリアージ、外傷患者の応急処置（治療）、搬送について述べるができる。

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
12回	<p>【災害看護⑫（椎原）】 災害時に必要な技術②（講義・演習） ※クラス別 1. BLS（一次救命処置）について述べるができる。 2. モデル人形を使用してBLSを体験することができる。</p>
13回	<p>【災害看護⑬（椎原）】 災害時に必要な技術③（技術練習） クラス別 1. 災害時に必要な技術練習（止血方法、創傷処置）を体験する。</p>
14回	<p>【災害看護⑭（椎原）】 災害時に必要な技術④（技術練習） ※クラス別 1. 災害時に必要な技術練習（トリアージ、搬送）を実施する。</p>
15・16回	<p>【災害看護⑮⑯（玉城・中西・太田先生、椎原）】 災害時に必要な技術⑤（演習） ※クラス別 1. 災害時に必要な技術演習（1次トリアージ：もぎり・カラーの根拠・装着、搬送の優先順位の設定、搬送、搬送後の複写の回収と集計、報告）を体験する。</p>
17回	<p>【国際協力①（溝畑先生）】 世界の健康課題に対する取り組みと看護職の役割 <授業目標> ① 本科目で学ぶ全体像（目標、概要など）を知る。 ② 地球規模で人々の健康を考えることの必要性を知り、自分なりに考えることができる。</p>
18回	<p>【国際協力②（溝畑先生）】 国際看護活動の基盤となる考え方 国際保健・国際看護、国際協力の実際 <授業目標> ① 国際看護活動の基盤となる考え方を知る。 ② 海外での活動事例を通して、看護職としてできることを考えることができる。</p>
19回	<p>【国際協力③（溝畑先生）】 移民の健康①～移動と人々の健康 <授業目標> ① 世界での人々の移動の現状とその背景について知ることができる。 ② 健康の社会的決定要因について知ることができる。 ③ 人々の健康に及ぼす影響を知り、看護職としてできることを考えることができる。</p>

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
20回	【国際協力①（溝畑先生）】 移民の健康②～日本に暮らす外国人を通して <授業目標> ① 国際看護の身近な活動対象である日本に住む外国人（在留外国人）の存在と背景について知る。 ② 在留外国人の健康支援の取り組みを知る。 ③ 在留外国人の健康課題を知り、必要な健康支援について考えることができる。

2026年度

医療安全 I

曜日・時限		配当学年	2学年	期区分		単位数	1単位	授業方法	講義
開講学科等	看護学科3年課程								
教員名	菊地 美鈴、武本 智樹								

科目の目標

医療事故の基本的知識を学び、安全の重要性を理解できる

関連教科

心理学、コミュニケーション技法、基礎看護学

時間外学習（予習・復習・課題）

日頃より、患者の安全をどのように守るか、医療安全に関するニュースに関心を持ち、講義に臨みましょう。また、実習中に起こしやすい代表的な事故の場面をもとに、どのようにすると予防できるか考えましょう。

オフィスアワー

成績評価方法・基準

評価項目	割合
筆試験	
提出物、グループワーク参加度、発表会参加度	

テキスト

医療安全 多職種でつくる患者安全をめざして
南江堂

系統看護学講座 専門 医療安全 看護の統合と実践2
医学書院

参考文献

ソーリー・ワークス！

医学書院

ナースのための危険予知トレーニングテキスト
メディカ出版

参考URL

特記事項

5回の授業後に筆記試験があります。7回目と8回目が連続授業になるため、体調や時間管理を行い積極的に講義に参加してください。講義において配慮が必要なことがありましたら、事前にお伝えください。

①実務経験のある教員による科目（本務先）

武本 智樹
近畿大学病院

①実務経験のある教員による科目（専門領域）

医療安全、呼吸器外科

②実務経験のある教員による科目（本務先）

菊地 美鈴
近畿大学附属看護専門学校

②実務経験のある教員による科目（専門領域）

精神看護学

③実務経験のある教員による科目（本務先）

③実務経験のある教員による科目（専門領域）

④実務経験のある教員による科目（本務先）

④実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑤実務経験のある教員による科目（本務先）

⑤実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑥実務経験のある教員による科目（本務先）

⑥実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑦実務経験のある教員による科目（本務先）

⑦実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑧実務経験のある教員による科目（本務先）

⑧実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑨実務経験のある教員による科目（本務先）

⑨実務経験のある教員による科目（専門領域）

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
1回目 武本智樹	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療安全の歴史について述べるができる 2. 医療安全の用語について述べるができる 3. インシデント・アクシデント報告の意義について述べるができる
2回目 武本智樹	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療安全におけるヒューマンエラー（人的要因）について述べるができる 2. ヒューマンエラー（人的要因）の対策を述べるができる
3回目 武本智樹	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療安全とその対策について理解することができる 2. Sorry Works：ソーリーワークス/共感の表明・情報開示・謝罪のプログラムについて理解できる
4回目 菊地美鈴	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護事故防止の考え方について理解できる 2. 看護場面で起きやすい事故について考えることができる
5回目 菊地美鈴	<ol style="list-style-type: none"> 1. 危険予知力を高めるKYT基礎4ラウンド法について理解することができる 2. 2事例をグループで、KYT基礎4ラウンド法を実施することができる
6回目 菊地美鈴	
筆記試験	<ol style="list-style-type: none"> 1. 事例場面、基礎看護学実習Ⅲの場面を通して、医療における安全について考え、自己の課題を明確にできる <ol style="list-style-type: none"> 1) 基礎看護学実習Ⅲでの各自の事例をイラストにし、個人でKYTを実施することができる 2) 基礎看護学実習Ⅲグループメンバーの事例でKYTを実施することができる 2. 基礎看護学実習Ⅲグループで、課題事例をKYT実施し課題を抽出することができる <ol style="list-style-type: none"> 1) 3つの事例をKYT基礎4ラウンド法を実施し、課題を抽出することができる
6回目 菊地美鈴	<ol style="list-style-type: none"> 1. グループ事例、課題事例について、発表準備を行う。 2. 発表（基礎Ⅲでの事例/課題事例）

2026年度

医療安全Ⅱ

曜日・時限		配当学年	3学年	期区分		単位数	1単位	授業方法	講義
開講学科等	看護学科3年課程								
教員名	中谷 能子、山下 久美子、武本 智樹								

科目の目標

対象者と医療者側に潜む看護・医療事故の危険因子を総合的に判断し、事故を防止するための方法が理解できる。
医療現場における倫理的判断の必要性が理解できる。

関連教科

医療安全Ⅰ、基礎看護学技術論Ⅰ～Ⅵ、各論実習、小児看護学方法論Ⅰ－Ⅱ

時間外学習（予習・復習・課題）

関連教科に挙げた科目で学んだことを復習し、講義に臨むこと

オフィスアワー

成績評価方法・基準

評価項目	割合
終講試験（外部講師分）	
終講試験（内部講師分）	
課題・態度	

テキスト

医療安全 多職種でつくる患者安全をめざして
南江堂

参考文献

危険予知トレーニングテキスト
メディカ出版
医療安全ワークブック
医学書院
RCA実践マニュアル
医学書院（著）石川雅彦

参考URL

特記事項

事故を起こさないよう安全に実習を行うために、学生自身はどのように実習に取り組んだらよいのか考えること。
実習の進み方・講義日程により、6コマ目～13コマ目の順序が変わる可能性があります。

①実務経験のある教員による科目（本務先）

武本 智樹
近畿大学病院

①実務経験のある教員による科目（専門領域）

呼吸器外科

②実務経験のある教員による科目（本務先）

山下 久美子
近畿大学附属看護専門学校

②実務経験のある教員による科目（専門領域）

臨床経験：内科看護（循環器・消化器）、脳神経外科看護、母性看護、小児看護
教員経験：基礎看護学

③実務経験のある教員による科目（本務先）

中谷 能子
近畿大学附属看護専門学校

③実務経験のある教員による科目（専門領域）

臨床経験：産婦人科看護、新生児看護
教員経験：母性看護学、小児看護学、基礎看護学

④実務経験のある教員による科目（本務先）

④実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑤実務経験のある教員による科目（本務先）

⑤実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑥実務経験のある教員による科目（本務先）

⑥実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑦実務経験のある教員による科目（本務先）

⑦実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑧実務経験のある教員による科目（本務先）

⑧実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑨実務経験のある教員による科目（本務先）

⑨実務経験のある教員による科目（専門領域）

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
1・2コマ目	<p>チームSTEPPS：武本</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 他職種間での連携を図る必要性がわかる。 2. チーム内での役割に対して行動できる。
3・4コマ目	<p>根本原因分析法（RCA）：武本</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. RCAの手法がわかる。 2. 事例を用いて分析できる。
5コマ目	<p>看護学生の実習と安全：山下・中谷</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 基礎Ⅱ実習のヒヤリハットを振り返って、看護学生として必要な行動 2. 実習中の医療事故発生時の報告・連絡・相談の方法が理解できる。 3. 2回チャレンジ、CUSなどの手法を用いて報告することができる。 4. 事例に対し個々の学生がSBARを用いて報告することができる。
6・7コマ目	<p>看護における安全対策（看護業務と事故発生要因・患者間違い）：山下・中谷</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習中に起こりうるヒヤリハット。 2. 看護業務の特徴的な環境と潜在する危険因子について。 3. 患者取り違い事故の背景と要因について考えることができる。 4. 患者取り違い事故防止対策について考えることができる。
8・9コマ目	<p>看護における安全対策（誤薬、医療機器・医療用具のトラブル）：中谷・山下</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 与薬事故の原因について考えることができる。 2. 与薬業務のプロセスを理解し、安全に実施できる方法がわかる。 3. 輸液ポンプ・シリンジポンプの取り扱いで、多いトラブルについて知る。 4. 輸液ポンプ・シリンジポンプの安全操作および保守管理について考えることができる。
10・11コマ目	<p>看護における安全対策（皮膚障害、チューブ類のトラブル）：山下・中谷</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 皮膚障害の背景と要因について考えることができる。 2. 皮膚障害発生の予防対策について考えることができる。 3. チューブ類トラブルの要因について考えることができる。 4. チューブ類トラブルの予防対策について考えることができる。
12・13コマ目	<p>看護における安全対策（転倒転落、誤嚥）：中谷・山下</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 転倒転落事故の要因について考えることができる。 2. 転倒転落事故防止対策について考えることができる。 3. 誤嚥の要因について考えることができる。 4. 誤嚥の予防対策について考えることができる。

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
14・15コマ目	組織としての医療安全対策：中谷 1. 組織的な医療安全管理体制の概要について知る。
16コマ目	筆記試験

2026年度

臨床判断 I

曜日・時限		配当学年	2学年	期区分		単位数	1単位	授業方法	講義
開講学科等	看護学科3年課程								
教員名	富森 洋子、武田 ひとみ								

科目の目標

既習の知識を用いて、その場面の状況を把握し、臨床判断するために必要な思考過程を学ぶ。

関連教科

解剖生理学 I II III、疾病論 I II III IV V、ヘルスアセスメント論 I II、共通基本技術論 I II

時間外学習（予習・復習・課題）

課題：最終レポートと一緒に提出となります。
毎回講義・演習時には追加・修正し持参してください。

1. 事前学習

キーワード

- ・発達段階（老年期 女性）
- ・フレイル ・老年症候群 ・骨粗しょう症
- ・大腿骨頸部骨折 ・術前看護 ・高血圧
- ・人工骨頭置換術術前、介達牽引
- ・床上安静、肢位固定、投薬

2. 具体的なスケジュールなどは初回講義時に伝達予定

既習の学習内容を見直し、復習をしておきましょう。

オフィスアワー

月～金 9:00～17:00まで

成績評価方法・基準

評価項目	割合
<small>講義態度、講義中の小テスト・振り返り、演習後のレポート・使用した自己学習など点も含まれます。</small>	
終講試験	

テキスト

系統別看護学講座 専門 I 基礎看護学2 基礎看護技術

医学書院

臨床看護総論

医学書院

看護がみえる3 フィジカルアセスメント

MEDIC MEDIA

看護がみえる4 看護過程の展開

MEDIC MEDIA

参考文献

臨床判断ティーチングメゾット

医学書院

看護学生のための臨床判断

照林社

参考URL

特記事項

①書籍ではありませんが、ナーシングスキルも活用します。

①実務経験のある教員による科目（本務先）

武田 ひとみ
近畿大学附属看護専門学校

①実務経験のある教員による科目（専門領域）

臨床経験；小児看護
教員経験；小児看護学、基礎看護学

②実務経験のある教員による科目（本務先）

富森 洋子
近畿大学附属看護専門学校

②実務経験のある教員による科目（専門領域）

臨床経験；救急看護、内科看護（呼吸器・内分泌代謝・腫瘍・神経内科）、眼科
教員経験；成人看護学

③実務経験のある教員による科目（本務先）

③実務経験のある教員による科目（専門領域）

④実務経験のある教員による科目（本務先）

④実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑤実務経験のある教員による科目（本務先）

⑤実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑥実務経験のある教員による科目（本務先）

⑥実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑦実務経験のある教員による科目（本務先）

⑦実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑧実務経験のある教員による科目（本務先）

⑧実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑨実務経験のある教員による科目（本務先）

⑨実務経験のある教員による科目（専門領域）

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
1回目	臨床判断とは 1. 臨床推論と臨床判断について理解することができる。 2. 看護過程と臨床判断の関連について理解できる。
2・3・4・5回目	臨床の場で遭遇しやすい事例を通して臨床判断過程を思考できる。
6・7回目	演習 臨床の場で遭遇しやすい事例を通して臨床判断過程を思考をもとに体験する。 1. 事例患者の状態を観察することができる。 2. 観察した情報を解釈することができる。 3. 状態観察によって得られた情報について報告することができる。
8回目	リフレクション 1. 演習で体験したことをもとにリフレクションを行う。 2. グループディスカッションを通し、観察やアセスメントの視点を増やすことができる。
9回目	終講試験

2026年度

臨床判断Ⅱ

曜日・時限		配当学年	3学年	期区分		単位数	1単位	授業方法	講義
開講学科等	看護学科3年課程								
教員名	毛野 和代、横山 博美、武田 ひとみ、富森 洋子								

科目の目標

看護実践場面のシミュレーション演習を通して、その場の状況を科学的根拠に基づいて分析し、判断することを実践する基礎的能力を身につけることができる。

関連教科

全ての科目、臨地実習

時間外学習（予習・復習・課題）

事前課題

- 受け持ち患者 狭山 はなさんに関する学習
(classroom提出) Classroomのクラスコード kb5zymv5
期限：4月5日（日）23：59（時間厳守 課題点となります）
- ステーション課題『事前学習』 ペーパーで提出（ファイルに綴じて提出）
期限：4月6日（月）8：50（時間厳守 課題点となります）

※講義中、講義終了後にも提出物あり
(講義の中で詳細は説明します。 課題点となります)

オフィスアワー

成績評価方法・基準

評価項目	割合
看護実践（実技試験）	
提出物・出席状況・受講態度	

テキスト

参考文献

看護がみえる4
メディックメディア

参考URL

特記事項

- 自己学習を持参して受講すること
- 臨地実習と関連させて考えること

①実務経験のある教員による科目（本務先）

横山 博美
近畿大学附属看護専門学校

①実務経験のある教員による科目（専門領域）

臨床経験: 外科看護（循環器外科・呼吸器外科・消化器外科・耳鼻咽喉科）
教員経験: 成人看護学

②実務経験のある教員による科目（本務先）

武田 ひとみ
近畿大学附属看護専門学校

②実務経験のある教員による科目（専門領域）

臨床経験: 小児看護
教員経験: 小児看護学、基礎看護学

③実務経験のある教員による科目（本務先）

毛野 和代
近畿大学附属看護専門学校

③実務経験のある教員による科目（専門領域）

臨床経験: 母性看護、精神看護学、脳神経内科
教員経験: 母性看護学・基礎看護学

④実務経験のある教員による科目（本務先）

富森 洋子
近畿大学附属看護専門学校

④実務経験のある教員による科目（専門領域）

臨床経験: 救急看護、内科看護（呼吸器・内分泌代謝・腫瘍・神経内科）、眼科
教員経験: 成人看護学

⑤実務経験のある教員による科目（本務先）

⑤実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑥実務経験のある教員による科目（本務先）

⑥実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑦実務経験のある教員による科目（本務先）

⑦実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑧実務経験のある教員による科目（本務先）

⑧実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑨実務経験のある教員による科目（本務先）

⑨実務経験のある教員による科目（専門領域）

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
1・2回目	<p>ガイダンス・グループワーク</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 科目の目標と全体的な進め方が理解できる 2. 看護実践能力とは何かを知り、主体的にその能力を磨く方法がわかる 3. 自己の課題を明確にするためのOSCE（客観的臨床能力検査）について知る 4. グループでシナリオの状況について共通理解ができる
3・4回目	<p>演習</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. グループ間で練習課題に挙げられている援助を行う上での方法・注意点が考えられる 2. 考えた方法をもとに必要な看護援助を実施することができる
5・6回目	<p>OSCE①・演習 *1名×1ステーション課題</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ステーション課題についてグループで考え実践することができる 2. OSCE①の振り返りをもとに、観察力・行動力を養うことができる 3. OSCE実施後、記録用紙を用いて個人でのリフレクションを行うことができる。
7・8回目	<p>新たなステーション課題について①</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ステーション課題についてグループで考え実践することができる
9・10回目	<p>新たなステーション課題について②</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ステーション課題についてグループで考え実践することができる
11・12回目	<p>演習・ガイダンス</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 練習課題に基づいてグループワークと技術練習が実施できる 2. OSCE②の実施方法について理解できる
13・14回目（1～4眼を使用）	<p>1名ずつOSCE②を行う。*1名×2ステーション課題</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 対象の状態や状況に応じた説明や言葉かけができる 2. 対象に必要な援助や観察点について述べるができる 3. 対象に必要な援助を原則に基づいて考え、対象に合わせて実施できる 4. 実施した援助について振り返り評価できる

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
15・16回目（試験込み）	OSCE②行為後のリフレクション（個人・グループ） 個人・グループでのリフレクションを行うことができる。 新たなステーション課題について③ 1. ステーション課題についてグループで考え実践することができる援助の必要性についての共通理解に向けたグループワークを行う